

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	運動生理学						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	身体活動による生理機能および生活習慣病予防について						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて概説する。運動は体力の増進、健康の維持だけでなく、肥満や生活習慣病の予防や治療、さらにストレスの解消に有効で、健康増進の3原則の一つである。神経系、筋肉系及び呼吸器・循環器について学び、運動すると人間の生理機能はどう変化するかについて「運動不足病」からスポーツ選手までについて概説する。また、個体としての人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活習慣の機構並びに環境変化に対する適応機構を理解する。						
到達目標	授業のテーマを理解し、管理栄養士国家試験の問題を解けるようになること。						
授業計画	1. ガイダンス、環境への対応とストレス反応 2. 健康増進と運動 3. 運動・スポーツとエネルギー 4. 運動と筋・骨系 5. 運動と循環器系 6. 運動と呼吸器系 7. 運動と神経系 8. 運動による骨格筋収縮力の維持と改善 9. 運動と体温調節機構 10. スポーツと栄養 11. 運動負荷評価法 12. 運動処方 13. 運動療法 14. 運動障害 15. まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習しておくことが望ましい（学習時間1時間）。 事後学習：授業で習った教科書の該当箇所や配布したプリントを復習しておくことが望ましい（学習時間2時間）。						
授業方法	講義：教科書ならびに授業毎に配布するプリントとパワーポイントを用いる。						
評価基準と評価方法	運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価する。 試験：70%，小テスト：30%						
履修上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用については厳禁とする。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能とする。						
教科書	ガイドライン準拠 エキスパート管理栄養士シリーズ 運動生理学（第4版） 山本順一郎 編 科学同人，ISBN978-4-7598-1249-7						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	運動生理学						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	身体活動による生理機能および生活習慣病予防について						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて概説する。運動は体力の増進、健康の維持だけでなく、肥満や生活習慣病の予防や治療、さらにストレスの解消に有効で、健康増進の3原則の一つである。神経系、筋肉系及び呼吸器・循環器について学び、運動すると人間の生理機能はどう変化するかについて「運動不足病」からスポーツ選手までについて概説する。また、個体としての人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活習慣の機構並びに環境変化に対する適応機構を理解する。						
到達目標	授業のテーマを理解し、管理栄養士国家試験の問題を解けるようになること。						
授業計画	1. ガイダンス、環境への対応とストレス反応 2. 健康増進と運動 3. 運動・スポーツとエネルギー 4. 運動と筋・骨系 5. 運動と循環器系 6. 運動と呼吸器系 7. 運動と神経系 8. 運動による骨格筋収縮力の維持と改善 9. 運動と体温調節機構 10. スポーツと栄養 11. 運動負荷評価法 12. 運動処方 13. 運動療養 14. 運動障害 15. まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習しておくことが望ましい（学習時間1時間）。 事後学習：授業で習った教科書の該当箇所や配布したプリントを復習しておくことが望ましい（学習時間2時間）。						
授業方法	講義：教科書ならびに授業毎に配布するプリントとパワーポイントを用いる。						
評価基準と評価方法	運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価する。 試験：70%，小テスト：30%						
履修上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用については厳禁とする。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能とする。						
教科書	ガイドライン準拠 エキスパート管理栄養士シリーズ 運動生理学（第4版） 山本順一郎 編 科学同人，ISBN978-4-7598-1249-7						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	運動生理学実験						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生理機能の測定						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて、運動生理学の講義に基づいて実験する。実際に運動をしている時のエネルギーと休養時における身体生理機能の違いについて、皮膚温度計や心電図、酸素量、呼吸代謝測定装置などを用いて習得する。さらに、様々な栄養特性を持つ食物を摂取したときにおける運動機能や循環器系の機能を比較することにより、ヒトの生理機能に対する摂取した食物の影響について理解を深める。						
到達目標	参加者が験者（測定する側）と被験者（測定される側）に分かれて、測定法や運動処方についての理論を理解し実践できるようになる。						
授業計画	1. ガイダンス、形態測定 2. 体力測定1（筋力、筋持久力、敏捷性） 3. 体力測定2（柔軟性、瞬発力、全身持久力） 4. 中高年用体力測定 5. 体脂肪測定 6. 血圧測定 7. 心電図、ライフコーダーの解説 8. 運動負荷試験1（心拍数） 9. 運動負荷試験2（酸素摂取量） 10. 運動負荷試験3（血糖値、乳酸値） 11. 骨量測定 12. 運動処方1（理論） 13. 運動処方2（体験） 14. レポート作成 15. プレゼンテーション（グループ発表）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理などの学習を行う。 ただし、授業時間内に完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	グループごとに測定を中心とした実習であるが、必要に応じて講義も行う。						
評価基準と評価方法	総開講回数の2/3を基準に、それ以上の出席で評価（単位取得）の対象とする。 レポート：60％、受講態度：40％ 受講態度：実習への取り組み、グループ発表の内容などを総合的に評価する。						
履修上の注意	実技ができる服装、シューズを着用すること。 グループワークが多いため、課題に真剣に取り組み協調性をもって参加すること。 体育館の利用状況によっては、授業計画の順序が変更することがある。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする（開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください）。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	運動生理学実験						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生理機能の測定						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて、運動生理学の講義に基づいて実験する。実際に運動をしている時のエネルギーと休養時における身体生理機能の違いについて、皮膚温度計や心電図、酸素量、呼吸代謝測定装置などを用いて習得する。さらに、様々な栄養特性を持つ食物を摂取したときにおける運動機能や循環器系の機能を比較することにより、ヒトの生理機能に対する摂取した食物の影響について理解を深める。						
到達目標	参加者が験者（測定する側）と被験者（測定される側）に分かれて、測定法や運動処方についての理論を理解し実践できるようになる。						
授業計画	1. ガイダンス、形態測定 2. 体力測定1（筋力、筋持久力、敏捷性） 3. 体力測定2（柔軟性、瞬発力、全身持久力） 4. 中高年用体力測定 5. 体脂肪測定 6. 血圧測定 7. 心電図、ライフコーダーの解説 8. 運動負荷試験1（心拍数） 9. 運動負荷試験2（酸素摂取量） 10. 運動負荷試験3（血糖値、乳酸値） 11. 骨量測定 12. 運動処方1（理論） 13. 運動処方2（体験） 14. レポート作成 15. プレゼンテーション（グループ発表）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理などの学習を行う。ただし、授業時間内に完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	グループごとに測定を中心とした実習であるが、必要に応じて講義も行う。						
評価基準と評価方法	総開講回数の2/3を基準に、それ以上の出席で評価（単位取得）の対象とする。 レポート：60％、受講態度：40％ 受講態度：実習への取り組み、グループ発表の内容などを総合的に評価する。						
履修上の注意	実技ができる服装、シューズを着用すること。 グループワークが多いため、課題に真剣に取り組み協調性をもって参加すること。 体育館の利用状況によっては、授業計画の順序が変更することがある。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする（開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください）。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養疫学						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養学に適用した疫学研究およびその方法論の理解						
授業の概要	「保健統計・疫学」で学んだ疫学の基礎を踏まえ、栄養性曝露に重点をおいた学びを深める。めまぐるしく変化する栄養性曝露情報（栄養素、食品、食行動など）と帰結となる健康事象の関係を正しく読み取り、活用する方法論を学ぶ。さらに、科学的根拠に基づく公衆衛生学、公衆栄養学を理解する。						
到達目標	栄養関連統計と調査を概説できる。 疫学研究の方法及び食事調査法を理解する。 疫学・栄養疫学に係る指標を算出し正しく解釈できる。 管理栄養士国家試験該当範囲の問題が解ける。						
授業計画	1. 疫学・栄養疫学の基礎と歴史 2. 疫学研究の方法 3. 記述疫学の理論と事例 4. 分析疫学の理論と事例 5. 介入研究の理論と事例 6. 疾病頻度 - 指標の算出と解釈 7. 曝露効果の測定 - 指標の算出と解釈 8. スクリーニング - 理論と事例 9. スクリーニング - 指標の算出と解釈 10. 前半まとめ 中間試験 11. 根拠に基づく公衆衛生 (EBPH)、栄養学 (EBN)、栄養指導 (EBNG) 12. 栄養関連統計と調査 13. 栄養疫学手法－理論（食事調査と評価） 14. 栄養疫学手法－事例（食事調査と評価） 15. まとめ 期末試験 ※原則として木曜3限ですが、2限と3限または3限と4限の2コマ連続で講義をおこなう場合があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後は配布プリントを必ず復習し単語帳に整理する。 計算問題は解けるようになるまで繰り返し行う。 ICTによる練習課題を期日までに行う。 各30分程度。						
授業方法	講義 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 講義の理解度等について小テストによる確認を行う。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験・期末試験・小テスト90%						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 実習による欠席は必ず事前に欠席届を提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	1年次の「社会と健康」、 「健康・環境論」、2年次の「保健統計・疫学」で使用した教科書						
参考書	国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 疫学マニュアル 2018 南山堂 公衆衛生が見える 2016-2017 メディックメディア はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版 日本疫学会 南江堂						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育実習Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理論と技術を実践で学習する						
授業の概要	行動科学やカウンセリング等の理論と応用について実習を通じて学ぶ。アンケート調査の仕方、データ処理の方法などを学び、生活時間調査、食生活調査、身体状況の評価など、栄養教育に必要な食生活のデータを得る技術を習得する。次いでデータをもとに栄養状態を評価、問題点を明らかにし、栄養マネジメントプランを作成する方法を学ぶ。さらに栄養マネジメントを実施するための栄養カウンセリング法、教材・媒体の使い方、栄養マネジメント実施後のモニタリング、評価、フィードバックについて学び、栄養教育に必要な技術を習得する。						
到達目標	(1) 個人を対象とした栄養教育において、栄養教育プログラムを立案し、行動変容の支援ができる。【汎用的技能】 (2) 集団を対象とした栄養教育において、科学的根拠に基づいた栄養教育媒体が作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養教育マネジメント・アセスメントに必要な実測法（食事摂取内容、食行動など）の説明 第2回 アセスメントの方法：質問紙法、二次データの利用 第3回 栄養教育の基礎知識①：科学的根拠の確認 第4回 栄養教育の基礎知識②：教育媒体作成の基礎知識 第5回 栄養教育の基礎知識③：栄養教育媒体の作成実習 第6回 栄養教育の基礎知識④：プレゼンテーション技術 第7回 栄養教育の基礎知識⑤：コミュニケーション技術 第8回 食事摂取内容、食行動などのアセスメント 第9回 アセスメントの方法：集団面接法、フォーカスグループインタビュー 第10回 栄養カウンセリングを応用した個人面接 第11回 個人面接による目標設定と栄養教育プログラムの作成 第12回 栄養教育プログラムの実施：行動変容技法の応用（セルフモニタリング、オペラント強化法） 第13回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第14回 栄養教育プログラムの実施：行動変容技法の応用（意志決定バランス、反応妨害拮抗法、行動置換） 第15回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第16回 個人面接による個人の目標設定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	栄養マネジメントに必要なデータ収集、データのアセスメント、栄養教育プログラムの準備、評価に対する考察を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。PCで作成した教材を用いてプレゼンテーションを行い、クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行う。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育マネジメントの課程の理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	1. 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN：978-4-7679-0504-4 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 2. 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育実習Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理論と技術を実践で学習する						
授業の概要	行動科学やカウンセリング等の理論と応用について実習を通じて学ぶ。アンケート調査の仕方、データ処理の方法などを学び、生活時間調査、食生活調査、身体状況の評価など、栄養教育に必要な食生活のデータを得る技術を習得する。次いでデータをもとに栄養状態を評価、問題点を明らかにし、栄養マネジメントプランを作成する方法を学ぶ。さらに栄養マネジメントを実施するための栄養カウンセリング法、教材・媒体の使い方、栄養マネジメント実施後のモニタリング、評価、フィードバックについて学び、栄養教育に必要な技術を習得する。						
到達目標	(1) 個人を対象とした栄養教育において、栄養教育プログラムを立案し、行動変容の支援ができる。【汎用的技能】 (2) 集団を対象とした栄養教育において、科学的根拠に基づいた栄養教育媒体が作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養教育マネジメント・アセスメントに必要な実測法（食事摂取内容、食行動など）の説明 第2回 アセスメントの方法：質問紙法、二次データの利用 第3回 栄養教育の基礎知識①：科学的根拠の確認 第4回 栄養教育の基礎知識②：教育媒体作成の基礎知識 第5回 栄養教育の基礎知識③：栄養教育媒体の作成実習 第6回 栄養教育の基礎知識④：プレゼンテーション技術 第7回 栄養教育の基礎知識⑤：コミュニケーション技術 第8回 食事摂取内容、食行動などのアセスメント 第9回 アセスメントの方法：集団面接法、フォーカスグループインタビュー 第10回 栄養カウンセリングを応用した個人面接 第11回 個人面接による目標設定と栄養教育プログラムの作成 第12回 栄養教育プログラムの実施：行動変容技法の応用（セルフモニタリング、オペラント強化法） 第13回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第14回 栄養教育プログラムの実施：行動変容技法の応用（意志決定バランス、反応妨害拮抗法、行動置換） 第15回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第16回 個人面接による個人の目標設定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	栄養マネジメントに必要なデータ収集、データのアセスメント、栄養教育プログラムの準備、評価に対する考察を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。PCで作成した教材を用いてプレゼンテーションを行い、クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行う。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育マネジメントの課程の理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	1. 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN：978-4-7679-0504-4 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 2. 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育実習Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	ライフスタイル・ライフステージの栄養教育プログラムを計画、実施、評価を行う。						
授業の概要	身体的、精神的、社会的状況等ライフスタイルおよびライフステージに応じた栄養教育のあり方、カウンセリングの方法などについて学ぶ。栄養教育実習Ⅰで学んだ方法を用いて、ライフスタイルおよびライフステージ別対象者の栄養マネジメントプランを作成し、媒体等を用いながら栄養教育の実践について実習により技術を習得する。						
到達目標	(1)個人を対象とした栄養教育において、対象者にあった栄養診断を行い、動機付け面接法、コーチング等の手法を用いて、模擬面接ができる。【汎用的技能】 (2)集団を対象とした栄養教育において、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育プログラム立案、実施し、プログラムの実施後に評価とフィードバックができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養教育実習Ⅰの復習 （個人を対象とした栄養教育） 第2回 評価のためのアセスメント 第3回 アセスメントデータの分析 第4回 前後比較デザインによる栄養教育の評価 （集団を対象とした栄養教育） 第5回 対象集団のアセスメント 第6回 アセスメントデータの分析 第7回 栄養教育プログラムの作成 第8回 学習指導要領の作成 第9回 学習目標を達成するための教育内容の決定 第10回 栄養教育方法の決定 第11回 学習目標に応じた教材・教具の作成 第12回 栄養教育実施者の訓練 第13回 栄養教育プログラムの実施 第14回 栄養教育プログラムの評価 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習および復習 授業内容に関する課題の作成に関する情報収集を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。グループでライフステージ別の集団栄養教育を行い、クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行う。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、プログラム構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育プログラムに関する知識やスキルの理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	栄養教育論Ⅱで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN：978-4-7679-0504-4						
参考書	上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を参考書として使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育実習Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	ライフスタイル・ライフステージの栄養教育プログラムを計画、実施、評価を行う。						
授業の概要	身体的、精神的、社会的状況等ライフスタイルおよびライフステージに応じた栄養教育のあり方、カウンセリングの方法などについて学ぶ。栄養教育実習Ⅰで学んだ方法を用いて、ライフスタイルおよびライフステージ別対象者の栄養マネジメントプランを作成し、媒体等を用いながら栄養教育の実践について実習により技術を習得する。						
到達目標	(1)個人を対象とした栄養教育において、対象者にあった栄養診断を行い、動機付け面接法、コーチング等の手法を用いて、模擬面接ができる。【汎用的技能】 (2)集団を対象とした栄養教育において、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育プログラム立案、実施し、プログラムの実施後に評価とフィードバックができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養教育実習Ⅰの復習 （個人を対象とした栄養教育） 第2回 評価のためのアセスメント 第3回 アセスメントデータの分析 第4回 前後比較デザインによる栄養教育の評価 （集団を対象とした栄養教育） 第5回 対象集団のアセスメント 第6回 アセスメントデータの分析 第7回 栄養教育プログラムの作成 第8回 学習指導要領の作成 第9回 学習目標を達成するための教育内容の決定 第10回 栄養教育方法の決定 第11回 学習目標に応じた教材・教具の作成 第12回 栄養教育実施者の訓練 第13回 栄養教育プログラムの実施 第14回 栄養教育プログラムの評価 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習および復習 授業内容に関する課題の作成に関する情報収集を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。グループでライフステージ別の集団栄養教育を行い、クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行う。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、プログラム構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育プログラムに関する知識やスキルの理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	栄養教育論Ⅱで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN：978-4-7679-0504-4						
参考書	上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を参考書として使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育に関わる基礎学問領域について、概要を理解する。						
授業の概要	栄養教育論では、対象者へ栄養教育の方法を学び、実践に応用できる能力を習得することを目的とする。対象者のアセスメントに基づいた栄養教育プログラムを計画立案し、実施、評価した後、フィードバックを行うという、一連の栄養教育の方法を学び、実践的に展開できる能力を習得する。栄養教育論Ⅰでは、栄養教育の意義や特性を理解し、栄養教育マネジメントの全体像を把握する。栄養教育に関わる基礎学問領域について概要を理解し、栄養教育の実践へとつなげていく。						
到達目標	(1) 栄養教育に関わる基礎学問領域について説明できる。【知識・理解】 (2) 栄養教育の状況を設定した場で、行動変容理論やモデルを説明することができる。【知識・理解】 (3) 栄養カウンセリングの意義や特徴を説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育の概念 第2回 日本人の食生活の変化 第3回 栄養教育のための理論的基礎 (1) 行動科学理論と栄養教育 ① 栄養教育の課題に応じた理論の選択と展開 ② 栄養教育マネジメントにおける理論の活用 (2) 行動科学の理論とモデル ① 刺激-反応理論（レスポナント条件付け、オペラント条件づけ） ② ヘルスビリーフモデル（健康信念モデル） 第4回 ③ トランスセオレティカルモデル：行動変容ステージの準備性 第5回 ③ トランスセオレティカルモデル：変容の課程 第6回 ④ 計画的行動理論（合理的行動理論） 第7回 ④ 社会的認知理論（社会的学習理論） 第8回 ⑤ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第9回 ⑤ 行動科学のまとめ・小テスト 第10回 行動変容技法 第11回 栄養教育プログラムでの行動変容技法の応用 第12回 栄養カウンセリングの基礎的知識 第13回 栄養カウンセリングの実施時の留意事項 第14回 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 第15回 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 第16回 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：授業で取り上げた内容についてプリントの課題について、疑問点や難しい点について、数人のグループでディスカッションをしながら取り組む。食生活の評価に関して、PCを使用する場合がある。小テストとレポートは松蔭manabaを利用する。						
評価基準と評価方法	期末試験：60%、小テスト：30%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育論の基礎学問領域の理解度、栄養教育で活用できる行動変容理論やモデルの理解度、栄養カウンセリングの概念およびキーワードの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 小テスト：第3回～第9回で取り上げた行動変容理論やモデルの理解度について確認する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は禁止する。 出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育に関わる基礎学問領域について、概要を理解する。						
授業の概要	栄養教育論では、対象者へ栄養教育の方法を学び、実践に応用できる能力を習得することを目的とする。対象者のアセスメントに基づいた栄養教育プログラムを計画立案し、実施、評価した後、フィードバックを行うという、一連の栄養教育の方法を学び、実践的に展開できる能力を習得する。栄養教育論Ⅰでは、栄養教育の意義や特性を理解し、栄養教育マネジメントの全体像を把握する。栄養教育に関わる基礎学問領域について概要を理解し、栄養教育の実践へとつなげていく。						
到達目標	(1) 栄養教育に関わる基礎学問領域について説明できる。【知識・理解】 (2) 栄養教育の状況を設定した場で、行動変容理論やモデルを説明することができる。【知識・理解】 (3) 栄養カウンセリングの意義や特徴を説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育の概念 第2回 日本人の食生活の変化 第3回 栄養教育のための理論的基礎 (1) 行動科学理論と栄養教育 ① 栄養教育の課題に応じた理論の選択と展開 ② 栄養教育マネジメントにおける理論の活用 (2) 行動科学の理論とモデル ① 刺激-反応理論（レスポナント条件付け、オペラント条件づけ） ② ヘルスビリーフモデル（健康信念モデル） 第4回 ③ トランスセオレティカルモデル：行動変容ステージの準備性 第5回 ④ トランスセオレティカルモデル：変容の課程 第6回 ⑤ 計画的行動理論（合理的行動理論） 第7回 ⑥ 社会的認知理論（社会的学習理論） 第8回 ⑦ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第9回 ⑧ 行動科学のまとめ・小テスト 第10回 ⑨ 行動変容技法 第11回 ⑩ 栄養教育プログラムでの行動変容技法の応用 第12回 ⑪ 栄養カウンセリングの基礎的知識 第13回 ⑫ 栄養カウンセリングの実施時の留意事項 第14回 ⑬ まとめ 第15回 ⑭ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：授業で取り上げた内容についてプリントの課題について、疑問点や難しい点について、数人のグループでディスカッションをしながら取り組む。食生活の評価に関して、PCを使用する場合がある。小テストとレポートは松蔭manabaを利用する。						
評価基準と評価方法	期末試験：60%、小テスト：30%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育論の基礎学問領域の理解度、栄養教育で活用できる行動変容理論やモデルの理解度、栄養カウンセリングの概念およびキーワードの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 小テスト：第3回～第9回で取り上げた行動変容理論やモデルの理解度について確認する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は禁止する。 出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養マネジメントに必要な基礎知識を学ぶ。						
授業の概要	健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集の方法・分析法、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。さらに対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、栄養アセスメントの方法と栄養マネジメントに関する基礎理論を学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育マネジメントの流れと関連する理論やモデルを説明できる。【知識・理解】 (2) 対象者の個人要因と環境要因のアセスメントに関する基礎知識を説明できる。【知識・理解】 (3) アセスメントの結果を基に、栄養教育プログラムを作成できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論Ⅰの復習 第2回 栄養教育マネジメント 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第3回 ①アセスメントの種類と方法 第4回 ②行動記録・行動分析によるアセスメント 第5回 ③個人要因のアセスメント 第6回 ④環境要因のアセスメント 食環境と栄養教育 集団や社会を対象にした行動変容理論 第7回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル ①プリシード・プロシードモデル 第8回 ②ソーシャルマーケティング 第9回 ③生態学的モデル 第10回 栄養教育の目標設定 第11回 栄養教育計画の作成のための基礎知識 第12回 ①学習形態の選択 第13回 ②教材、媒体の選択 第14回 栄養教育プログラムの作成方法 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第3回～第6回の授業では、授業の題材として、各自の食生活を取り上げる。授業までに食生活調査およびデータの整理を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：栄養教育マネジメントを学ぶための具体例として、各自の食生活の問題を取り上げる。食生活の評価に、PCを使用する。レポートは松陰manabaを利用する。 授業計画の15回の授業を、週2回の授業で連続して行う。						
評価基準と評価方法	期末試験：50%、提出物：20%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育マネジメントに関する基礎知識の理解度について確認する。到達目標(1) (2) (3)に関する到達度の確認。 提出物：食生活の栄養教育マネジメントの課程で整理した内容の理解度を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 レポート：アセスメント結果に基づいた栄養教育計画を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養マネジメントに必要な基礎知識を学ぶ。						
授業の概要	健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集の方法・分析法、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。さらに対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、栄養アセスメントの方法と栄養マネジメントに関する基礎理論を学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育マネジメントの流れと関連する理論やモデルを説明できる。【知識・理解】 (2) 対象者の個人要因と環境要因のアセスメントに関する基礎知識を説明できる。【知識・理解】 (3) アセスメントの結果を基に、栄養教育プログラムを作成できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論Ⅰの復習 第2回 栄養教育マネジメント 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第3回 ①アセスメントの種類と方法 第4回 ②行動記録・行動分析によるアセスメント 第5回 ③個人要因のアセスメント 第6回 ④環境要因のアセスメント 食環境と栄養教育 集団や社会を対象にした行動変容理論 第7回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル ①プリシード・プロシードモデル 第8回 ②ソーシャルマーケティング 第9回 ③生態学的モデル 第10回 栄養教育の目標設定 第11回 栄養教育計画の作成のための基礎知識 第12回 ①学習形態の選択 第13回 ②教材、媒体の選択 第14回 栄養教育プログラムの作成方法 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第3回～第6回の授業では、授業の題材として、各自の食生活を取り上げる。授業までに食生活調査およびデータの整理を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：栄養教育マネジメントを学ぶための具体例として、各自の食生活の問題を取り上げる。食生活の評価に、PCを使用する。レポートは松陰manabaを利用する。 授業計画の15回の授業を、週2回の授業で連続して行う。						
評価基準と評価方法	期末試験：50%、提出物：20%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育マネジメントに関する基礎知識の理解度について確認する。到達目標(1) (2) (3)に関する到達度の確認。 提出物：食生活の栄養教育マネジメントの課程で整理した内容の理解度を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 レポート：アセスメント結果に基づいた栄養教育計画を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	前期 前半	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養マネジメントに必要な基礎知識を学ぶ。						
授業の概要	健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集の方法・分析法、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。さらに対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、栄養アセスメントの方法と栄養マネジメントに関する基礎理論を学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育マネジメントの流れと関連する理論やモデルを説明できる。【知識・理解】 (2) 対象者の個人要因と環境要因のアセスメントに関する基礎知識を説明できる。【知識・理解】 (3) アセスメントの結果を基に、栄養教育プログラムを作成できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論Ⅰの復習 第2回 栄養教育マネジメント 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第3回 ①アセスメントの種類と方法 第4回 ②行動記録・行動分析によるアセスメント 第5回 ③個人要因のアセスメント 第6回 ④環境要因のアセスメント 食環境と栄養教育 集団や社会を対象にした行動変容理論 第7回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル ①プリシード・プロシードモデル 第8回 ②ソーシャルマーケティング 第9回 ③生態学的モデル 第10回 栄養教育の目標設定 第11回 栄養教育計画の作成のための基礎知識 第12回 ①学習形態の選択 第13回 ②教材、媒体の選択 第14回 栄養教育プログラムの作成方法 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第3回～第6回の授業では、授業の題材として、各自の食生活を取り上げる。授業までに食生活調査およびデータの整理を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：栄養教育マネジメントを学ぶための具体例として、各自の食生活の問題を取り上げる。食生活の評価に、PCを使用する。レポートは松陰manabaを利用する。 授業計画の15回の授業を、週2回の授業で連続して行う。						
評価基準と評価方法	期末試験：50%、提出物：20%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育マネジメントに関する基礎知識の理解度について確認する。到達目標(1) (2) (3)に関する到達度の確認。 提出物：食生活の栄養教育マネジメントの課程で整理した内容の理解度を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 レポート：アセスメント結果に基づいた栄養教育計画を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	前期 前半	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養マネジメントに必要な基礎知識を学ぶ。						
授業の概要	健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集の方法・分析法、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。さらに対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、栄養アセスメントの方法と栄養マネジメントに関する基礎理論を学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育マネジメントの流れと関連する理論やモデルを説明できる。【知識・理解】 (2) 対象者の個人要因と環境要因のアセスメントに関する基礎知識を説明できる。【知識・理解】 (3) アセスメントの結果を基に、栄養教育プログラムを作成できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論Ⅰの復習 第2回 栄養教育マネジメント 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第3回 ①アセスメントの種類と方法 第4回 ②行動記録・行動分析によるアセスメント 第5回 ③個人要因のアセスメント 第6回 ④環境要因のアセスメント 食環境と栄養教育 集団や社会を対象にした行動変容理論 第7回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル ①プリシード・プロシードモデル 第8回 ②ソーシャルマーケティング 第9回 ③生態学的モデル 第10回 栄養教育の目標設定 第11回 栄養教育計画の作成のための基礎知識 第12回 ①学習形態の選択 第13回 ②教材、媒体の選択 第14回 栄養教育プログラムの作成方法 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第3回～第6回の授業では、授業の題材として、各自の食生活を取り上げる。授業までに食生活調査およびデータの整理を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：栄養教育マネジメントを学ぶための具体例として、各自の食生活の問題を取り上げる。食生活の評価に、PCを使用する。レポートは松陰manabaを利用する。 授業計画の15回の授業を、週2回の授業で連続して行う。						
評価基準と評価方法	期末試験：50%、提出物：20%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育マネジメントに関する基礎知識の理解度について確認する。到達目標(1) (2) (3)に関する到達度の確認。 提出物：食生活の栄養教育マネジメントの課程で整理した内容の理解度を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 レポート：アセスメント結果に基づいた栄養教育計画を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅲ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育マネジメントの評価について学ぶ。 ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のプログラムの作成に必要な知識を学ぶ						
授業の概要	特にこの栄養教育論Ⅲでは妊娠・授乳期、成人期、高齢期、障害者についての栄養教育の方法を学ぶ。成人期の栄養教育では生活習慣病の予防・治療、労働、職場給食、外食、単身生活などに関する栄養教育の方法、高齢期の栄養教育では寝たきり予防、QOL、介護、食事サービスに関する栄養教育の方法について修得する。さらに特定給食における栄養教育について学ぶ。						
到達目標	・栄養教育プログラムの評価の種類を説明できる。【知識・理解】 ・ライフステージ、ライフスタイルの特徴を把握して、ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育プログラムの特徴を説明できる。【知識・理解】 ・ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育に活用できる行動変容理論やモデルなど（栄養教育論ⅠおよびⅡで学んだ内容）を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論ⅠおよびⅡの復習 第2回 栄養教育マネジメント 栄養教育の実施・評価 第3回 栄養教育の評価 第4回 栄養教育の経済評価 第5回 ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育の留意事項 第6回 妊娠・授乳期の栄養教育プログラム 第7回 乳幼児期の栄養教育の留意事項 第8回 乳幼児期の栄養教育プログラム 第9回 学童期・思春期の栄養教育の留意事項 第10回 学童期・思春期の栄養教育プログラム 第11回 成人期の栄養教育 ① 成人期の栄養教育の特徴と留意事項 ② 特定保健指導 第12回 ③ 成人期の栄養教育プログラムにおける行動変容 第13回 高齢期の栄養教育の留意事項 第14回 傷病者及び障がい者の栄養教育 第15回 まとめおよび試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	期末試験：70%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育プログラムの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 レポート：栄養教育論ⅠおよびⅡで学んだ行動変容理論やモデルの理解度について確認する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、小テストまたはレポート30%、平常点（授業の受講態度など）10% 期末試験の試験範囲は、栄養教育論Ⅰおよび栄養教育論Ⅱの内容も含みます。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	栄養教育論Ⅲ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育マネジメントの評価について学ぶ。 ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のプログラムの作成に必要な知識を学ぶ						
授業の概要	特にこの栄養教育論Ⅲでは妊娠・授乳期、成人期、高齢期、障害者についての栄養教育の方法を学ぶ。成人期の栄養教育では生活習慣病の予防・治療、労働、職場給食、外食、単身生活などに関する栄養教育の方法、高齢期の栄養教育では寝たきり予防、QOL、介護、食事サービスに関する栄養教育の方法について修得する。さらに特定給食における栄養教育について学ぶ。						
到達目標	・栄養教育プログラムの評価の種類を説明できる。【知識・理解】 ・ライフステージ、ライフスタイルの特徴を把握して、ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育プログラムの特徴を説明できる。【知識・理解】 ・ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育に活用できる行動変容理論やモデルなど（栄養教育論ⅠおよびⅡで学んだ内容）を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論ⅠおよびⅡの復習 第2回 栄養教育マネジメント 栄養教育の実施・評価 第3回 栄養教育の評価 第4回 栄養教育の経済評価 第5回 ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育の留意事項 第6回 妊娠・授乳期の栄養教育プログラム 第7回 乳幼児期の栄養教育の留意事項 第8回 乳幼児期の栄養教育プログラム 第9回 学童期・思春期の栄養教育の留意事項 第10回 学童期・思春期の栄養教育プログラム 第11回 成人期の栄養教育 ① 成人期の栄養教育の特徴と留意事項 ② 特定保健指導 第12回 ③成人期の栄養教育プログラムにおける行動変容 第13回 高齢期の栄養教育の留意事項 第14回 傷病者及び障がい者の栄養教育 第15回 まとめおよび試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	期末試験：70%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育プログラムの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 レポート：栄養教育論ⅠおよびⅡで学んだ行動変容理論やモデルの理解度について確認する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、小テストまたはレポート30%、平常点（授業の受講態度など）10% 期末試験の試験範囲は、栄養教育論Ⅰおよび栄養教育論Ⅱの内容も含みます。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。						
教科書	栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学Ⅰ						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養ケア・マネジメントの概要、意義、方法を学び、ヒトの各ライフサイクルにおける栄養アセスメントが出来る能力を養い、ライフステージにおける基本的な活用方法を理解する。						
授業の概要	栄養ケア・マネジメントを構成する要素(栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、評価、モニタリング、フィードバック)についての定義と意義、方法を学び、各ライフステージにおける活用方法について理解する。ライフステージ(妊娠期・授乳期)の栄養アセスメントと栄養ケアについての基礎的知識を習得する。						
到達目標	栄養ケア・マネジメントの基本構造を理解して説明出来る。 ライフステージ(妊娠期・授乳期)の特徴的な食習慣、生活習慣、病態について理解する。						
授業計画	第1回 栄養ケア・マネジメントの概要 第2回 栄養スクリーニング 第3回 栄養アセスメント：臨床診査と臨床検査 第4回 栄養アセスメント：身体計測、食事調査法 第5回 栄養ケア計画、評価、モニタリング、フィードバック 第6回 ライフステージと食事摂取基準 第7回 成長・発達、加齢（老化）の概念とライフステージ 第8回 加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養 第9回 アレルギーの免疫学的機序、症状、診断、アレルゲン、食品表示 第10回 アレルギーの食事療法、耐性獲得、各アレルゲンの性質 第11回 妊娠期の生理的特徴と栄養アセスメント 第12回 妊娠期の病態・疾患と栄養ケア 第13回 授乳期の生理的特徴と栄養アセスメント 第14回 授乳期の病態・疾患と栄養ケア 第15回 授業内容のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習しておくこと。（学習時間1時間） 授業後学習：内容と用語をノートにまとめ復習すること。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：食事調査結果や臨床検査データについてペアまたはグループによるディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）30% 試験70%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については平常点より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学Ⅰ						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養ケア・マネジメントの概要、意義、方法を学び、ヒトの各ライフサイクルにおける栄養アセスメントが出来る能力を養い、ライフステージにおける基本的な活用方法を理解する。						
授業の概要	栄養ケア・マネジメントを構成する要素(栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、評価、モニタリング、フィードバック)についての定義と意義、方法を学び、各ライフステージにおける活用方法について理解する。ライフステージ(妊娠期・授乳期)の栄養アセスメントと栄養ケアについての基礎的知識を習得する。						
到達目標	栄養ケア・マネジメントの基本構造を理解して説明出来る。 ライフステージ（妊娠期・授乳期）の特徴的な食習慣、生活習慣、病態について理解する。						
授業計画	第1回 栄養ケア・マネジメントの概要 第2回 栄養スクリーニング 第3回 栄養アセスメント：臨床診査と臨床検査 第4回 栄養アセスメント：身体計測、食事調査法 第5回 栄養ケア計画、評価、モニタリング、フィードバック 第6回 ライフステージと食事摂取基準 第7回 成長・発達、加齢（老化）の概念とライフステージ 第8回 加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養 第9回 アレルギーの免疫学的機序、症状、診断、アレルゲン、食品表示 第10回 アレルギーの食事療法、耐性獲得、各アレルゲンの性質 第11回 妊娠期の生理的特徴と栄養アセスメント 第12回 妊娠期の病態・疾患と栄養ケア 第13回 授乳期の生理的特徴と栄養アセスメント 第14回 授乳期の病態・疾患と栄養ケア 第15回 授業内容のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習しておくこと。（学習時間1時間） 授業後学習：内容と用語をノートにまとめ復習すること。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：食事調査結果や臨床検査データについてペアまたはグループによるディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）30% 試験70%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については平常点より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学Ⅱ						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各ライフステージにおける生理的特徴に基づいた栄養管理についての基礎的知識を習得する。						
授業の概要	身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・更年期における栄養アセスメント、病態、栄養ケアのあり方について習得する。						
到達目標	成長・発達・加齢とともに変化する人体の生理的特徴について説明出来る。 各ライフステージにおける特徴的な食習慣、生活習慣、病態について理解する。 各ライフステージにおける栄養アセスメント、栄養ケアについて説明出来る						
授業計画	第1回 新生児・乳児期の生理的特徴と栄養の特徴 第2回 新生児・乳児期の栄養アセスメント 第3回 新生児・乳児期の病態・疾患と栄養ケア 第4回 幼児期の生理的特徴 第5回 幼児期の栄養アセスメント 第6回 幼児期の病態・疾患と栄養ケア 第7回 学童期の生理的特徴と栄養アセスメント 第8回 学童期の病態・疾患と栄養ケア 第9回 思春期の生理的特徴と栄養アセスメント 第10回 思春期の病態・疾患と栄養ケア 第11回 成人期の生理的特徴 第12回 成人期の病態・疾患と生活習慣 第13回 成人期の栄養ケアのあり方 第14回 更年期（閉経期）の栄養アセスメントと栄養ケア 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習しておくこと。（学習時間1時間） 授業後学習：内容と用語をノートにまとめ復習すること。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：各ライフステージにおける症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）30% 試験70%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については平常点より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学Ⅱ						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各ライフステージにおける生理的特徴に基づいた栄養管理についての基礎的知識を習得する。						
授業の概要	身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・更年期における栄養アセスメント、病態、栄養ケアのあり方について習得する。						
到達目標	成長・発達・加齢とともに変化する人体の生理的特徴について説明出来る。 各ライフステージにおける特徴的な食習慣、生活習慣、病態について理解する。 各ライフステージにおける栄養アセスメント、栄養ケアについて説明出来る						
授業計画	第1回 新生児・乳児期の生理的特徴と栄養の特徴 第2回 新生児・乳児期の栄養アセスメント 第3回 新生児・乳児期の病態・疾患と栄養ケア 第4回 幼児期の生理的特徴 第5回 幼児期の栄養アセスメント 第6回 幼児期の病態・疾患と栄養ケア 第7回 学童期の生理的特徴と栄養アセスメント 第8回 学童期の病態・疾患と栄養ケア 第9回 思春期の生理的特徴と栄養アセスメント 第10回 思春期の病態・疾患と栄養ケア 第11回 成人期の生理的特徴 第12回 成人期の病態・疾患と生活習慣 第13回 成人期の栄養ケアのあり方 第14回 更年期（閉経期）の栄養アセスメントと栄養ケア 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習しておくこと。（学習時間1時間） 授業後学習：内容と用語をノートにまとめ復習すること。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：各ライフステージにおける症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）30% 試験70%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については平常点より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学Ⅲ						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ライフステージ（高齢期）並びに、運動・スポーツ、ストレス、特殊環境（高温・低温・高圧・低圧・無重力）と栄養について基礎的な知識を習得する。						
授業の概要	高齢期の生理的・栄養学的特徴、栄養アセスメント、病態、栄養ケアのあり方について習得する。また、健康増進、疾病予防に寄与する身体活動・運動およびトレーニング時のエネルギー代謝や栄養補給について学ぶ。環境と栄養では、ストレスや生体リズム、高温と低温、高圧と低圧、無重力環境における生理的特徴と栄養について学ぶ。						
到達目標	ライフステージ（高齢期）の特徴的な食習慣、生活習慣、病態について理解する。 身体活動・運動の種類、方法、意義について説明出来る。 特殊環境下における生理的機能の変化について説明出来る。						
授業計画	第1回 高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント 第2回 高齢期の病態・疾患と生活習慣(1) 第3回 高齢期の病態・疾患と生活習慣(2) 第4回 高齢期の栄養ケアのあり方 第5回 ライフステージまとめ 第6回 運動・スポーツの目的とエネルギー代謝 第7回 健康増進と運動 第8回 トレーニングと栄養ケアのあり方 第9回 ストレスと栄養ケア 第10回 生体リズムと栄養 第11回 高温環境：病態と栄養 第12回 低温環境：馴化と栄養 第13回 高圧・低圧環境と栄養 第14回 無重力環境と栄養、宇宙食、災害時の栄養 第15回 授業内容のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習しておくこと。（学習時間1時間） 授業後学習：内容と用語をノートにまとめ復習すること。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：高齢期、スポーツ時、特殊環境における症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）30% 試験70%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については平常点より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	各ライフステージの栄養上の特性を理解し、個々の事例に基づいた栄養アセスメントの方法を理解する。						
授業の概要	応用栄養学で学んだ知識を基に、ライフステージ別の栄養管理について演習・実習を通して学ぶ。ライフステージ別の症例に対して、対象者の栄養状態を評価・判定し、その結果に基づいた栄養ケア計画、食事計画、献立作成を行い、発表する。作成した献立を基に調理する。						
到達目標	各ライフステージにおける栄養アセスメント・栄養ケアの基本技能を修得する。 発達段階に応じ、離乳食・幼児食に適した食品選択および調理が出来る。 高齢者の摂取量・摂食機能に応じた食事設計および調理が出来る。 他者に伝わるプレゼンテーションが出来る。						
授業計画	第1回 【講義】 オリエンテーション、実習の進め方、課題・レポートについての説明 第2回 【演習】 大学生の栄養マネジメント：身体計測、食事調査、生活状況調査 第3回 【演習】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第4回 【発表】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第5回 【実習】 各種調整粉乳とベビーフードの食味試験 第6回 【演習】 乳児期・幼児期の栄養アセスメント 第7回 【実習】 幼児のお弁当、おやつ調理実習 第8回 【演習・発表】 学童期、思春期の栄養マネジメント 第9回 【演習・発表】 成人期の栄養マネジメント 第10回 【実習】 ユニバーサルデザインフード、ソフト食の食味試験 第11回 【演習】 高齢期の栄養マネジメント 第12回 【発表】 高齢期の栄養 第13回 【実習】 高齢期の調理実習 第14回 【演習】 運動・スポーツと栄養 第15回 【発表】 運動・スポーツと栄養						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題1：秤量記録法による1日の食事調査と栄養価計算および生活状況調査 課題2：各ライフステージにおける症例検討のレポート作成 課題3：献立作成、栄養価計算、発注書作成 授業前後：栄養ケア・マネジメントに必要な情報収集、データ整理、発表準備、課題作成						
授業方法	講義・演習・実習						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）30% 発表 10% 課題・レポート 60%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 調理室では指定の実習着と靴を着用すること。（貸借は認めない） 授業中の携帯電話の使用は禁止する。						
教科書	「応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理 第3版」、東愛子・原田まつ子・牧野登志子・白尾美佳編、講談社、ISBN978-4-06-139839-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「七訂 食品成分表 2018」、香川明夫監修、女子栄養大学出版社、2018年、ISBN978-4-7895-1018-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用栄養学実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	各ライフステージの栄養上の特性を理解し、個々の事例に基づいた栄養アセスメントの方法を理解する。						
授業の概要	応用栄養学で学んだ知識を基に、ライフステージ別の栄養管理について演習・実習を通して学ぶ。ライフステージ別の症例に対して、対象者の栄養状態を評価・判定し、その結果に基づいた栄養ケア計画、食事計画、献立作成を行い、発表する。作成した献立を基に調理する。						
到達目標	各ライフステージにおける栄養アセスメント・栄養ケアの基本技能を修得する。 発達段階に応じ、離乳食・幼児食に適した食品選択および調理が出来る。 高齢者の摂取量・摂食機能に応じた食事設計および調理が出来る。 他者に伝わるプレゼンテーションが出来る。						
授業計画	第1回 【講義】 オリエンテーション、実習の進め方、課題・レポートについての説明 第2回 【演習】 大学生の栄養マネジメント：身体計測、食事調査、生活状況調査 第3回 【演習】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第4回 【発表】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第5回 【実習】 各種調整粉乳とベビーフードの食味試験 第6回 【演習】 乳児期・幼児期の栄養アセスメント 第7回 【実習】 幼児のお弁当、おやつ調理実習 第8回 【演習・発表】 学童期、思春期の栄養マネジメント 第9回 【演習・発表】 成人期の栄養マネジメント 第10回 【実習】 ユニバーサルデザインフード、ソフト食の食味試験 第11回 【演習】 高齢期の栄養マネジメント 第12回 【発表】 高齢期の栄養 第13回 【実習】 高齢期の調理実習 第14回 【演習】 運動・スポーツと栄養 第15回 【発表】 運動・スポーツと栄養						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題1：秤量記録法による1日の食事調査と栄養価計算および生活状況調査 課題2：各ライフステージにおける症例検討のレポート作成 課題3：献立作成、栄養価計算、発注書作成 授業前後：栄養ケア・マネジメントに必要な情報収集、データ整理、発表準備、課題作成						
授業方法	講義・演習・実習						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度） 30% 発表 10% 課題・レポート 60%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 調理室では指定の実習着と靴を着用すること。（貸借は認めない） 授業中の携帯電話の使用は禁止する。						
教科書	「応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理 第3版」、東愛子・原田まつ子・牧野登志子・白尾美佳編、講談社、ISBN978-4-06-139839-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「七訂 食品成分表 2018」、香川明夫監修、女子栄養大学出版社、2018年、ISBN978-4-7895-1018-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用調理実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ－	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	供応食や行事食の献立・調理方法を学び、季節や対象者に合わせた供応食、行事食の調理技術、献立作成能力を養う。						
授業の概要	日常食、供応食、行事食の調理実習を行う。各食事の栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮することの重要性を理解し、対象者と食事の目的に合わせた献立作成能力を養う。						
到達目標	行事食、供応食の意義を説明することが出来る。 調理実習で身につけた知識、技術を定着させるとともに、行事食、供応食を一人で調理することが出来る。 献立作成の基本、1食当たりの食品の使用量を学び、食事設計と調理が出来る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 十五夜、十三夜と月待行事の献立 第3回 敬老の日の献立 第4回 秋のお彼岸の献立 第5回 ハロウィーンの献立 第6回 七五三の献立 第7回 冬至の献立 第8回 クリスマスの献立 第9回 自主献立1回目 第10回 正月料理1 第11回 正月料理2 第12回 成人の日の献立 第13回 節分の献立 第14回 自主献立2回目 第15回 ひな祭りの献立						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：実習する献立・料理について予習し、材料の廃棄率、分量を計算する。（学習時間1時間） 課題1：食事摂取基準に応じた献立を立案、作成する。（学習時間3時間） 課題2：各行事について調べてまとめる。（学習時間各1時間） 授業後学習：再現性のある作り方、栄養価計算、考察をまとめる。（学習時間1時間）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	出席状況、受講態度（実習への取り組み）60% 課題・レポート40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 調理室では指定の実習着と靴を着用すること。（貸借は認めない） 授業中の携帯電話の使用は禁止する。						
教科書	改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 C3077（「調理実習」と同じ教科書を使用します）						
参考書	「新カラーチャート食品成分表―全食品・全成分項目掲載」、教育図書、2017年、ISBN978-4-8773-0388-4						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	応用調理実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	1 応用調理実習の意義と目的 2 応用調理実習の進め方 3 応用調理実習の安全と衛生 4 応用調理実習の記録と評価						
授業の概要	1 日常食、応用調理実習の調理実習を行う。各食事の栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮することの重要性を理解し、対象者と食事の目的に合わせた献立作成能力を養う。						
到達目標	1 応用調理実習の意義と目的を説明することができる。 2 応用調理実習の進め方を説明することができる。 3 応用調理実習の安全と衛生を説明することができる。 4 応用調理実習の記録と評価を説明することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 十五夜、十三夜と月待行事の献立 第3回 敬老の日の献立 第4回 秋のお彼岸の献立 第5回 ハロウィーンの献立 第6回 七五三の献立 第7回 冬至の献立 第8回 クリスマスの献立 第9回 自主献立1回目 第10回 正月料理1 第11回 正月料理2 第12回 成人の日の献立 第13回 節分の献立 第14回 自主献立2回目 第15回 ひな祭りの献立						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：実習する献立・料理について予習し、材料の廃棄率、分量を計算する。（学習時間1時間） 課題1：食事摂取基準に応じた献立を立案、作成する。（学習時間3時間） 課題2：各行事について調べてまとめる。（学習時間各1時間） 授業後学習：再現性のある作り方、栄養価計算、考察をまとめる。（学習時間1時間）						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	出席状況、受講態度（実習への取り組み）60% 課題・レポート40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 調理室では指定の実習着と靴を着用すること。（貸借は認めない） 授業中の携帯電話の使用は禁止する。						
教科書	改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 C3077（「調理実習」と同じ教科書を使用します）						
参考書	「新カラーチャート食品成分表—全食品・全成分項目掲載」、教育図書、2017年、ISBN978-4-8773-0388-4						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	解剖生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	正常な人間の体の構造と機能を、細胞レベルから組織・器官レベルまで系統的に学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士課程の専門科目として、解剖生理学を学ぶ。栄養と健康を考えるにはまず人間の体の仕組みについて理解することが重要である。総論として、細胞内、細胞外の情報伝達機序（神経系、内分泌系の基本概念）や個体の恒常性について学んだ後、各臓器の正常構造と機能を理解する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。						
授業計画	1 人体の構成 2 個体の恒常性 3 情報伝達機構 4 消化管 5 消化器（肝胆膵） 6 循環器（心臓） 7 循環器（血管系） 8 まとめと中間テスト 9 腎臓（解剖） 10 腎臓2（機能） 11 腎臓3（酸塩基平衡） 12 内分泌（正常） 13 内分泌（下垂体甲状腺疾患） 14 内分泌（副腎疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて、教科書参考書で下調べを行うこと（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイント（特に国家試験形式の問題）を、一回ずつノートにまとめましょう（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式で行うが、レポート作成を行う場合もある。血管や臓器の疾患モデルを用いた体験型授業を行う予定。						
評価基準と評価方法	試験90%、授業への参加態度点10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）。 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p. 7-33））						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	解剖生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	正常な人間の体の構造と機能を、細胞レベルから組織・器官レベルまで系統的に学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士課程の専門科目として、解剖生理学を学ぶ。栄養と健康を考えるにはまず人間の体の仕組みについて理解することが重要である。総論として、細胞内、細胞外の情報伝達機序（神経系、内分泌系の基本概念）や個体の恒常性について学んだ後、各臓器の正常構造と機能を理解する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。						
授業計画	1 人体の構成 2 個体の恒常性 3 情報伝達機構 4 消化管 5 消化器（肝胆脾） 6 循環器（心臓） 7 循環器（血管系） 8 まとめと中間テスト 9 腎臓（解剖） 10 腎臓2（機能） 11 腎臓3（酸塩基平衡） 12 内分泌（正常） 13 内分泌（下垂体甲状腺疾患） 14 内分泌（副腎疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて、教科書参考書で下調べを行うこと（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイント（特に国家試験形式の問題）を、一回ずつノートにまとめましょう（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式で行うが、レポート作成を行う場合もある。血管や臓器の疾患モデルを用いた体験型授業を行う予定。						
評価基準と評価方法	試験90%、授業への参加態度点10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）。 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	解剖生理学実験						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	解剖生理学を学んだ後、理解をより深めるために実験を行う。組織標本の顕微鏡観察や、循環機能の計測や感覚器試験によって人体の生理と機能を理解する。						
授業の概要	組織標本の顕微鏡観察、スケッチを通して人体の構造を理解する。①消化管②肝臓③内分泌系④女性生殖器⑤男性生殖器⑥循環器⑦呼吸器⑧神経⑨生理機能検査（循環器、呼吸器、感覚器）などを取り上げる。						
到達目標	顕微鏡観察で得た臓器の構造と機能の理解を、スケッチの中で明確に説明できるようになる。 予習課題（生理学班）の発表を通して、重要項目の要約・わかりやすい発表ができるようになる。 復習課題（国家試験形式の問題の解説）の発表を通して、重要項目の要約・発表ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・総論（細胞・組織・器官） 第2回 舌・唾液腺 第3回 食道と胃 第4回 小腸と大腸 第5回 肝臓 第6回 内分泌1下垂体・甲状腺 第7回 内分泌2膵臓と副腎 第8回 内分泌3男性生殖器 第9回 卵巣・卵管・子宮 第10回 軟骨・骨・運動器疾患 第11回 神経 第12回 血液・免疫 第13回 呼吸器 第14回 循環器 第15回 体感型実習（呼吸機能、アイマスク体験など）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、生理学班の課題について、教科書などで下調べを行うこと（学習時間：1時間）。 予習（生理学班）：指定した内容について、授業での発表準備を行う。 復習（全員および、問題班）：授業で扱ったテーマと関連する管理栄養士国家試験問題の解説を作成し、翌週の授業で提出する（学習時間：1時間）。問題班は、翌週の授業での発表準備を行う。						
授業方法	顕微鏡観察、スケッチ、発表、国家試験形式問題の解説作成						
評価基準と評価方法	提出物（スケッチ、国家試験形式問題の解説）80%，発表等を含めた授業態度20%（「履修上の注意」参照）						
履修上の注意	実験では白衣を着用すること。 生理学班、問題班には、発表時に使用する配布物の作成をしてもらいます。授業当日（月曜日）12:30までに、生活学科共同研究室へ配布物の原本を提出すること。遅れた場合は、班員の評価を減じる。1回の提出遅れと、発表の欠席では、最終評価から2点減点を目安とする。 私語厳禁。 授業中に、授業とは直接関係のない作業を行っていることがわかった場合（携帯電話の使用を指摘された場合など）は評価を減じる。1回の指摘において、最終評価から2点減点を目安とする。 なお、授業の後半で国家試験問題解説を作成する時間をとる場合は、スマートフォンなどでの事項検索を認める場合がある（授業内で指示する）。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 実験授業での提出物が、評価上重要になる。欠席回数が4回以上になると、原則単位認定を行わない。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「解剖生理学」で使用したものと同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」（坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））”						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	解剖生理学実験						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	解剖生理学を学んだ後、理解をより深めるために実験を行う。組織標本の顕微鏡観察や、循環機能の計測や感覚器試験によって人体の生理と機能を理解する。						
授業の概要	組織標本の顕微鏡観察、スケッチを通して人体の構造を理解する。①消化管②肝臓③内分泌系④女性生殖器⑤男性生殖器⑥循環器⑦呼吸器⑧神経⑨生理機能検査（循環器、呼吸器、感覚器）などを取り上げる。						
到達目標	顕微鏡観察で得た臓器の構造と機能の理解を、スケッチの中で明確に説明できるようになる。 予習課題（生理学班）の発表を通して、重要項目の要約・わかりやすい発表ができるようになる。 復習課題（国家試験形式の問題の解説）の発表を通して、重要項目の要約・発表ができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・総論（細胞・組織・器官） 第2回 舌・唾液腺 第3回 食道と胃 第4回 小腸と大腸 第5回 肝臓 第6回 内分泌1下垂体・甲状腺 第7回 内分泌2膵臓と副腎 第8回 内分泌3男性生殖器 第9回 卵巣・卵管・子宮 第10回 軟骨・骨・運動器疾患 第11回 神経 第12回 血液・免疫 第13回 呼吸器 第14回 循環器 第15回 体感型実習（呼吸機能、アイマスク体験など）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、生理学班の課題について、教科書などで下調べを行うこと（学習時間：1時間）。 予習（生理学班）：指定した内容について、授業での発表準備を行う。 復習（全員および、問題班）：授業で扱ったテーマと関連する管理栄養士国家試験問題の解説を作成し、翌週の授業で提出する（学習時間：1時間）。問題班は、翌週の授業での発表準備を行う。						
授業方法	顕微鏡観察、スケッチ、発表、国家試験形式問題の解説作成						
評価基準と評価方法	提出物（スケッチ、国家試験形式問題の解説）80%，発表等を含めた授業態度20%（「履修上の注意」参照）						
履修上の注意	実験では白衣を着用すること。 生理学班、問題班には、発表時に使用する配布物の作成をしてもらいます。授業当日（火曜日）9:10までに、生活学科共同研究室へ配布物の原本を提出すること。遅れた場合は、班員の評価を減じる。1回の提出遅れと、発表の欠席では、最終評価から2点減点を目安とする。 私語厳禁。 授業中に、授業とは直接関係のない作業を行っていることがわかった場合（携帯電話の使用を指摘された場合など）は評価を減じる。1回の指摘において、最終評価から2点減点を目安とする。 なお、授業の後半で国家試験問題解説を作成する時間をとる場合は、スマートフォンなどでの事項検索を認める場合がある（授業内で指示する）。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 実験授業での提出物が、評価上重要になる。欠席回数が4回以上になると、原則単位認定を行わない。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「解剖生理学」で使用したものと同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」（坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p. 7-33））”						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理実習Ⅰ						
担当教員	作田 はるみ・仲平 千栄子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理実習室において、給食経営管理論、給食経営計画論、給食経営計画実習で修得した知識と技能を活用して、管理栄養士として必要な給食経営管理業務を実習する。対象者の給与栄養目標量に見合った献立を作成し、原価計算を行い、大量調理を計画、実施する。実際に喫食者に食事を提供することにより評価を行う。特定給食施設における管理栄養士と調理従事者との関係や組織を意識し、各役割をローテーションで経験することにより、管理栄養士の給食経営管理業務について理解する。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントする。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 栄養・食事計画 第3回 作業計画 第4回 試作 第5回 試作検討 第6回 施設・設備管理①（実習前点検と消毒） 第7回 第1回給食実習（準備） 第8回 第2回給食実習（栄養士） 第9回 第3回給食実習（下処理・洗浄） 第10回 第4回給食実習（調理） 第11回 第5回給食実習（評価） 第12回 第6回給食実習（調査） 第13回 第7回給食実習（バート） 第14回 施設・設備管理②（最終点検と消毒） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20% 個別提出物（実習レポートの記載内容）40% 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40% 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・「給食経営管理実習Ⅰ課外科目」を同時に履修しなければならない。（単位には算入されない） ・実習中は指定の実習着と実習靴を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・1/3以上欠席した者は原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り、責任をもって役割を遂行すること。 ・一方のクラスの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする） ・試作日と給食実習の前日には、準備作業があります。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論 片山直美・原正美ほか（みらい） 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実践―、殿塚婦美子（学建書院） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ（同文書院） イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理実習Ⅰ						
担当教員	作田 はるみ・仲平 千栄子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理実習室において、給食経営管理論、給食経営計画論、給食経営計画実習で修得した知識と技能を活用して、管理栄養士として必要な給食経営管理業務を実習する。対象者の給与栄養目標量に見合った献立を作成し、原価計算を行い、大量調理を計画、実施する。実際に喫食者に食事を提供することにより評価を行う。特定給食施設における管理栄養士と調理従事者との関係や組織を意識し、各役割をローテーションで経験することにより、管理栄養士の給食経営管理業務について理解する。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントする。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 栄養・食事計画 第3回 作業計画 第4回 試作 第5回 試作検討 第6回 施設・設備管理①（実習前点検と消毒） 第7回 第1回給食実習（準備） 第8回 第2回給食実習（栄養士） 第9回 第3回給食実習（下処理・洗浄） 第10回 第4回給食実習（調理） 第11回 第5回給食実習（評価） 第12回 第6回給食実習（調査） 第13回 第7回給食実習（パート） 第14回 施設・設備管理②（最終点検と消毒） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20% 個別提出物（実習レポートの記載内容）40% 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40% 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・「給食経営管理実習Ⅰ課外科目」を同時に履修しなければならない。（単位には算入されない） ・実習中は指定の実習着と実習靴を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・1/3以上欠席した者は原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り、責任をもって役割を遂行すること。 ・一方のクラスの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする） ・試作日と給食実習の前日には、準備作業があります。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論 片山直美・原正美ほか（みらい） 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実践―、殿塚婦美子（学建書院） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ（同文書院） イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理実習Ⅰ課外科目						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理実習室において、給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントする。【汎用的技能】						
授業計画	給食実習として、実習内容を班で役割分担し、ローテーションする。 第1回 実習準備 第2回 栄養士 第3回 下処理・洗浄 第4回 調理 第5回 評価 第6回 調査 第7回 パート業務						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。						
評価基準と評価方法	「給食経営管理実習Ⅰ課外科目」は単位化されないため、「給食経営管理実習Ⅰ」として評価する。						
履修上の注意	・実習中は指定の実習着を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・いずれの日も無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaに連絡を入れておくこと。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は、実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある）						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論 片山直美・原正美ほか（みらい） 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実践―、殿塚婦美子（学建書院） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ（同文書院）978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）978-4-7624-0878-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理実習Ⅰ課外科目						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理実習室において、給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントする。【汎用的技能】						
授業計画	給食実習として、実習内容を班で役割分担し、ローテーションする。 第1回 実習準備 第2回 栄養士 第3回 下処理・洗浄 第4回 調理 第5回 評価 第6回 調査 第7回 パート業務						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。						
評価基準と評価方法	「給食経営管理実習Ⅰ課外科目」は単位化されないため、「給食経営管理実習Ⅰ」として評価する。						
履修上の注意	・実習中は指定の実習着を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・いずれの日も無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaに連絡を入れておくこと。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は、実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある）						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論 片山直美・原正美ほか（みらい） 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実際―、殿塚婦美子（学建書院） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ（同文書院）978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）978-4-7624-0878-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理実習Ⅱ						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（応用）						
授業の概要	給食経営管理実習Ⅰの内容を発展させ、ライフステージに対応した栄養・食事管理、災害時の給食マネジメント、新調理システム、配食サービスの計画・実習を行う。レディフードシステムにおけるクックチル、クックフリーズ、真空調理の実習を行い、実際に喫食者に提供し、評価を行う。災害時の給食マネジメントとして、備蓄食品の活用や屋外での炊き出しについても実習する。						
到達目標	(1)新調理システム（クックチル・クックフリーズ・真空調理）を活用した給食提供ができる。【汎用的技能】 (2)災害などの非常時における給食提供に必要な内容について説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション ゲストスピーカーによる講話 第2回 配食サービス計画①献立作成 第3回 真空調理 第4回 配食サービス計画②作業管理 第5回 非常時における給食マネジメント①簡易真空調理（パッククッキング） 第6回 非常時における給食マネジメント②備蓄食材を用いた食事提供 第7回 非常時における給食マネジメント③炊き出し訓練 第8回 配食サービス計画③試作 第9回 配食サービス計画④試作検討 第10回 配食サービス実習①（準備） 第11回 配食サービス実習②（栄養士） 第12回 配食サービス実習③（下処理・洗浄） 第13回 配食サービス実習④（調理） 第14回 配食サービス実習⑤（評価・配食） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループでディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。 炊き出し訓練では4年生SAの指示のもと屋外での調理と配食を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20％ 到達目標(1)(2)の確認 個別提出物（レポートの記載内容・献立課題）40％ 到達目標(1)(2)の確認 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40％ 到達目標(1)の確認 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・調理室では指定の実習着を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・いずれの日も無断欠席・遅刻は禁止する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・試作と配食サービス実習の前日には準備作業がある。 ・炊き出し訓練と配食サービス実習は昼休みを試食と反省会の時間とする。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論 片山直美・原正美（みらい） 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実際―、殿塚婦美子（学建書院） 給食経営管理実習ワークブック[第4版] 藤原政嘉ほか（みらい） 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ（同文書院）978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）978-4-7624-0878-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理実習Ⅱ						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（応用）						
授業の概要	給食経営管理実習Ⅰの内容を発展させ、ライフステージに対応した栄養・食事管理、災害時の給食マネジメント、新調理システム、配食サービスの計画・実習を行う。レディフードシステムにおけるクックチル、クックフリーズ、真空調理の実習を行い、実際に喫食者に提供し、評価を行う。災害時の給食マネジメントとして、備蓄食品の活用や屋外での炊き出しについても実習する。						
到達目標	(1)新調理システム（クックチル・クックフリーズ・真空調理）を活用した給食提供ができる。【汎用的技能】 (2)災害などの非常時における給食提供に必要な内容について説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション ゲストスピーカーによる講話 第2回 配食サービス計画①献立作成 第3回 真空調理 第4回 配食サービス計画②作業管理 第5回 非常時における給食マネジメント①簡易真空調理（パッククッキング） 第6回 非常時における給食マネジメント②備蓄食材を用いた食事提供 第7回 非常時における給食マネジメント③炊き出し訓練 第8回 配食サービス計画③試作 第9回 配食サービス計画④試作検討 第10回 配食サービス実習①（準備） 第11回 配食サービス実習②（栄養士） 第12回 配食サービス実習③（下処理・洗浄） 第13回 配食サービス実習④（調理） 第14回 配食サービス実習⑤（評価・配食） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループでディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。 炊き出し訓練では4年生SAの指示のもと屋外での調理と配食を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20％ 到達目標(1)(2)の確認 個別提出物（レポートの記載内容・献立課題）40％ 到達目標(1)(2)の確認 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40％ 到達目標(1)の確認 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・調理室では指定の実習着を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・いずれの日も無断欠席・遅刻は禁止する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・試作と配食サービス実習の前日には準備作業がある。 ・炊き出し訓練と配食サービス実習は昼休みを試食と反省会の時間とする。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論 片山直美・原正美（みらい） 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実際―、殿塚婦美子（学建書院） 給食経営管理実習ワークブック[第4版] 藤原政嘉ほか（みらい） 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ（同文書院）978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）978-4-7624-0878-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理に関連する基礎知識を学ぶ						
授業の概要	特定多数人に対して継続的に食事を提供する給食施設の経営管理について講義する。給食を提供する施設の法的根拠、給食のオペレーションシステム、経営管理（給食の資源、マーケティング、組織）、品質管理、原価管理、食材料管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事管理について概説する。これらの内容を、給食施設における栄養士・管理栄養士の業務内容として実践例を示し理解を深めてもらう。						
到達目標	(1) 給食提供が複数のサブシステムで構成されていることを理解する。【知識・理解】 (2) 特定給食施設の関連法規を理解している。【知識・理解】 (3) 給食経営管理の各サブシステムとその業務内容について関連づけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 給食の概要 第2回 給食施設と関連法規 第3回 給食の経営管理 第4回 栄養・食事管理①食事計画 第5回 栄養・食事管理②評価 第6回 品質管理 第7回 会計・原価管理 第8回 食材管理 第9回 生産（調理）管理 第10回 安全・衛生管理 第11回 施設・設備管理 第12回 人事・事務管理 第13回 学校給食 第14回 病院給食 第15回 福祉施設給食						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実にやる。（2時間） 毎回、前回の授業の内容の復習テストを実施する。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施日の翌々週の授業までとする。						
授業方法	講義とテーマに関するグループまたはペアによるディスカッション。						
評価基準と評価方法	平常点（忘れ物・リアクションシート）20% 課題提出物10% テスト（復習テスト全14回と定期試験）70% 復習テストは、次回に返却して質問を受け付ける。						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・私語厳禁 ・「給食経営管理論」の取得単位は、4年次の「臨地実習（給食経営管理論）」の履修要件である。 ・給食経営管理実習Ⅰの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする）						
教科書	給食経営管理論〔第2版〕 片山直美 原正美（みらい） ISBN 978-4-86015-464-6 以下は購入済み 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営管理論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理に関連する基礎知識を学ぶ						
授業の概要	特定多数人に対して継続的に食事を提供する給食施設の経営管理について講義する。給食を提供する施設の法的根拠、給食のオペレーションシステム、経営管理（給食の資源、マーケティング、組織）、品質管理、原価管理、食材料管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事管理について概説する。これらの内容を、給食施設における栄養士・管理栄養士の業務内容として実践例を示し理解を深めてもらう。						
到達目標	(1) 給食提供が複数のサブシステムで構成されていることを理解する。【知識・理解】 (2) 特定給食施設の関連法規を理解している。【知識・理解】 (3) 給食経営管理の各サブシステムとその業務内容について関連づけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 給食の概要 第2回 給食施設と関連法規 第3回 給食の経営管理 第4回 栄養・食事管理①食事計画 第5回 栄養・食事管理②評価 第6回 品質管理 第7回 会計・原価管理 第8回 食材管理 第9回 生産（調理）管理 第10回 安全・衛生管理 第11回 施設・設備管理 第12回 人事・事務管理 第13回 学校給食 第14回 病院給食 第15回 福祉施設給食						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実にやる。（2時間） 毎回、前回の授業の内容の復習テストを実施する。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施日の翌々週の授業までとする。						
授業方法	講義とテーマに関するグループまたはペアによるディスカッション。						
評価基準と評価方法	平常点（忘れ物・リアクションシート）20% 課題提出物10% テスト（復習テスト全14回と定期試験）70% 復習テストは、次回に返却して質問を受け付ける。						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・私語厳禁 ・「給食経営管理論」の取得単位は、4年次の「臨地実習（給食経営管理論）」の履修要件である。 ・給食経営管理実習Ⅰの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする）						
教科書	給食経営管理論〔第2版〕 片山直美 原正美（みらい） ISBN 978-4-86015-464-6 以下は購入済み 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営計画実習						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（栄養食事計画と設備機器管理）						
授業の概要	給食経営管理において最も重視されることは、安全な食事を提供することである。この科目では、学内の実習施設において「大量調理施設衛生管理マニュアル」の記載事項に則り、食材管理、施設・設備管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理の手法について実習する。また、給食経営管理に関わる事務作業である食材の発注、衛生管理に関わる記録を取り扱う各種帳票管理についても実習する。施設の機器を実際に使用し、大量調理の方法と特徴についても理解を深める。						
到達目標	(1) HACCPに基づいた作業工程を実践できる。【汎用性技能】 (2) 給食経営管理に関わる各種帳票の記入と管理ができる。【汎用性技能】 (3) 給食施設の施設・設備の管理ができる。【汎用性技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食材管理（発注と出庫）味覚検査1回目 第3回 施設・設備管理 第4回 衛生管理①（大量調理施設衛生管理マニュアル試験） 第5回 作業管理 第6回 衛生管理②（消毒） 第7回 厨房実習①（検収） 第8回 厨房実習②（下処理） 第9回 厨房実習③（炊飯） 第10回 厨房実習④（調理機器操作） 第11回 厨房実習⑤（盛り付け） 第12回 厨房実習⑥（洗浄） 第13回 ゲストスピーカーによる講話 第14回 厨房実習まとめ 味覚検査2回目 第15回 実技試験と最終レポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。 食材の重量の目安を自宅などで確認する「目測訓練」を行い、様式に記録しておく。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でのディスカッション、データの共有						
評価基準と評価方法	試験（大量調理施設衛生管理マニュアル、実技試験）50％ 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物（実習レポート、目測訓練）25％ 到達目標(1)(3)の確認 実習態度（実習への取り組み）25％ 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物は期日を守り丁寧に分かりやすく記載しているかを評価する。						
履修上の注意	・無断欠席・遅刻は厳禁する。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・本実習の取得単位は、3年次の「校外実習」履修要件である。 ・調理室では指定の実習着と靴を着用する。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・厨房実習①～⑥については、昼休みに試食や実習室の後片付けを行う。						
教科書	適宜資料を配布するのでファイルしておく。 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）978-4-06-139843-6 給食経営管理実習ワークブック〔第3版〕藤原政嘉ほか（みらい）978-4-86015-189-8 改定新版大量調理―品質管理と調理の実際― 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-1872-3 以下購入済み 給食経営管理論 片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						

参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院） あすの健康と調理 三輪里子監修（アイ・ケイコーポレーション）
-----	---

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営計画実習						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（栄養食事計画と設備機器管理）						
授業の概要	給食経営管理において最も重視されることは、安全な食事を提供することである。この科目では、学内の実習施設において「大量調理施設衛生管理マニュアル」の記載事項に則り、食材管理、施設・設備管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理の手法について実習する。また、給食経営管理に関わる事務作業である食材の発注、衛生管理に関わる記録を取り扱う各種帳票管理についても実習する。施設の機器を実際に使用し、大量調理の方法と特徴についても理解を深める。						
到達目標	(1) HACCPに基づいた作業工程を実践できる。【汎用性技能】 (2) 給食経営管理に関わる各種帳票の記入と管理ができる。【汎用性技能】 (3) 給食施設の施設・設備の管理ができる。【汎用性技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食材管理（発注と出庫）味覚検査1回目 第3回 施設・設備管理 第4回 衛生管理①（大量調理施設衛生管理マニュアル試験） 第5回 作業管理 第6回 衛生管理②（消毒） 第7回 厨房実習①（検収） 第8回 厨房実習②（下処理） 第9回 厨房実習③（炊飯） 第10回 厨房実習④（調理機器操作） 第11回 厨房実習⑤（盛り付け） 第12回 厨房実習⑥（洗浄） 第13回 ゲストスピーカーによる講話 第14回 厨房実習まとめ 味覚検査2回目 第15回 実技試験と最終レポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。 食材の重量の目安を自宅などで確認する「目測訓練」を行い、様式に記録しておく。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でのディスカッション、データの共有						
評価基準と評価方法	試験（大量調理施設衛生管理マニュアル、実技試験）50％ 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物（実習レポート、目測訓練）25％ 到達目標(1)(3)の確認 実習態度（実習への取り組み）25％ 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物は期日を守り丁寧に分かりやすく記載しているかを評価する。						
履修上の注意	・無断欠席・遅刻は厳禁する。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・本実習の取得単位は、3年次の「校外実習」履修要件である。 ・調理室では指定の実習着と靴を着用する。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・厨房実習①～⑥については、昼休みに試食や実習室の後片付けを行う。						
教科書	適宜資料を配布するのでファイルしておく。 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）978-4-06-139843-6 給食経営管理実習ワークブック〔第3版〕藤原政嘉ほか（みらい）978-4-86015-189-8 改定新版大量調理―品質管理と調理の実際― 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-1872-3 以下購入済み 給食経営管理論 片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						

参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子 (学建書院) 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 (学建書院) あすの健康と調理 三輪里子監修 (アイ・ケイコーポレーション)
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営計画論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理における栄養・食事管理について学ぶ。						
授業の概要	この科目では、特定給食施設における献立作成基準の作成、給与栄養目標量ならびに食品構成の考え方と設定の手順、献立の立案、評価と改善の方法について講義する。特定給食施設は、特定多数人に対して継続的に食事を提供する施設である。栄養士・管理栄養士は、喫食対象者を定期的にアセスメントし、喫食者の嗜好に配慮した食事を提供する。給食の目的は喫食者の健康増進であることに加えて、各種施設の特性にも配慮した栄養・食事管理のあり方を理解する。						
到達目標	(1) 給食の目的は喫食者の健康増進であり、喫食者の特性に配慮することを理解する【知識・理解】 (2) 給食対象者に応じた栄養食事管理の流れを説明できる。【知識・理解】 (3) 給与栄養目標量に見合った献立作成とその評価ができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養・食事管理の概要 第2回 栄養・食事計画（食事摂取基準） 第3回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画①エネルギーの設定 第4回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画②栄養素の設定 第5回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画③解説 第6回 献立作成基準と食品構成 第7回 食品群別荷重平均成分表①食品集計 第8回 食品群別荷重平均成分表②荷重平均成分値の設定 第9回 食品構成①穀類・動物性食品群の設定 第10回 食品構成②その他食品群の設定 第11回 献立計画 第12回 献立の評価と改善 第13回 献立作成①食品構成の活用 第14回 献立作成②給食経営管理ソフトの使用 第15回 試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実に行う。（2時間） 毎回、前回の授業の内容の復習テストを実施する。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施回の翌々週の授業までとする。 管理栄養士国家試験（給食経営管理論）の解説をグループごとに行う。						
授業方法	講義と演習 グループ内、グループ間でのディスカッションやデータの共有を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（グループ課題の内容、リアクションシート）20% 到達目標(1)(2)(3)の確認 課題提出物 10% 到達目標(2)(3)の確認 テスト（復習テストと定期試験）70% 到達目標(1)(2)(3)の確認						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は、欠席とする（交通機関延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としない） ・私語厳禁						
教科書	給食経営計画実習（後期）で購入済み 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 改訂新版 大量調理－品質管理と調理の実際－ 殿塚婦美子（学建書院） 以下、購入済み 給食経営管理論 片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	給食経営計画論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理における栄養・食事管理について学ぶ。						
授業の概要	この科目では、特定給食施設における献立作成基準の作成、給与栄養目標量ならびに食品構成の考え方と設定の手順、献立の立案、評価と改善の方法について講義する。特定給食施設は、特定多数人に対して継続的に食事を提供する施設である。栄養士・管理栄養士は、喫食対象者を定期的にアセスメントし、喫食者の嗜好に配慮した食事を提供する。給食の目的は喫食者の健康増進であることに加えて、各種施設の特性にも配慮した栄養・食事管理のあり方を理解する。						
到達目標	(1) 給食の目的は喫食者の健康増進であり、喫食者の特性に配慮することを理解する【知識・理解】 (2) 給食対象者に応じた栄養食事管理の流れを説明できる。【知識・理解】 (3) 給与栄養目標量に見合った献立作成とその評価ができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養・食事管理の概要 第2回 栄養・食事計画（食事摂取基準） 第3回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画①エネルギーの設定 第4回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画②栄養素の設定 第5回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画③解説 第6回 献立作成基準と食品構成 第7回 食品群別荷重平均成分表①食品集計 第8回 食品群別荷重平均成分表②荷重平均成分値の設定 第9回 食品構成①穀類・動物性食品群の設定 第10回 食品構成②その他食品群の設定 第11回 献立計画 第12回 献立の評価と改善 第13回 献立作成①食品構成の活用 第14回 献立作成②給食経営管理ソフトの使用 第15回 試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実に行う。（2時間） 毎回、前回の授業の内容の復習テストを実施する。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施回の翌々週の授業までとする。 管理栄養士国家試験（給食経営管理論）の解説をグループごとに行う。						
授業方法	講義と演習 グループ内、グループ間でのディスカッションやデータの共有を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（グループ課題の内容、リアクションシート）20% 到達目標(1)(2)(3)の確認 課題提出物 10% 到達目標(2)(3)の確認 テスト（復習テストと定期試験）70% 到達目標(1)(2)(3)の確認						
履修上の注意	・ 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・ 20分以上遅刻の場合は、欠席とする（交通機関延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としない） ・ 私語厳禁						
教科書	給食経営計画実習（後期）で購入済み 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 改訂新版 大量調理－品質管理と調理の実際－ 殿塚婦美子（学建書院） 以下、購入済み 給食経営管理論 片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	小林 麻貴					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養とは何か、その意義について理解する。さらに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学び、エネルギー・栄養素の代謝とその生理的意義について理解することを目標とする。そのために、人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品の栄養成分が生体の構成成分としての栄養素への代謝変換され、さらに臓器間の連携によって体内で栄養素相互の変換が行われるという、一連の栄養代謝の全体像として捉える。						
授業の概要	食物に含まれる栄養素が体内でどのように加工され、利用されているのかを理解するため、①栄養の概念、②消化・吸収と栄養素の体内動態、③五大栄養素の栄養、④エネルギー代謝、⑤遺伝子発現と栄養について解説する。						
到達目標	1. 栄養とは何かを説明できる【知識・理解】 2. 栄養素の代謝について説明できる【知識・理解】 3. 栄養素の消化・吸収について説明できる【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養の概念、食物の摂取 第2回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第3回 糖質の栄養(1) 糖質の代謝、血糖とその調節 第4回 糖質の栄養(2) エネルギー源としての糖質、他の栄養素との関係 第5回 脂質の栄養(1) 脂質の体内代謝、脂質の臓器間輸送 第6回 脂質の栄養(2) 貯蔵エネルギーとしての脂質、コレステロールの代謝調節 第7回 中間まとめ、たんぱく質の栄養(1) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 第8回 たんぱく質の栄養(2) アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の栄養価、他の栄養素との関係 第9回 ビタミンの栄養(1) 脂溶性ビタミン 第10回 ビタミンの栄養(2) 水溶性ビタミン 第11回 ミネラルの栄養(1) 常量元素 第12回 ミネラルの栄養(2) 微量元素 第13回 水・電解質の代謝 第14回 エネルギー代謝 第15回 遺伝子発現と栄養、全体まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を予習し、疑問点を把握しておく（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容を復習し、練習問題を解きなおす（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心に行う。 一部グループワークを行う。						
評価基準と評価方法	小テスト10%、試験90%で評価する。						
履修上の注意	1. 授業プリントは毎回授業の始めに配布する。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 第5版 鈴木和春、真鍋祐之、上原万里子著 第一出版株式会社 ISBN：978-4-8041-1362-3						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	小林 麻貴					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養とは何か、その意義について理解する。さらに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学び、エネルギー・栄養素の代謝とその生理的意義について理解することを目指す。そのために、人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品の栄養成分が生体の構成成分としての栄養素への代謝変換され、さらに臓器間の連携によって体内で栄養素相互の変換が行われるという、一連の栄養代謝の全体像として捉える。						
授業の概要	食物に含まれる栄養素が体内でどのように加工され、利用されているのかを理解するため、①栄養の概念、②消化・吸収と栄養素の体内動態、③五大栄養素の栄養、④エネルギー代謝、⑤遺伝子発現と栄養について解説する。						
到達目標	1. 栄養とは何かを説明できる【知識・理解】 2. 栄養素の代謝について説明できる【知識・理解】 3. 栄養素の消化・吸収について説明できる【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養の概念、食物の摂取 第2回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第3回 糖質の栄養(1) 糖質の代謝、血糖とその調節 第4回 糖質の栄養(2) エネルギー源としての糖質、他の栄養素との関係 第5回 脂質の栄養(1) 脂質の体内代謝、脂質の臓器間輸送 第6回 脂質の栄養(2) 貯蔵エネルギーとしての脂質、コレステロールの代謝調節 第7回 中間まとめ、たんぱく質の栄養(1) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 第8回 たんぱく質の栄養(2) アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の栄養価、他の栄養素との関係 第9回 ビタミンの栄養(1) 脂溶性ビタミン 第10回 ビタミンの栄養(2) 水溶性ビタミン 第11回 ミネラルの栄養(1) 常量元素 第12回 ミネラルの栄養(2) 微量元素 第13回 水・電解質の代謝 第14回 エネルギー代謝 第15回 遺伝子発現と栄養、全体まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を予習し、疑問点を把握しておく（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容を復習し、練習問題を解きなおす（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心に行う。 一部グループワークを行う。						
評価基準と評価方法	小テスト10%、試験90%で評価する。						
履修上の注意	1. 授業プリントは毎回授業の始めに配布する。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学 第5版 鈴木和春、真鍋祐之、上原万里子著 第一出版株式会社 ISBN：978-4-8041-1362-3						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	基礎栄養学実験						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバー	
学期	後期隔週B	曜日・時限	水曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養学の基礎である消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝の深い理解をめざして実験を行う。						
授業の概要	食品学実験で習得した実験技術を基盤に、生化学実験との連携のもと、生体成分などを実際に取り扱うことにより、実験を通じて基礎栄養学で得た知識をより深く理解することを目的とする。 基礎栄養学で取り扱う、栄養素の消化・吸収、体内動態や代謝に対する深い理解を目指し、①栄養素の酵素消化実験、②生体成分に含まれる、糖質・脂質・タンパク質などの定量および分析、③エネルギー消費測定、を実験内容とする。						
到達目標	(1) 基礎栄養学（講義）での内容を、実験を通じて理解を深めることができる。【知識・理解】 (2) 得られた実験結果について、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに（実験の心得、試薬調製） 第2回 でんぷんのin vitro消化実験 第3回 脂肪、タンパク質のin vitro消化実験 第4回 糖質実験（でんぷん、食べるとどうなる？） 第5回 脂質実験（卵の黄身、食べるとどうなる？） 第6回 肝臓グリコーゲンの分離と定量 第7回 肝臓脂質の抽出と定量 第8回 酵素実験Ⅰ（反応時間、基質との親和性、阻害） 第9回 酵素実験Ⅱ（温度依存性、pH依存性、補酵素） 第10回 エネルギー代謝、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成する。また、関連する内容の課題について調べる。これらは基本的に授業時間内で完結させるが、授業時間内でできなかったところは、授業時間外で完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業態度（授業への取り組み）：10％、レポート（課題を含む）：90％で評価する。 授業態度：出席状況、授業への取り組み、グループ討議への参加度により評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、考察を重視する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	基礎栄養学実験						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバー	
学期	後期隔週A	曜日・時限	水曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養学の基礎である消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝の深い理解をめざして実験を行う。						
授業の概要	食品学実験で習得した実験技術を基盤に、生化学実験との連携のもと、生体成分などを実際に取り扱うことにより、実験を通じて基礎栄養学で得た知識をより深く理解することを目的とする。 基礎栄養学で取り扱う、栄養素の消化・吸収、体内動態や代謝に対する深い理解を目指し、①栄養素の酵素消化実験、②生体成分に含まれる、糖質・脂質・タンパク質などの定量および分析、③エネルギー消費測定、を実験内容とする。						
到達目標	(1) 基礎栄養学（講義）での内容を、実験を通じて理解を深めることができる。【知識・理解】 (2) 得られた実験結果について、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに（実験の心得、試薬調製） 第2回 でんぷんのin vitro消化実験 第3回 脂肪、タンパク質のin vitro消化実験 第4回 糖質実験（でんぷん、食べるとどうなる？） 第5回 脂質実験（卵の黄身、食べるとどうなる？） 第6回 肝臓グリコーゲンの分離と定量 第7回 肝臓脂質の抽出と定量 第8回 酵素実験Ⅰ（反応時間、基質との親和性、阻害） 第9回 酵素実験Ⅱ（温度依存性、pH依存性、補酵素） 第10回 エネルギー代謝、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成する。また、関連する内容の課題について調べる。これらは基本的に授業時間内で完結させるが、授業時間内でできなかったところは、授業時間外で完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業態度（授業への取り組み）：10％、レポート（課題を含む）：90％で評価する。 授業態度：出席状況、授業への取り組み、グループ討議への参加度により評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、考察を重視する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	健康・環境論						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生態系・環境と健康、主要生活習慣病、感染症の理解						
授業の概要	生物を取り巻くすべてを「環境」といい、生物は環境との相互作用の中で生きている。身近な生活環境から自然環境、そして地球環境を理解し、持続可能な次世代を構築するために、環境保護が必要不可欠であることを理解する。また、外的環境因子だけでなく、生活習慣などで変化する内的環境因子が健康を支え、逆に健康被害を引き起こしうることを理解する。						
到達目標	地球規模ならびにわが国の環境問題と対策について概説できる。 わが国の生活習慣病、感染症、その他主要疾患について、その動向と現状及び対策を理解する。						
授業計画	1. 健康と公衆衛生 2. 環境と健康 - 生態系と環境の保全 地球規模の環境破壊 3. 環境と健康 - 環境汚染と健康影響 4. 環境と健康 - 環境衛生 5. 生活習慣の現状と対策 - 食生活と栄養、身体活動・運動 6. 生活習慣の現状と対策 - 睡眠・休養・ストレス、喫煙 7. 生活習慣の現状と対策 - 飲酒 8. 前半まとめ 中間試験 9. 生活習慣病の疫学と対策 - 悪性新生物 10. 生活習慣病の疫学と対策 - 循環器疾患 11. 生活習慣病の疫学と対策 - 骨・関節疾患、歯・口腔疾患 12. 感染症対策 - 感染症と疫学、感染症法 13. 感染症対策 - 予防接種法、検疫法、世界の感染症 14. 精神保健対策 15. まとめ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読み、マスメディア等から関連する環境問題や健康問題について情報収集を行う。 授業後は配布プリントを復習し単語帳に整理する。 予習・復習各30分程度。						
授業方法	講義 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 予習及び講義の理解度等について適宜指名して確認を行う。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験・期末試験・小テスト90% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2019年版 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第7版 女子栄養大学出版部						
参考書	医歯薬出版公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 公衆衛生マニュアル 2018 南山堂						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	健康・環境論						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生態系・環境と健康、主要生活習慣病、感染症の理解						
授業の概要	生物を取り巻くすべてを「環境」といい、生物は環境との相互作用の中で生きている。身近な生活環境から自然環境、そして地球環境を理解し、持続可能な次世代を構築するために、環境保護が必要不可欠であることを理解する。また、外的環境因子だけでなく、生活習慣などで変化する内的環境因子が健康を支え、逆に健康被害を引き起こしうることを理解する。						
到達目標	地球規模ならびにわが国の環境問題と対策について概説できる。 わが国の生活習慣病、感染症、その他主要疾患について、その動向と現状及び対策を理解する。						
授業計画	1. 健康と公衆衛生 2. 環境と健康 - 生態系と環境の保全 地球規模の環境破壊 3. 環境と健康 - 環境汚染と健康影響 4. 環境と健康 - 環境衛生 5. 生活習慣の現状と対策 - 食生活と栄養、身体活動・運動 6. 生活習慣の現状と対策 - 睡眠・休養・ストレス、喫煙 7. 生活習慣の現状と対策 - 飲酒 8. 前半まとめ 中間試験 9. 生活習慣病の疫学と対策 - 悪性新生物 10. 生活習慣病の疫学と対策 - 循環器疾患 11. 生活習慣病の疫学と対策 - 骨・関節疾患、歯・口腔疾患 12. 感染症対策 - 感染症と疫学、感染症法 13. 感染症対策 - 予防接種法、検疫法、世界の感染症 14. 精神保健対策 15. まとめ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読み、マスメディア等から関連する環境問題や健康問題について情報収集を行う。 授業後は配布プリントを復習し単語帳に整理する。 予習・復習各30分程度。						
授業方法	講義 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な個所）を埋め資料を完成させる。 予習及び講義の理解度等について適宜指名して確認を行う。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験・期末試験・小テスト90% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2019年版 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第7版 女子栄養大学出版部						
参考書	医歯薬出版公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 公衆衛生マニュアル 2018 南山堂						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	校外実習						
担当教員	橘 ゆかり・作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養士養成に必要な単位である「給食の運営」（1単位）に必要な知識、技術を給食現場における実践を通して習得する。						
授業の概要	実習施設で給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの給食サービス提供に関する基本的業務を体験する。授業で学んだ知識を現実のものとして再認識することができ、より深く学ぶ事の必要性を感じることもできる実習にする。						
到達目標	学外施設での実習を通じて授業で学習した「給食の運営」の知識やスキルを応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	事業所・社会福祉施設・病院等において5日間の学外実習を行う。 「臨地・校外実習課外科目（3年生）」の中で事前指導および事後指導を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	校外実習期間または「臨地・校外実習課外科目」の時間以外に、実習施設との打ち合わせおよび課題の準備が必要になります。						
授業方法	実習（学外）：5日間の学外実習および「臨地・校外実習課外科目」において、実習の事前事後学習を行う。						
評価基準と評価方法	実習施設の評価点：65%、事前学習、事後学習および実習ノートの記録等の評価：35% 実習施設の評価点：実習施設の評価を点数に換算して評価する。 事前指導、事後指導および実習ノートの記録等の評価：事前学習、事後学習への取組の態度、報告会の内容および提出した実習ノートなどによる「給食の運営」の理解度を総合的に評価する。 実習時間数の不足、連絡のない課外授業の欠席やレポート未提出の場合には単位を認めないことがあります。						
履修上の注意	「臨地・校外実習課外科目（集中講義）」の「校外実習」の履修要件となっている授業への出席が必要です。履修要件となる授業は、別にプリントで指定します（臨地・校外実習課外科目は、単位化されません）。35～45時間の校外実習および「臨地・校外実習課外科目」の「校外実習」の履修要件となっている全授業の出席をもって1単位とする。 実習期間および打ち合わせ時の交通費および食費は自己負担となる。 実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。						
教科書	田上貞一郎・田中ひさよ 著 「管理栄養士・栄養士になるための国語表現」 萌文書林 ISBN 978-4-89347-174-1						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆衛生実験						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る情報の活用と計画策定手法の習得						
授業の概要	「社会と健康」、「健康・環境論」で学んだ理論の実験及び演習を行う。論文検索をはじめとする公衆衛生に係る情報を収集、分析、地域診断を行う。参加型計画手法による公衆衛生活動の計画策定の演習を行う。生活環境を測る試験、評価方法を理解し、企業等の環境への取組みを学ぶ。						
到達目標	公衆衛生に係る情報を収集、分析、地域診断ができる。 参加型計画手法による公衆衛生活動の計画が策定できる。						
授業計画	1. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(1) 2. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(2) 3. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(1) 4. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(2) 5. 環境測定(1) 騒音、照度、気温、気湿、紫外線、水質（総硬度、残留塩素）等実験器具の使用方法、実験計画の策定、記録用紙の作成 6. 環境測定(2) 測定の実施、データ入力 7. 環境測定(3) データ分析、プレゼンテーション作成 8. 環境測定(4) プレゼンテーション 9. 環境衛生 - 地方自治体・企業等の取組み 10. 前半まとめ 中間試験 11. 公衆衛生活動計画 - 問題分析 12. 公衆衛生活動計画 - 目的分析 13. 公衆衛生活動計画 - 計画表の作成 14. 公衆衛生活動計画 - 計画発表 15. 公衆衛生活動計画 - 計画の修正・最終化・発表 ※学外実習として地域企業の見学を実施することもある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験・演習課題を行う。						
授業方法	実験・演習						
評価基準と評価方法	平常点（グループワークにおける積極性、協働性等）30%、課題40%、小テスト30% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	必要に応じて授業中に配布する。						
参考書	プロジェクト・サイクル・マネジメント 参加型計画編 国際開発高等教育機構						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆衛生実験						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る情報の活用と計画策定手法の習得						
授業の概要	「社会と健康」、「健康・環境論」で学んだ理論の実験及び演習を行う。論文検索をはじめとする公衆衛生に係る情報を収集、分析、地域診断を行う。参加型計画手法による公衆衛生活動の計画策定の演習を行う。生活環境を測る試験、評価方法を理解し、企業等の環境への取組みを学ぶ。						
到達目標	公衆衛生に係る情報を収集、分析、地域診断ができる。 参加型計画手法による公衆衛生活動の計画が策定できる。						
授業計画	1. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(1) 2. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(2) 3. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(1) 4. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(2) 5. 環境測定(1) 騒音、照度、気温、気湿、紫外線、水質（総硬度、残留塩素）等実験器具の使用方法、実験計画の策定、記録用紙の作成 6. 環境測定(2) 測定の実施、データ入力 7. 環境測定(3) データ分析、プレゼンテーション作成 8. 環境測定(4) プレゼンテーション 9. 環境衛生 - 地方自治体・企業等の取組み 10. 前半まとめ 中間試験 11. 公衆衛生活動計画 - 問題分析 12. 公衆衛生活動計画 - 目的分析 13. 公衆衛生活動計画 - 計画表の作成 14. 公衆衛生活動計画 - 計画発表 15. 公衆衛生活動計画 - 計画の修正・最終化・発表 ※学外実習として地域企業の見学を実施することもある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験・演習課題を行う。						
授業方法	実験・演習						
評価基準と評価方法	平常点（グループワークにおける積極性、協働性等）30%、課題40%、小テスト30% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	必要に応じて授業中に配布する。						
参考書	プロジェクト・サイクル・マネジメント 参加型計画編 国際開発高等教育機構						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆栄養学Ⅰ						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆栄養学の概念、日本・諸外国の栄養問題及び栄養政策						
授業の概要	地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことを目的とし、日本や諸外国の健康・栄養問題、管理栄養士制度や栄養士制度、我が国の栄養施策としての国民健康・栄養調査の方法およびその結果や食生活指針、運動指針、休養指針などの指針、健康日本21、食事バランスガイド等について学ぶ。また、栄養施策の根拠法として健康増進法、地域保健法、栄養士法、食育基本法について学ぶ。						
到達目標	公衆栄養学の主な対象と目的について理解し、暗記し、説明することができる。 日本で実施されている主な栄養施策の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。 日本で施行されている健康増進法、食育基本法、栄養士法など公衆栄養関連の法律の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。 日本の食生活、食事、食料自給率の問題について理解し、暗記し、説明することができる。						
授業計画	第1回 公衆栄養学の概念（1）公衆栄養学の定義 第2回 公衆栄養の概念（2）公衆栄養活動 第3回 公衆栄養の概念（3）公衆栄養活動の歴史 第4回 健康日本21からみた日本の健康問題（1） 第5回 健康日本21からみた日本の健康問題（2） 第6回 日本の栄養問題の現状と課題（1）食生活の変化 第7回 日本の栄養問題の現状と課題（2）食事の変化 第8回 日本の栄養問題の現状と課題（3）食環境の変化 第9回 日本の栄養問題の現状と課題（4）食料需給表 第10回 日本の栄養政策（1）栄養関連法規（健康増進法） 第11回 日本の栄養政策（2）栄養関連法規（地域保健法） 第12回 日本の栄養政策（3）食育基本法、第3次食育推進基本計画 第13回 日本の栄養政策（4）日本の栄養士制度、栄養士法、栄養関連法規 第14回 日本の栄養政策（5）国民健康・栄養調査 第15回 日本の栄養政策（6）食生活指針 第16回 公衆栄養学の歴史、公衆栄養学Ⅰ期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を予習し、事前にワークノートを記入する（詳細は授業内で指示）（学習時間60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容要点、重要箇所の確認・整理する。授業開始時に実施する松蔭manabaでの小テストに向けて暗記すること。（学習時間：60分）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義を行う） テーマの導入を図る質問する。重要項目について解説・講義を行う。 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	レポート5% 小テスト45% 期末試験50%						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2018年版 医歯薬出版株式会社（最新版）ISBN978-4-263-70717-3 ※2019年の発刊があれば希望する 『管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート』 女子栄養大学出版（社会・環境と健康で使用するため新たに購入の必要なし）ISBN-10: 4789524337						
参考書	日本人の食事摂取基準2020 第一出版						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆栄養学Ⅰ						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆栄養学の概念、日本・諸外国の栄養問題及び栄養政策						
授業の概要	地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことを目的とし、日本や諸外国の健康・栄養問題、管理栄養士制度や栄養士制度、我が国の栄養施策としての国民健康・栄養調査の方法およびその結果や食生活指針、運動指針、休養指針などの指針、健康日本21、食事バランスガイド等について学ぶ。また、栄養施策の根拠法として健康増進法、地域保健法、栄養士法、食育基本法について学ぶ。						
到達目標	公衆栄養学の主な対象と目的について理解し、暗記し、説明することができる。 日本で実施されている主な栄養施策の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。 日本で施行されている健康増進法、食育基本法、栄養士法など公衆栄養関連の法律の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。 日本の食生活、食事、食料自給率の問題について理解し、暗記し、説明することができる。						
授業計画	第1回 公衆栄養学の概念（1）公衆栄養学の定義 第2回 公衆栄養の概念（2）公衆栄養活動 第3回 公衆栄養の概念（3）公衆栄養活動の歴史 第4回 健康日本21からみた日本の健康問題（1） 第5回 健康日本21からみた日本の健康問題（2） 第6回 日本の栄養問題の現状と課題（1）食生活の変化 第7回 日本の栄養問題の現状と課題（2）食事の変化 第8回 日本の栄養問題の現状と課題（3）食環境の変化 第9回 日本の栄養問題の現状と課題（4）食料需給表 第10回 日本の栄養政策（1）栄養関連法規（健康増進法） 第11回 日本の栄養政策（2）栄養関連法規（地域保健法） 第12回 日本の栄養政策（3）食育基本法、第3次食育推進基本計画 第13回 日本の栄養政策（4）日本の栄養士制度、栄養士法、栄養関連法規 第14回 日本の栄養政策（5）国民健康・栄養調査 第15回 日本の栄養政策（6）食生活指針 第16回 公衆栄養学の歴史、公衆栄養学Ⅰ期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を予習し、事前にワークノートを記入する（詳細は授業内で指示）（学習時間60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容要点、重要箇所の確認・整理する。授業開始時に実施する松蔭manabaでの小テストに向けて暗記すること。（学習時間：60分）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義を行う） テーマの導入を図る質問する。重要項目について解説・講義を行う。 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	レポート5% 小テスト45% 期末試験50%						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2018年版 医歯薬出版株式会社（最新版）ISBN978-4-263-70717-3 ※2019年の発刊があれば希望する 『管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート』 女子栄養大学出版（社会・環境と健康で使用するため新たに購入の必要なし）ISBN-10: 4789524337						
参考書	日本人の食事摂取基準2020 第一出版						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆栄養学Ⅱ						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域住民・集団の栄養問題、公衆栄養活動計画の作成、実施、モニタリング・評価						
授業の概要	公衆栄養学Ⅰで習得した知識を基に、保健、医療、福祉、介護システムの中で、栄養上ハイリスク集団の特定とともに、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的な公衆栄養マネジメントに必要な理論と方法を習得することを目的に、対象集団の状況を的確に把握、適切な公衆栄養プログラムの計画作成・実施・評価に必要な理論や方法の習得と、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、コミュニケーションの管理などの仕組みについて学ぶ。						
到達目標	先進国、開発途上国の主な栄養問題について理解し、暗記し、説明することができる。 多国籍援助機関の栄養に関する主な活動について理解し、暗記し、説明することができる。 公衆栄養アセスメントに用いる主な既存の資料の調査名、調査内容、担当省庁を理解し、暗記し、説明することができる。 食事摂取基準2015の各指標、集団の栄養アセスメント・改善計画への活用について、理解し、暗記し、説明することができる。 公衆栄養活動計画の目標設定、計画作成、評価の方法の基本的事項について理解し、暗記し、説明することができる。						
授業計画	第1回 日本の栄養政策（1）公衆栄養学Ⅰの復習、公衆栄養実施機関 第2回 日本の栄養政策（2）食事バランスガイド、特定健診・特定保健指導 第3回 諸外国の栄養問題（1）先進国 第4回 諸外国の栄養政策（2）開発途上国 第5回 諸外国の栄養政策（3）国際協力機関の栄養政策 第6回 諸外国の栄養政策（4）諸外国の栄養政策 第7回 公衆栄養アセスメント（1）既存の資料 第8回 公衆栄養アセスメント（2）社会調査法 第9回 公衆栄養アセスメント（3）食事調査法 第10回 公衆栄養プログラムの計画（1）目標設定 第11回 公衆栄養プログラムの計画（2）計画策定・実施 第12回 公衆栄養プログラムの評価 第13回 公衆栄養プログラムの展開（1）ライフステージ 第14回 公衆栄養プログラムの展開（2）災害時の栄養政策 第15回 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を予習し、事前にワークノートを記入する（詳細は授業内で指示）（学習時間60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容要点、重要箇所の確認・整理する。授業開始時に実施する松蔭manabaでの小テストに向けて暗記すること。（学習時間：60分）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義を行う） テーマの導入を図る質問する。重要項目について解説・講義を行う。 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	レポート5% 小テスト45% 期末試験50%						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2018年版 医歯薬出版株式会社（最新版）ISBN978-4-263-70717-3 ※2018年後期の公衆栄養学Ⅰで使用した教科書を使用するため新たに購入する必要はありません。						
参考書	日本人の食事摂取基準2015 第一出版						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆栄養学Ⅱ						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域住民・集団の栄養問題、公衆栄養活動計画の作成、実施、モニタリング・評価						
授業の概要	公衆栄養学Ⅰで習得した知識を基に、保健、医療、福祉、介護システムの中で、栄養上ハイリスク集団の特定とともに、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的な公衆栄養マネジメントに必要な理論と方法を習得することを目的に、対象集団の状況を的確に把握、適切な公衆栄養プログラムの計画作成・実施・評価に必要な理論や方法の習得と、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、コミュニケーションの管理などの仕組みについて学ぶ。						
到達目標	先進国、開発途上国の主な栄養問題について理解し、暗記し、説明することができる。 多国籍援助機関の栄養に関する主な活動について理解し、暗記し、説明することができる。 公衆栄養アセスメントに用いる主な既存の資料の調査名、調査内容、担当省庁を理解し、暗記し、説明することができる。 食事摂取基準2015の各指標、集団の栄養アセスメント・改善計画への活用について、理解し、暗記し、説明することができる。 公衆栄養活動計画の目標設定、計画作成、評価の方法の基本的事項について理解し、暗記し、説明することができる。						
授業計画	第1回 日本の栄養政策（1）公衆栄養学Ⅰの復習、公衆栄養実施機関 第2回 日本の栄養政策（2）食事バランスガイド、特定健診・特定保健指導 第3回 諸外国の栄養問題（1）先進国 第4回 諸外国の栄養政策（2）開発途上国 第5回 諸外国の栄養政策（3）国際協力機関の栄養政策 第6回 諸外国の栄養政策（4）諸外国の栄養政策 第7回 公衆栄養アセスメント（1）既存の資料 第8回 公衆栄養アセスメント（2）社会調査法 第9回 公衆栄養アセスメント（3）食事調査法 第10回 公衆栄養プログラムの計画（1）目標設定 第11回 公衆栄養プログラムの計画（2）計画策定・実施 第12回 公衆栄養プログラムの評価 第13回 公衆栄養プログラムの展開（1）ライフステージ 第14回 公衆栄養プログラムの展開（2）災害時の栄養政策 第15回 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を予習し、事前にワークノートを記入する（詳細は授業内で指示）（学習時間60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容要点、重要箇所の確認・整理する。授業開始時に実施する松蔭manabaでの小テストに向けて暗記すること。（学習時間：60分）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義を行う） テーマの導入を図る質問する。重要項目について解説・講義を行う。 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	レポート5% 小テスト45% 期末試験50%						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2018年版 医歯薬出版株式会社（最新版）ISBN978-4-263-70717-3 ※2018年後期の公衆栄養学Ⅰで使用した教科書を使用するため新たに購入する必要はありません。						
参考書	日本人の食事摂取基準2015 第一出版						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆栄養学実習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆栄養マネジメントの実践						
授業の概要	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態のものに対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解できるよう実習、演習を行う。						
到達目標	食事摂取基準を用いて、集団の栄養アセスメントを行うことができる。 集団の栄養アセスメントを行い、課題を選択し、公衆栄養計画を作成することができる。 秤量法食事記録法、24時間思い出し法の食事調査を行うことができる。 食環境の整備について理解し、整備の推進について考察することができる。						
授業計画	第1回 公衆栄養アセスメントの実践(1) 演習1 食事記録法(秤量法)の説明 演習2 食物摂取頻度調査(FFQ)の実施 第2回 公衆栄養アセスメントの実践(2) 演習3 24時間思い出し法 第3回 公衆栄養アセスメントの実践(3) 演習1 食事記録法 栄養価計算 第4回 公衆栄養アセスメントの実践(4) 演習4 食事記録法データ分析(基本統計量) 第5回 公衆栄養アセスメントの実践(5) 演習4 栄養素摂取量の分析(基本統計量) 第6回 公衆栄養アセスメントの実践(6) 演習5 食事摂取基準を用いた集団の評価、食品群別摂取量分析 第7回 公衆栄養アセスメントの実践(7) 演習5 問題分析(アンケート分析)プレゼンテーション 第8回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(1) 演習6 課題の選択 第9回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(2) 演習6 公衆栄養活動計画Ⅰ、Ⅱの作成 第10回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(3) 演習6 事業実施計画書の作成 第11回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(4) 演習6 公衆栄養活動計画のプレゼンテーション 第12回 公衆栄養プログラムの計画書の修正、質疑応答等への対応 第13回 公衆栄養マネジメントに関するまとめ 第14回 食環境整備演習まとめ 第15回 食環境整備演習の発表、小テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前が学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所の予習(詳細は授業内で指示)(学習時間30分) 授業後学習：授業内容に関する課題の実施、重要箇所の確認・整理、manabaで提示するレポートの作成(2-3回)(120分)						
授業方法	食事調査(記録法、24時間思い出し法、国民健康栄養調査)はペアで、調査者と対象者に分かれて行う。公衆栄養プログラムアセスメント、目標設定、公衆栄養活動計画は、4-5名のグループで実施する。各課題毎に発表し、クラス内でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	授業態度(実習への取り組み)10%、課題・レポート60%、小テスト30% 授業態度：グループワークへの取り組み、グループ討議への参加度、グループもしくは個人で作成したレポート・課題の内容により、総合的に判断する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語厳禁。						
教科書	現場で役立つ公衆栄養学実習 同文書院(2015年3月)						
参考書	日本人の食事摂取基準2015 (発行所) 第一出版						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	公衆栄養学実習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆栄養マネジメントの実践						
授業の概要	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態のものに対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解できるよう実習、演習を行う。						
到達目標	食事摂取基準を用いて、集団の栄養アセスメントを行うことができる。 集団の栄養アセスメントを行い、課題を選択し、公衆栄養計画を作成することができる。 秤量法食事記録法、24時間思い出し法の食事調査を行うことができる。 食環境の整備について理解し、整備の推進について考察することができる。						
授業計画	第1回 公衆栄養アセスメントの実践(1) 演習1 食事記録法(秤量法)の説明 演習2 食物摂取頻度調査(FFQ)の実施 第2回 公衆栄養アセスメントの実践(2) 演習3 24時間思い出し法 第3回 公衆栄養アセスメントの実践(3) 演習1 食事記録法 栄養価計算 第4回 公衆栄養アセスメントの実践(4) 演習4 食事記録法データ分析(基本統計量) 第5回 公衆栄養アセスメントの実践(5) 演習4 栄養素摂取量の分析(基本統計量) 第6回 公衆栄養アセスメントの実践(6) 演習5 食事摂取基準を用いた集団の評価、食品群別摂取量分析 第7回 公衆栄養アセスメントの実践(7) 演習5 問題分析(アンケート分析)プレゼンテーション 第8回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(1) 演習6 課題の選択 第9回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(2) 演習6 公衆栄養活動計画Ⅰ、Ⅱの作成 第10回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(3) 演習6 事業実施計画書の作成 第11回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(4) 演習6 公衆栄養活動計画のプレゼンテーション 第12回 公衆栄養プログラムの計画書の修正、質疑応答等への対応 第13回 公衆栄養マネジメントに関するまとめ 第14回 食環境整備演習まとめ 第15回 食環境整備演習の発表、小テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前が学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所の予習(詳細は授業内で指示)(学習時間30分) 授業後学習：授業内容に関する課題の実施、重要箇所の確認・整理、manabaで提示するレポートの作成(2-3回)(120分)						
授業方法	食事調査(記録法、24時間思い出し法、国民健康栄養調査)はペアで、調査者と対象者に分かれて行う。公衆栄養プログラムアセスメント、目標設定、公衆栄養活動計画は、4-5名のグループで実施する。各課題毎に発表し、クラス内でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	授業態度(実習への取り組み)10%、課題・レポート60%、小テスト30% 授業態度：グループワークへの取り組み、グループ討議への参加度、グループもしくは個人で作成したレポート・課題の内容により、総合的に判断する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語厳禁。						
教科書	現場で役立つ公衆栄養学実習 同文書院(2015年3月)						
参考書	日本人の食事摂取基準2015 (発行所) 第一出版						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	社会と健康						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る制度・法規の理解						
授業の概要	公衆衛生学とは、集団を対象とした命を衛る学問である。すなわち、地域社会の組織的な取り組みによって、疾病頻度、疾病による健康障害を減少させ、健康寿命の延伸を図り、身体的・精神的能力を増進するための科学であり技術である。激しく変化する社会情勢に対応した実践活動に必要な、保健・医療・福祉の制度と関連法規を理解する。						
到達目標	公衆衛生学を概説できる。 保健・医療・福祉・介護の制度と法規を理解する。						
授業計画	1. 社会保障制度 2. 医療制度 - 医療保険制度 3. 医療制度 - 医療費、医療計画 4. 福祉制度 5. 地域保健 6. 母子保健 7. 成人保健 8. 高齢者保健 9. 介護保険制度 10. 前半まとめ 中間試験 11. 産業保健 12. 学校保健 13. 国際保健 14. 公衆衛生関連法規 15. まとめ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読むとともに、マスメディア等から関連する話題について情報収集を行う。 授業後は配布プリントを必ず復習し単語帳に整理する。 予習・復習各30分程度。						
授業方法	講義 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 予習及び講義の理解度等について適宜指名して確認を行う。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験・期末試験・小テスト90% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2019年版 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第7版女子栄養大学出版部						
参考書	医歯薬出版公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 公衆衛生マニュアル 2018 南山堂						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	社会と健康						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る制度・法規の理解						
授業の概要	公衆衛生学とは、集団を対象とした命を衛る学問である。すなわち、地域社会の組織的な取り組みによって、疾病頻度、疾病による健康障害を減少させ、健康寿命の延伸を図り、身体的・精神的能力を増進するための科学であり技術である。激しく変化する社会情勢に対応した実践活動に必要な、保健・医療・福祉の制度と関連法規を理解する。						
到達目標	公衆衛生学を概説できる。 保健・医療・福祉・介護の制度と法規を理解する。						
授業計画	1. 社会保障制度 2. 医療制度 - 医療保険制度 3. 医療制度 - 医療費、医療計画 4. 福祉制度 5. 地域保健 6. 母子保健 7. 成人保健 8. 高齢者保健 9. 介護保険制度 10. 前半まとめ 中間試験 11. 産業保健 12. 学校保健 13. 国際保健 14. 公衆衛生関連法規 15. まとめ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読むとともに、マスメディア等から関連する話題について情報収集を行う。 授業後は配布プリントを必ず復習し単語帳に整理する。 予習・復習各30分程度。						
授業方法	講義 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 予習及び講義の理解度等について適宜指名して確認を行う。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験・期末試験・小テスト90% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2019年版 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第7版女子栄養大学出版部						
参考書	医歯薬出版公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 公衆衛生マニュアル 2018 南山堂						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	社会と健康基礎演習						
担当教員	田中 あゆ子・千歳 万里					科目ナンバー	
学期	前期 前半	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学びの基礎及び管理栄養士・栄養士への導入教育						
授業の概要	大学教育の基礎を理解し学生生活を含む総合的な初期演習を行う。また、管理栄養士の仕事を理解し、社会の多様なニーズに対応できる管理栄養士になるための動機付けを行う。（オムニバス方式／全15回） 授業初回は、担当教員2名が講義の説明及びオリエンテーション及び学内オリエンターリングを実施する。（田中あゆ子・千歳万里/1回 共同） 高校から大学への学問の転換を理解し、大学生活が円滑に進むよう演習を行う。また、健康と社会の関わりを知り、職務に必要な知識を得る。（田中あゆ子/7回） 管理栄養士の活動分野、業務内容および役割を学び、管理栄養士に必要な知識、技術を学ぶ必要性を理解する。（千歳万里/7回）						
到達目標	受講ルールを理解する。 学習支援ICTサービス及び図書館等施設・設備を利用できる。 管理栄養士・栄養士の役割と業務を理解するとともに、管理栄養士を目指す強い動機を持つようになる。						
授業計画	1. 大学生活の初めにあたって(1) 受講ルールとマナー（田中） 2. 大学生活の初めにあたって(2) キャンパス探訪（田中・千歳） 3. 図書館の利用と情報収集(1) オリエンテーション（田中） 4. 図書館の利用と情報収集(2) 健康に関する社会問題（田中） 5. 食生活と健康（千歳） 6. 管理栄養士の役割と業務(1) 事業所（千歳） 7. 大学における学びの基礎(1) 数学基礎（田中） 8. 大学における学びの基礎(2) 表計算ソフトを用いた計算（田中） 9. 学習支援ICTサービスの活用（田中） 10. 学びの基礎まとめ（田中） 11. 管理栄養士の役割と業務(2) 病院（千歳） 12. 管理栄養士の役割と業務(3) 福祉施設・行政、食生活・栄養と健康の変化と課題（千歳） 13. 管理栄養士の歴史（千歳） 14. 地球レベルでの栄養の課題と取組（千歳） 15. 管理栄養士・栄養士の仕事と職業倫理 試験（千歳）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前後に教科書の該当範囲を読み、予習・復習課題を行う。予習・復習各1時間程度。 第3回、第4回までに、現在社会問題となっている健康問題について、マスメディア等から情報収集を行う。 第5回の栄養士・管理栄養士制度について復習し、定義を暗記する。 第6回、第11回、第12回までに、ウェブサイトから管理栄養士の活躍の様子が分かる情報を収集する。 第7回、第8回の計算の基礎を習得するまで繰り返し復習する。 第9回の授業後に、ICTを用いた簡単な課題を出す。期日までに提出できるようICT操作の習得及び日常使用している機器の設定を確認する。 第13回の栄養価計算を習得するまで繰り返し復習する。						
授業方法	講義・演習 オリエンターリングによるキャンパス探訪は、学生が主体となって学内の施設を把握する。 全15回中半数以上は、ICTを活用した双方向型授業を行う。						
評価基準と評価方法	担当教員各50%ずつ評価する。 平常点10%、課題40%、試験・小テスト50% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 第一出版						
参考書	管理栄養士コースで学ぶ！ 同文書院						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	社会と健康基礎演習						
担当教員	田中 あゆ子・千歳 万里					科目ナンバー	
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学びの基礎及び管理栄養士・栄養士への導入教育						
授業の概要	大学教育の基礎を理解し学生生活を含む総合的な初期演習を行う。また、管理栄養士の仕事を理解し、社会の多様なニーズに対応できる管理栄養士になるための動機付けを行う。（オムニバス方式／全15回） 授業初回は、担当教員2名が講義の説明及びオリエンテーション及び学内オリエンターリングを実施する。（田中あゆ子・千歳万里/1回 共同） 高校から大学への学問の転換を理解し、大学生活が円滑に進むよう演習を行う。また、健康と社会の関わりを知り、職務に必要な知識を得る。（田中あゆ子/7回） 管理栄養士の活動分野、業務内容および役割を学び、管理栄養士に必要な知識、技術を学ぶ必要性を理解する。（千歳万里/7回）						
到達目標	受講ルールを理解する。 学習支援ICTサービス及び図書館等施設・設備を利用できる。 管理栄養士・栄養士の役割と業務を理解するとともに、管理栄養士を目指す強い動機を持つようになる。						
授業計画	1. 大学生活の初めにあたって(1) 受講ルールとマナー（田中） 2. 大学生活の初めにあたって(2) キャンパス探訪（田中・千歳） 3. 図書館の利用と情報収集(1) オリエンテーション（田中） 4. 図書館の利用と情報収集(2) 健康に関する社会問題（田中） 5. 食生活と健康（千歳） 6. 管理栄養士の役割と業務(1) 事業所（千歳） 7. 大学における学びの基礎(1) 数学基礎（田中） 8. 大学における学びの基礎(2) 表計算ソフトを用いた計算（田中） 9. 学習支援ICTサービスの活用（田中） 10. 学びの基礎まとめ（田中） 11. 管理栄養士の役割と業務(2) 病院（千歳） 12. 管理栄養士の役割と業務(3) 福祉施設・行政、食生活・栄養と健康の変化と課題（千歳） 13. 管理栄養士の歴史（千歳） 14. 地球レベルでの栄養の課題と取組（千歳） 15. 管理栄養士・栄養士の仕事と職業倫理 試験（千歳）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前後に教科書の該当範囲を読み、予習・復習課題を行う。予習・復習各1時間程度。 第3回、第4回までに、現在社会問題となっている健康問題について、マスメディア等から情報収集を行う。 第5回の栄養士・管理栄養士制度について復習し、定義を暗記する。 第6回、第11回、第12回までに、ウェブサイトから管理栄養士の活躍の様子が分かる情報を収集する。 第7回、第8回の計算の基礎を習得するまで繰り返し復習する。 第9回の授業後に、ICTを用いた簡単な課題を出す。期日までに提出できるようICT操作の習得及び日常使用している機器の設定を確認する。 第13回の栄養価計算を習得するまで繰り返し復習する。						
授業方法	講義・演習 オリエンターリングによるキャンパス探訪は、学生が主体となって学内の施設を把握する。 全15回中半数以上は、ICTを活用した双方向型授業を行う。						
評価基準と評価方法	担当教員各50%ずつ評価する。 平常点10%、課題40%、試験・小テスト50% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはこちらからナビゲーション 第一出版						
参考書	管理栄養士コースで学ぶ！ 同文書院						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食行動論						
担当教員	山中 祥子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	われわれは、なぜ食べるのか、なぜ食べやめるのか？ 食べるという行動を心理学の理論から考え、理解する。						
授業の概要	われわれが食物を食べるのは単に生命維持の目的だけでない。おいしいものを食べる楽しみであったり、だれかと一緒に食べるといった社会的な目的によって食べているのである。このように普段何気なく行っているという行動には、認知、価値判断、感情、文化・社会規範など様々な要因が影響している。この授業では食行動を通じ、人間の行動特性とその基本なメカニズムを理解することを目的とする。						
到達目標	「食べる」ことに関するさまざまな疑問を心理学的な理論を基に、自分の言葉で説明することができる。						
授業計画	第1回 管理栄養士になぜ食行動の理解が必要なのか。食べることに関する様々な疑問について 第2回 食行動の生理的基礎 ① 末梢要因 第3回 食行動の生理的基礎 ② 摂食のコントロール 第4回 食行動の生理的基礎 ③ 中枢要因 中枢神経による摂食のコントロール 第5回 食行動における学習の影響 ① 古典的条件づけ・オペラント条件づけ・観察学習の原理 第6回 食行動における学習の影響 ② 食事の開始と停止に関する学習の影響 学習による生理的要因の調整 第7回 好き嫌いに関する学習 第8回 偏食 第9回 食行動と環境要因 ①食器の大きさ・形状・見え・入手可能性 第10回 食行動と環境要因 ②食べ物の要因 一食分の量・甘味料 第11回 食行動と認知 第12回 食行動と社会的要因 第13回 食行動と態度・感情要因 第14回 食と消費者行動 第15回 肥満とダイエット						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：専門用語も多くでてくるので、必ず授業前に教科書を読んでくること。（学習時間90分） 授業後学習：必ず教科書を読み返し、ノートを整理すること。また小レポートのコメントは必ず目を通し、どこが理解できていなかったのか、誤解していたのか等を各自確認しておくこと。（学習時間90分）						
授業方法	講義 テーマごとにレポート作成前にグループまたはペアでディスカッションを行う。 また松蔭manabaを利用した小テストを行う。						
評価基準と評価方法	テーマ毎に授業の最後に講義内容の要点をまとめて、小レポートを提出してもらう予定です。 評価は、この小レポートを含む平常点40％、期末レポート60％で評価します。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は厳禁。 居眠り、私語、途中退出については厳しく対処（平常点より減点）する。 遅刻は授業開始後20分を限度とする。 授業回数の1/3以上欠席した場合は単位認定試験（期末レポート）の受験資格を失うものとする。 （講義内容は多少変更する可能性があります）						
教科書	心理学からみた食べる行動 基礎から臨床までを科学する 青山謙二郎・武藤崇編著 北大路書房						
参考書	食べることの心理学 今田純雄編 有斐閣選書						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食行動論						
担当教員	山中 祥子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	われわれは、なぜ食べるのか、なぜ食べやめるのか？ 食べるという行動を心理学の理論から考え、理解する。						
授業の概要	われわれが食物を食べるのは単に生命維持の目的だけでない。おいしいものを食べる楽しみであったり、だれかと一緒に食べるといった社会的な目的によって食べているのである。このように普段何気なく行っているという行動には、認知、価値判断、感情、文化・社会規範など様々な要因が影響している。この授業では食行動を通じ、人間の行動特性とその基本なメカニズムを理解することを目的とする。						
到達目標	「食べる」ことに関するさまざまな疑問を心理学的な理論を基に、自分の言葉で説明することができる。						
授業計画	第1回 管理栄養士になぜ食行動の理解が必要なのか。食べることにする様々な疑問について 第2回 食行動の生理的基礎 ① 末梢要因 第3回 食行動の生理的基礎 ② 摂食のコントロール 第4回 食行動の生理的基礎 ③ 中枢要因 中枢神経による摂食のコントロール 第5回 食行動における学習の影響 ① 古典的条件づけ・オペラント条件づけ・観察学習の原理 第6回 食行動における学習の影響 ② 食事の開始と停止に関する学習の影響 学習による生理的要因の調整 第7回 好き嫌いに関する学習 第8回 偏食 第9回 食行動と環境要因 ①食器の大きさ・形状・見え・入手可能性 第10回 食行動と環境要因 ②食べ物の要因 一食分の量・甘味料 第11回 食行動と認知 第12回 食行動と社会的要因 第13回 食行動と態度・感情要因 第14回 食と消費者行動 第15回 肥満とダイエット						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：専門用語も多くでてくるので、必ず授業前に教科書を読んでくること。（学習時間90分） 授業後学習：必ず教科書を読み返し、ノートを整理すること。また小レポートのコメントは必ず目を通し、どこが理解できていなかったのか、誤解していたのか等を各自確認しておくこと。（学習時間90分）						
授業方法	講義 テーマごとにレポート作成前にグループまたはペアでディスカッションを行う。 また松蔭manabaを利用した小テストを行う。						
評価基準と評価方法	テーマ毎に授業の最後に講義内容の要点をまとめて、小レポートを提出してもらう予定です。 評価は、この小レポートを含む平常点40％、期末レポート60％で評価します。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は厳禁。 居眠り、私語、途中退出については厳しく対処（平常点より減点）する。 遅刻は授業開始後20分を限度とする。 授業回数の1/3以上欠席した場合は単位認定試験（期末レポート）の受験資格を失うものとする。 （講義内容は多少変更する可能性があります）						
教科書	心理学からみた食べる行動 基礎から臨床までを科学する 青山謙二郎・武藤崇編著 北大路書房						
参考書	食べることの心理学 今田純雄編 有斐閣選書						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食事摂取基準理論						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「日本人の食事摂取基準2015」 ・各指標の定義や策定の科学的根拠 ・エネルギー・栄養素の摂取基準策定の科学的根拠						
授業の概要	「日本人の食事摂取基準」は、わが国の栄養政策の基本として、国民の健康の保持・増進を図る上で摂取することが望ましいエネルギー及び栄養素の量の基準を示すものである。本科目では、「日本人の食事摂取基準」の意義や定義を理解した上で実務において活用するために、科学的根拠に基づいたエネルギー・栄養素の指標の策定のための基礎理論を学ぶ。						
到達目標	1. 食事摂取基準の概念・目的・対象について説明することができる。 2. 食事摂取基準の各指標の定義と意義を説明できる。 3. 食事摂取基準の活用についての概念・意義を説明することができる。						
授業計画	第1回 食事摂取基準の概要（食事摂取基準の意義・目的と対象） 第2回 科学的根拠に基づいた策定（食事摂取基準の指標） 第3回 食事摂取基準策定の基礎理論① エネルギー・栄養素摂取の過不足からの回避を目的とした指標の特徴 第4回 食事摂取基準策定の基礎理論② 生活習慣病の一次予防を目的とした指標の特徴 第5回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準①エネルギー 第6回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準②たんぱく質 第7回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準③脂質・エネルギー産生バランス 第8回 中間まとめと試験 第9回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準④脂溶性ビタミン 第10回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準⑤水溶性ビタミン 第11回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準⑥多量ミネラル 第12回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準⑦微量ミネラル 第13回 食事摂取基準活用の基礎理論① 個人の食事改善を目的とした評価・計画と実施 第14回 食事摂取基準活用の基礎理論② 集団の食事改善を目的とした評価・計画と実施・給食管理を目的とした評価と計画の決定 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指示されている範囲を、教科書で予習して読んでおくこと。 授業後学習：毎回、重要ポイントを示し、確認テストに出題します。						
授業方法	講義を中心に、授業の確認や復習のため、質疑応答や小テストも随時行う。						
評価基準と評価方法	小テスト（45％）、定期試験（55％）を総合して評価						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版（未定） 出版次第購入する。発行まではプリントの印刷を行う。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品衛生学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食餌性病害の原因は予防可能か、また、その方法について学ぶ。						
授業の概要	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性の確保および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。 本講義では、食中毒や食品添加物を中心として、食品衛生に関連する最新情報について解説する。						
到達目標	・食品汚染を引き起こす微生物や有害物質について述べることができる ・食品添加物の有用性と安全性を説明することができる ・食の安全に関する諸問題に適切に対応するための知識と判断力を身につける						
授業計画	第1回 食品の安全 第2回 食品衛生と法規 第3回 食品の変質とその防止(1) -微生物による変質 第4回 食品の変質とその防止(2) -化学的変質 第5回 食中毒(1) -食中毒の分類 第6回 食中毒(2) -細菌性食中毒① 第7回 食中毒(3) -細菌性食中毒② 第8回 食中毒(4) -ウィルス性食中毒、寄生虫 第9回 食中毒(5) -自然毒、化学性食中毒 第10回 食中毒(6) -かび毒、寄生虫、衛生動物 第11回 有害物質と食品の安全性 -放射性物質、有害元素、農薬 第12回 食品添加物と安全性(1) -食品添加物の分類、安全性評価 第13回 食品添加物と安全性(2) -食品添加物の有用性と安全性 第14回 食品衛生対策 第15回 食品の器具と容器包装 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。（学習時間1.5時間） 授業後学習：毎回の授業後に必ずノートを整理し、復習するようにすること（学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる）。（学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	小テスト：10％ 期末試験：90％						
履修上の注意	学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 20分未満の遅刻等は、原則として1/3回欠席とみなす。 遅刻等により20分以上不在の場合は、その回の授業は原則欠席扱いとなる。						
教科書	健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康『食品の安全』改訂第2版（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修、有蘭幸司 編） ISBN：978-4-524-24532-1						
参考書	『新 食品衛生学要説』医歯薬出版 細貝祐太郎、松本昌雄、廣末トシ子 編						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品衛生学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食餌性病害の原因は予防可能か、また、その方法について学ぶ。						
授業の概要	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性の確保および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。 本講義では、食中毒や食品添加物を中心として、食品衛生に関連する最新情報について解説する。						
到達目標	・食品汚染を引き起こす微生物や有害物質について述べることができる ・食品添加物の有用性と安全性を説明することができる ・食の安全に関する諸問題に適切に対応するための知識と判断力を身につける						
授業計画	第1回 食品の安全 第2回 食品衛生と法規 第3回 食品の変質とその防止(1) -微生物による変質 第4回 食品の変質とその防止(2) -化学的変質 第5回 食中毒(1) -食中毒の分類 第6回 食中毒(2) -細菌性食中毒① 第7回 食中毒(3) -細菌性食中毒② 第8回 食中毒(4) -ウィルス性食中毒、寄生虫 第9回 食中毒(5) -自然毒、化学性食中毒 第10回 食中毒(6) -かび毒、寄生虫、衛生動物 第11回 有害物質と食品の安全性 -放射性物質、有害元素、農薬 第12回 食品添加物と安全性(1) -食品添加物の分類、安全性評価 第13回 食品添加物と安全性(2) -食品添加物の有用性と安全性 第14回 食品衛生対策 第15回 食品の器具と容器包装 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。（学習時間1.5時間） 授業後学習：毎回の授業後に必ずノートを整理し、復習するようにすること（学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる）。（学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	小テスト：10％ 期末試験：90％						
履修上の注意	学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 20分未満の遅刻等は、原則として1/3回欠席とみなす。 遅刻等により20分以上不在の場合は、その回の授業は原則欠席扱いとなる。						
教科書	健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康『食品の安全』改訂第2版（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修、有蘭幸司 編） ISBN：978-4-524-24532-1						
参考書	『新 食品衛生学要説』医歯薬出版 細貝祐太郎、松本昌雄、廣末トシ子 編						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品衛生学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品の変質に関する微生物の特性および科学的手法による腐敗・変敗の測定を行う。						
授業の概要	微生物の中でも細菌類を中心として、その増殖特性、耐性特性および芽胞と栄養細胞の特性の相違などを取り上げる。 また、食品添加物となっている化学物質の検出・定量を行う。						
到達目標	・「食の安全性、有益性、健全性を守る」ための検査・試験方法を理解することができる ・食品衛生学（講義）で得た知識を、実験で活用することができる ・食品の悪変に関する微生物の特性および科学的手法を説明することができる						
授業計画	第1回 実験室における一般的な心得および食品衛生学実験の概要説明 空中落下菌 第2回 手指の衛生検査 第3回 食品中の細菌数 第4回 食品中の腸炎ビブリオ菌試験 第5回 食品中のサルモネラ属菌試験簡易キットを利用した検査法 第6回 簡易キットを利用した検査法ヒトの黄色ブドウ球菌試験 第7回 大腸菌群試験 第8回 ヒトの黄色ブドウ球菌試験 第9回 微生物実験の総括 第10回 魚介類の寄生虫の確認・魚の鮮度判定 第11回 合成洗剤の残留検査 牛乳の鮮度測定 第12回 でんぷん・たんぱく質・油脂の残留試験 第13回 食用油脂の劣化試験（過酸化価および酸価） 第14回 食品添加物（発色剤）の分析 第15回 食品添加物（保存料・着色料）の分析 第16回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み:10% レポート(課題を含む):50% テスト:40%						
履修上の注意	実験は、単に出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察し、結果をレポートにまとめ、その実験の意義を考察することが必要である。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。						
教科書	プリント配布						
参考書	『図解 食品衛生学実験 第3版』一戸正勝・西島基弘・石田裕 編、講談社、ISBN 978-4-06-139836-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品衛生学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品の変質に関係する微生物の特性および科学的手法による腐敗・変敗の測定を行う。						
授業の概要	微生物の中でも細菌類を中心として、その増殖特性、耐性特性および芽胞と栄養細胞の特性の相違などを取り上げる。 また、食品添加物となっている化学物質の検出・定量を行う。						
到達目標	・「食の安全性、有益性、健全性を守る」ための検査・試験方法を理解することができる ・食品衛生学（講義）で得た知識を、実験で活用することができる ・食品の悪変に関係する微生物の特性および科学的手法を説明することができる						
授業計画	第1回 実験室における一般的な心得および食品衛生学実験の概要説明 空中落下菌 第2回 手指の衛生検査 第3回 食品中の細菌数 第4回 食品中の腸炎ビブリオ菌試験 第5回 食品中のサルモネラ属菌試験簡易キットを利用した検査法 第6回 簡易キットを利用した検査法ヒトの黄色ブドウ球菌試験 第7回 大腸菌群試験 第8回 ヒトの黄色ブドウ球菌試験 第9回 微生物実験の総括 第10回 魚介類の寄生虫の確認・魚の鮮度判定 第11回 合成洗剤の残留検査 牛乳の鮮度測定 第12回 でんぷん・たんぱく質・油脂の残留試験 第13回 食用油脂の劣化試験（過酸化価および酸価） 第14回 食品添加物（発色剤）の分析 第15回 食品添加物（保存料・着色料）の分析 第16回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10% レポート（課題を含む）：50% テスト：40%						
履修上の注意	実験は、単に出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察し、結果をレポートにまとめ、その実験の意義を考察することが必要である。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。						
教科書	プリント配布						
参考書	『図解 食品衛生学実験 第3版』一戸正勝・西島基弘・石田裕 編、講談社、ISBN 978-4-06-139836-8						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品加工実習						
担当教員	川窪 淳子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	身近な食品の加工						
授業の概要	食品加工の原理と実際 食品素材の保存あるいは栄養性や嗜好性の改善などを目的として加工食品は作られてきたものである。糀をつかって味噌を作るというような実際の加工操作を通じて原材料の種類や量などを実感し、それぞれの工程を具体的に把握するとともに、実験に対する観察力と科学的思考力を養う。また、実際に実習で加工したものと市販品との違いから、現在の加工技術の進歩や食品添加物の現状についても考えることを目的とする。以上のことを実践するために、穀類、豆類、イモ類、果実・野菜類、畜産物などの加工品について、それぞれ例をあげ実習・実験を行う。						
到達目標	身近な加工食品が、それぞれどのような工程で作られているのかを知ることができ、その加工原理について説明することができる。また、実際に実習を行うことによって、いろいろな食品加工の技術や原材料、使用されている食品添加物などについての理解を深めることができ、それぞれの加工食品を作ることができる。また、実習した内容について、考察ができレポートを作成することができる。						
授業計画	第1回 実習における諸注意 実習の各内容について 第2回 豆類の加工 味噌の仕込み、きな粉 第3回 味噌などの発酵食品の顕微鏡観察 野菜・果実の加工 ジャムの計画 第4回 穀類の加工 団子、餅など 第5回 野菜・果実の加工 ジャム 瓶詰め、缶詰の実際 第6回 穀類の加工 パン 乳製品の加工 バター 卵類の加工 マヨネーズ 第7回 穀類の加工 グルテンの分離と麩 第8回 穀類の加工 うどん 第9回 野菜類の加工 漬物（ピクルス） キャラメル 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ くん煙 第11回 肉類の加工 ポークソーセージ 第12回 イモ類の加工 コンニャク 第13回 乳類の加工 アイスクリーム、チーズ 第14回 豆類の加工 豆腐 第15回 豆類の加工 味噌 実習のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所の加工原理を読んでください。 授業後学習：実習したことの要点をまとめてください。授業内容の理解を深めることができます。 また、まとめとして課題を出しますので、レポート作成を行ってください。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業態度（実習への取り組み）60% + レポート 40%により総合評価する。 レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	開講日数の2/3以上の出席が必要。 レポートの提出期限厳守。 第2回から実習用の白衣、帽子（調理実習用）と上靴が必要。						
教科書	食品加工学実験書 著 森 孝夫編著（化学同人）						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品学各論						
担当教員	片平 理子					科目ナンバ－	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の総合理解						
授業の概要	代表的な食品（植物性食品、動物性食品、その他の食品）について、含まれる成分の特徴を把握する。続いて、生育・生産から、加工・貯蔵、流通、調理を経て人に摂取されるまでの過程における、一次機能、二次機能、三次機能の変化を理解する。食品の表示と規格についても学び、表示から得られる情報を知る。これらの学びを通して、「食品学総論（食品学実験内容を含む）」、「食品機能学」、「調理学（調理実習、応用調理実習、調理学実験内容を含む）」の各科目で学んだ内容の相互のつながりを理解し、食品・食物を総合的に理解し安全・有効に利用する力を養う。						
到達目標	食品の3つの機能とそれらに関する食品成分について理解・暗記して説明することができる。 食品の劣化要因と劣化を防ぐ加工法・保存法を理解・暗記して説明することができる。 各種食品に含まれる成分の加工・貯蔵・調理過程における変化を理解・暗記して説明することができる。 各種加工食品の製造原理を原料食品成分の特徴や加工操作と関連づけて理解・暗記し、説明することができる。 食品の表示と規格に関する法律を理解・暗記し、表示の意味を説明することができる。						
授業計画	1. 導入：食料の生産から食物摂取までの流れ、「食べ物と健康」分野 各教科との対応 2. 食品の3つの機能 一次機能 1 水分、タンパク質、脂質 3. 一次機能 2 ビタミン、ミネラル 二次機能 嗜好成分（味、香り、色） 三次機能 特定保健用食品関与成分他 4. 食品の劣化要因と保存法 1（水分活性、pH、低温） 5. 食品の劣化要因と保存法 2（燻煙、滅菌・除菌・殺菌、食品照射、ガス組成） 6. 食品の包装、食品の加工法（物理的加工、化学的加工、生物的加工） 7. 1～6回までのまとめと中間試験 8. ～12. 食品の成分、生産・加工・保存・流通・調理に伴う諸機能変化 8. 植物性食品 1（農産加工品）穀類、豆類、いも類 9. " 2（農産加工品）野菜類、果実類、きのこ類 10. 動物性食品 1（畜産加工品）食肉類、乳類、卵類 11. " 2（水産加工品）魚介類 12. その他の食品 油脂、調味料、嗜好飲料、アルコール飲料、インスタント食品 13. 食品の表示と規格基準（食品表示法、保健機能食品、特別用途食品） 14. これからの食品産業 食料需給、安全性、食品産業の役割 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：授業計画に従って教科書（「食品加工学」）とクエスチョンバンク（QB）の該当する箇所を読み、合格のためのワークノート（WN）で重要事項の確認をします。その際、1年次授業で使用した教科書類も参照します。理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席しましょう。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しながら覚えるべき事項を暗記します。理解と暗記の確認は、QBの国家試験過去問と配布する練習問題を解いて行います。各回の授業内容を確実に理解・暗記し、問題を解く基礎力を固め、4年次の中心となる国家試験に向けての勉強につなげます。						
授業方法	講義 練習問題を解き、問題内容についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間および期末テスト90%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。（10回以上出席の場合に評価対象になる） 授業外における学習に各自確実に取り組み、授業に出席する。						
教科書	・購入するもの 食品加工学 西村公雄・松井徳光編 化学同人 ISBN978-4-7598-1117-9 ・1年次に使用した教科書（食品学総論、食品機能学、調理学）						
参考書	・クエスチョンバンク2020（夏休みに購入予定のもの） ・合格のためのワークノート 女子栄養大学出版社（他教科の参考書として購入済みのもの）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品学実験						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1～2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験の基礎 食品成分の理解						
授業の概要	食品学総論で身につけた食品学の知識を背景に、身近な食品中に含まれる炭水化物、タンパク質・アミノ酸、脂質に関する種々の定性試験を行う。また、水分と灰分については定量実験と演習を行う。これらの実験から食品の一般成分の化学的な特徴を理解する。 大学における最初の理化学実験に位置づけられるので、実験を行う上での注意、実験器具・試薬の取り扱い方、結果のまとめ方、実験レポートの構成と作成方法などの基本を学ぶ。精密な実験や機器の操作にも慣れ、2年次以降の本格的な実験につなげる。						
到達目標	実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明する事ができる。 基本的な実験技術が身につく、テキストに書かれている実験をグループ員と協力して完遂することができる。 実験レポートの構成を理解し、各実験で確認したことを科学的に説明するレポートを作成できる。 三大栄養素の化学構造と性質を説明する事ができる。 食品成分表の構成を説明する事ができる。						
授業計画	1. 実験概要の説明、実験の基礎 1（器具の使い方） 2. 実験の基礎 2（pH測定） 3. 炭水化物 1（糖の定性試験） 4. 炭水化物 2（食品からの糖抽出） 5. 炭水化物 3（糖の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出） 6. 炭水化物 4（デンプンの糊化と加水分解） 7. 実験の基礎、炭水化物のまとめと試験 8. 水分（赤外線水分計による食品の水分測定） 9. 灰分（直接灰化法による食品の灰分測定演習、食品成分表の理解） 10. タンパク質 1（タンパク質の定性試験） 11. タンパク質 2（アミノ酸の定性試験） 12. 水分、灰分、たんぱく質のまとめと試験 13. 脂質 1（脂質の定性試験） 14. 脂質 2（脂質の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出、脂質の物理的変化） 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 事前に配布されているテキストプリントを読み、実験の目的を理解し、実験ノートに実験操作の流れ図にまとめ、測定項目を記録するための表を作成し、実験結果を予想します。事前学習課題が出されている場合には、授業までに取り組み、基礎知識の復習をします。 限られた時間内に手際よく実験を行い、授業から多くを学ぶためには予習が欠かせません。 授業後学習： 実験の目的に沿って、授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。グループ学習のまとめをmanabaにアップする課題は期限を厳守して取り組みます。 * 食品学実験では、「食品学総論」「食品機能学」で学ぶ内容の理解を実験により深めることを目的としています。実験内容の関連箇所を講義で使用した教科書で確認し、理解して暗記します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点 40%、レポート点 20%、試験 40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。（10回以上出席の場合に評価対象になる）						
教科書	基礎から学ぶ 食品化学実験テキスト 谷口亜樹子、古庄律、松本憲一 編著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0500-6						
参考書	食品学総論、食品機能学、調理学の教科書 新カラーチャート食品成分表 教育図書						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品学実験						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験の基礎 食品成分の理解						
授業の概要	食品学総論で身につけた食品学の知識を背景に、身近な食品中に含まれる炭水化物、タンパク質・アミノ酸、脂質に関する種々の定性試験を行う。また、水分と灰分については定量実験と演習を行う。これらの実験から食品の一般成分の化学的な特徴を理解する。 大学における最初の理化学実験に位置づけられるので、実験を行う上での注意、実験器具・試薬の取り扱い方、結果のまとめ方、実験レポートの構成と作成方法などの基本を学ぶ。精密な実験や機器の操作にも慣れ、2年次以降の本格的な実験につなげる。						
到達目標	実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明する事ができる。 基本的な実験技術が身につく、テキストに書かれている実験をグループ員と協力して完遂することができる。 実験レポートの構成を理解し、各実験で確認したことを科学的に説明するレポートを作成できる。 三大栄養素の化学構造と性質を説明する事ができる。 食品成分表の構成を説明する事ができる。						
授業計画	1. 実験概要の説明、実験の基礎 1（器具の使い方） 2. 実験の基礎 2（pH測定） 3. 炭水化物 1（糖の定性試験） 4. 炭水化物 2（食品からの糖抽出） 5. 炭水化物 3（糖の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出） 6. 炭水化物 4（デンプンの糊化と加水分解） 7. 実験の基礎、炭水化物のまとめと試験 8. 水分（赤外線水分計による食品の水分測定） 9. 灰分（直接灰化法による食品の灰分測定演習、食品成分表の理解） 10. タンパク質 1（タンパク質の定性試験） 11. タンパク質 2（アミノ酸の定性試験） 12. 水分、灰分、たんぱく質のまとめと試験 13. 脂質 1（脂質の定性試験） 14. 脂質 2（脂質の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出、脂質の物理的変化） 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 事前に配布されているテキストプリントを読み、実験の目的を理解し、実験ノートに実験操作の流れ図にまとめ、測定項目を記録するための表を作成し、実験結果を予想します。事前学習課題が出されている場合には、授業までに取り組み、基礎知識の復習をします。 限られた時間内に手際よく実験を行い、授業から多くを学ぶためには予習が欠かせません。 授業後学習： 実験の目的に沿って、授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。グループ学習のまとめをmanabaにアップする課題は期限を厳守して取り組みます。 * 食品学実験では、「食品学総論」「食品機能学」で学ぶ内容の理解を実験により深めることを目的としています。実験内容の関連箇所を講義で使用した教科書で確認し、理解して暗記します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点 40%、レポート点 20%、試験 40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。（10回以上出席の場合に評価対象になる）						
教科書	基礎から学ぶ 食品化学実験テキスト 谷口亜樹子、古庄律、松本憲一 編著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0500-6						
参考書	食品学総論、食品機能学、調理学の教科書 新カラーチャート食品成分表 教育図書						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の成分を理解すること。						
授業の概要	食品は、非常に身近なものでありながら、その形態および成分組成は多種多様である。食品学総論では、食品とは何かを理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの化学的な特徴を理解し、食品成分に関する基礎知識を習得する。						
到達目標	・ 人間と食品（食べ物）の関わりについて説明することができる ・ 食品に含まれる主要成分の化学構造に関する基礎知識を述べるすることができる ・ 食品成分の変化と栄養について理解することができる						
授業計画	第1回 人間と食品（食べ物） 第2回 食品成分の化学構造1 - 食品と水 第3回 食品成分の化学構造2 - たんぱく質Ⅰ 第4回 食品成分の化学構造3 - たんぱく質Ⅱ 第5回 食品成分の化学構造4 - 炭水化物 第6回 食品成分の化学構造5 - 脂質Ⅰ 第7回 食品成分の化学構造6 - 脂質Ⅱ 第8回 食品成分の化学構造7 - ビタミン 第9回 食品成分の化学構造8 - ミネラル 第10回 食品成分の変化と栄養1 - 色素成分 第11回 食品成分の変化と栄養2 - 呈味成分 第12回 食品成分の変化と栄養3 - 香気成分 第13回 食品成分の変化と栄養4 - 食品の物性 第14回 食品成分の変化と栄養5 - 官能評価 第15回 食品成分の変化と栄養6 - 日本食品標準成分表、その他の成分表示 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回に学んだことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。（標準学習時間1.5時間） 授業後学習：授業で扱った範囲を教科書に沿って復習し、要点を自分でまとめておくこと。 食品学総論で取り扱う内容は、1年次後期以降において開講される専門基礎科目および専門科目を理解する上で必須である。（標準学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験：90％ 小テスト：10％						
履修上の注意	食品成分の特性を知ること、食品素材を活かした加工や調理を行う上で必要不可欠である。 疑問点や不明点が生じた場合は、放置せずに早めに解決すること。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 20分以上の遅刻や早退は、原則として欠席扱いとなる。 20分未満の遅刻等は原則として1/3回の欠席とみなす。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」（改訂第2版）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新 食品・栄養科学シリーズ「食品学総論（第3版）食べ物と健康①」森田準司・成田宏史編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1640-2 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」（増補）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品機能学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	各種食品の特徴と機能について解説する。						
授業の概要	食品機能学は、食品成分を機能成分として捉え、その生体への効果および作用機序、ならびに成分間相互作用に関する科学である。 各種食品の特性および食品中に含まれる機能性成分について述べる。						
到達目標	・食品の一次機能(栄養機能)、二次機能(感覚応答機能・嗜好性)、三次機能(生体調節機能)を具体的に述べることができる ・食品成分の働きならびに食品成分の変化や相互作用について説明することができる ・三次機能を中心に、食品が生体に及ぼす影響について列挙することができる						
授業計画	第1回 食品成分の変化と栄養1－植物性食品① 第2回 食品成分の変化と栄養2－植物性食品② 第3回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分1－植物性食品③ 第4回 食品成分の変化と栄養3－動物性食品① 第5回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分2－動物性食品② 第6回 食品成分間相互作用－油脂 第7回 食品の機能性－調味料および香辛料類 第8回 食品成分の変化と栄養4－微生物利用食品① 第9回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分3－微生物利用食品② 第10回 食品成分の変化と栄養5－食品加工と栄養 第11回 食品の三次機能1－食品の表示に関する法規 第12回 食品の三次機能2－健康や栄養に関する表示の制度 第13回 食品の三次機能3－食品の三次機能を担う成分① 第14回 食品の三次機能4－食品の三次機能を担う成分② 第15回 食品の三次機能5－特別用途食品・保健機能食品の規格基準と表示 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回に学んだことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。（標準学習時間1.5時間） 授業後学習：教科書に沿って復習し、自分専用の参考書を作成するつもりでノートを整理すること。 食品機能学で取り扱う内容が理解できていないと、2年次「食品機能学実験」を履修する際に、実験の目的や原理の理解が困難となる。（標準学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験：90％ 小テスト：10％						
履修上の注意	各回の授業の復習を重視すること。 20分未満の遅刻等は、原則として1/3回の欠席とみなす。 遅刻・早退等により20分以上不在の場合は、原則その回の授業は欠席扱いとする。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」（改訂第2版）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新 食品・栄養科学シリーズ「食品学各論(第3版) 食べ物と健康②」瀬口正晴・八田一 編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1641-9 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」（増補）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品機能学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	各種食品の特徴と機能について解説する。						
授業の概要	食品機能学は、食品成分を機能成分として捉え、その生体への効果および作用機序、ならびに成分間相互作用に関する科学である。 各種食品の特性および食品中に含まれる機能性成分について述べる。						
到達目標	・食品の一次機能(栄養機能)、二次機能(感覚応答機能・嗜好性)、三次機能(生体調節機能)を具体的に述べることができる ・食品成分の働きならびに食品成分の変化や相互作用について説明することができる ・三次機能を中心に、食品が生体に及ぼす影響について列挙することができる						
授業計画	第1回 食品成分の変化と栄養1－植物性食品① 第2回 食品成分の変化と栄養2－植物性食品② 第3回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分1－植物性食品③ 第4回 食品成分の変化と栄養3－動物性食品① 第5回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分2－動物性食品② 第6回 食品成分間相互作用－油脂 第7回 食品の機能性－調味料および香辛料類 第8回 食品成分の変化と栄養4－微生物利用食品① 第9回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分3－微生物利用食品② 第10回 食品成分の変化と栄養5－食品加工と栄養 第11回 食品の三次機能1－食品の表示に関する法規 第12回 食品の三次機能2－健康や栄養に関する表示の制度 第13回 食品の三次機能3－食品の三次機能を担う成分① 第14回 食品の三次機能4－食品の三次機能を担う成分② 第15回 食品の三次機能5－特別用途食品・保健機能食品の規格基準と表示 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回に学んだことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。（標準学習時間1.5時間） 授業後学習：教科書に沿って復習し、自分専用の参考書を作成するつもりでノートを整理すること。 食品機能学で取り扱う内容が理解できていないと、2年次「食品機能学実験」を履修する際に、実験の目的や原理の理解が困難となる。（標準学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験：90％ 小テスト：10％						
履修上の注意	各回の授業の復習を重視すること。 20分未満の遅刻等は、原則として1/3回の欠席とみなす。 遅刻・早退等により20分以上不在の場合は、原則その回の授業は欠席扱いとする。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」（改訂第2版）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新 食品・栄養科学シリーズ「食品学各論(第3版) 食べ物と健康②」瀬口正晴・八田一 編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1641-9 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」（増補）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品機能学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	後期隔週B	曜日・時限	月曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品成分の機能性や化学変化、相互作用について、実験を通して理解する。						
授業の概要	定性・定量実験や酵素実験を通じて、食品成分の諸性質を学ぶ。 食品成分を分離・抽出し、それが目的物であるかどうかを確認する。 次いで、特徴的な機能成分について、調製法や機能測定法を学ぶ。 身近な食品を取り上げ、そこに含まれている成分の諸性質を検討する。						
到達目標	・食品機能学(講義)で学んだ内容を、実験を通して利用することができる ・食品成分の測定原理を理解することができる ・機能性・化学変化・相互作用に関する理論的背景を説明することができる						
授業計画	第1回 はじめに(実験の心得, 試薬調製) 食品成分の分離（牛乳から乳脂肪, カゼイン, 乳清たんぱく質, 乳糖の分離） 第2回 成分の確認（たんぱく質の確認） 第3回 食品成分の確認（たんぱく質の確認その2:電気泳動法） 第4回 食品中の色素 第5回 食品中の機能成分(食物繊維) 第6回 食品中の機能成分について(抗酸化成分) 食品の主要成分の化学変化(酸価) 第7回 食品成分間相互作用(酵素的褐変, 非酵素的褐変) 第8回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10％ レポート：50％ 定期試験：40％						
履修上の注意	出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 ただし、実験授業は出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察を行い、結果をレポートにまとめ考察を行うという一連の過程を経て、初めて意義があるものとなる。						
教科書	プリント配布						
参考書	「食品学実験書 第3版」藤田修三・山田和彦 編著、医歯薬出版、ISBN 978-4-263-70720-3 「新版改訂 食品学実験書」青柳康夫 編著、建帛社、ISBN 978-4-7679-0596-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食品機能学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品成分の機能性や化学変化、相互作用について、実験を通して理解する。						
授業の概要	定性・定量実験や酵素実験を通じて、食品成分の諸性質を学ぶ。 食品成分を分離・抽出し、それが目的物であるかどうかを確認する。 次いで、特徴的な機能成分について、調製法や機能測定法を学ぶ。 身近な食品を取り上げ、そこに含まれている成分の諸性質を検討する。						
到達目標	・食品機能学(講義)で学んだ内容を、実験を通して利用することができる ・食品成分の測定原理を理解することができる ・機能性・化学変化・相互作用に関する理論的背景を説明することができる						
授業計画	第1回 はじめに(実験の心得, 試薬調製) 食品成分の分離（牛乳から乳脂肪, カゼイン, 乳清たんぱく質, 乳糖の分離） 第2回 成分の確認（たんぱく質の確認） 第3回 食品成分の確認（たんぱく質の確認その2:電気泳動法） 第4回 食品中の色素 第5回 食品中の機能成分(食物繊維) 第6回 食品中の機能成分について(抗酸化成分) 食品の主要成分の化学変化(酸価) 第7回 食品成分間相互作用(酵素的褐変, 非酵素的褐変) 第8回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10％ レポート：50％ 定期試験：40％						
履修上の注意	出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 ただし、実験授業は出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察を行い、結果をレポートにまとめ考察を行うという一連の過程を経て、初めて意義があるものとなる。						
教科書	プリント配布						
参考書	「食品学実験書 第3版」藤田修三・山田和彦 編著、医歯薬出版、ISBN 978-4-263-70720-3 「新版改訂 食品学実験書」青柳康夫 編著、建帛社、ISBN 978-4-7679-0596-9						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食物栄養学演習Ⅰ						
担当教員	片平 理子ほか					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士に必要とする専門分野の総まとめを行う。本演習を通して、卒業後の職務に適応できる力を身につける。						
授業の概要	管理栄養士に必要な専門9分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）に関する新しいテーマに関して演習を行う。本演習を通じて、各分野を横断統合して、栄養教育や栄養管理が行える総合的なマネジメント能力を養う。また、臨地・校外実習を経験した上で、ガイドライン等の変更内容を確認し、最新の知識を身につけ、卒業後の職務に適応するようにする。なお、複数の教員がオムニバス形式で行う。						
到達目標	管理栄養士国家試験に合格できるレベルの実力を身につけることができる。						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 1回 人体の構造と機能および疾病の成り立ち 1回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 2回 応用栄養学 1回 栄養教育論 2回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 2回 給食経営管理論 2回						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。						
評価基準と評価方法	試験（200点満点、60%以上） この科目の評価方法について、在学生ガイダンスで説明を行うので、かならず出席すること。						
履修上の注意	①業者の模擬試験を必ず受験すること。（交通費は自己負担とする） ②試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。詳細は、在学生ガイダンスおよび授業で説明する。 ③「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。 ④「国家試験対策講座」は必ず受講すること。 ⑤出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。（10回以上出席の場合に評価対象とする） ⑥遅刻は出席としない。遅刻3回で1回欠席とみなす。20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ⑦臨地・校外実習で欠席する場合は担当教員に欠席届を事前に提出する。 尚、臨地・校外実習で欠席した場合は必ず補講を受けること。						
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食物栄養学演習Ⅰ						
担当教員	片平 理子ほか					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士に必要とする専門分野の総まとめを行う。本演習を通して、卒業後の職務に適応できる力を身につける。						
授業の概要	管理栄養士に必要な専門9分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）に関する新しいテーマに関して演習を行う。本演習を通じて、各分野を横断統合して、栄養教育や栄養管理が行える総合的なマネジメント能力を養う。また、臨地・校外実習を経験した上で、ガイドライン等の変更内容を確認し、最新の知識を身につけ、卒業後の職務に適応するようにする。なお、複数の教員がオムニバス形式で行う。						
到達目標	管理栄養士国家試験に合格できるレベルの実力を身につけることができる。						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 1回 人体の構造と機能および疾病の成り立ち 1回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 2回 応用栄養学 1回 栄養教育論 2回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 2回 給食経営管理論 2回						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。						
評価基準と評価方法	試験（200点満点、60%以上） この科目の評価方法について、在学生ガイダンスで説明を行うので、かならず出席すること。						
履修上の注意	①業者の模擬試験を必ず受験すること。（交通費は自己負担とする） ②試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。詳細は、在学生ガイダンスおよび授業で説明する。 ③「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。 ④「国家試験対策講座」は必ず受講すること。 ⑤出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。（10回以上出席の場合に評価対象とする） ⑥遅刻は出席としない。遅刻3回で1回欠席とみなす。20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ⑦臨地・校外実習で欠席する場合は担当教員に欠席届を事前に提出する。 尚、臨地・校外実習で欠席した場合は必ず補講を受けること。						
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食物栄養学演習Ⅱ						
担当教員	片平 理子ほか					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士国家試験の合格を目標にして、最近の出題傾向とそのポイントを把握、理解する。また、それらの要点について、いくつかの角度から理解、応用できるように知識の充実をはかる。						
授業の概要	国家試験練習問題を用いて演習を行う。また、各分野担当教員がオムニバス形式で講義を行う。						
到達目標	管理栄養士国家試験に合格できるレベルの実力を身につけることができる。						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 2回 人体の構造と機能および疾病の成り立ち 2回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 2回 応用栄養学 2回 栄養教育論 1回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 1回 給食経営管理論 1回						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習（学習時間 2時間）：授業中に解答した練習問題を見直す。理解や知識の定着が不十分な項目は、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って理解し直して、暗記する。manabaに出される課題に取り組む。						
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。						
評価基準と評価方法	小テスト 20%、期末試験 80% この科目の評価方法詳細については、在学生ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。						
履修上の注意	①試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。 ②「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。 ③「国家試験対策講座」は必ず受講すること。 ④出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。（10回以上出席の場合に評価対象とする。） ⑤遅刻は出席としない。遅刻3回で1回欠席とみなす。20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ⑥後期の「国家試験対策講座」の出席が1/2に満たない場合は、再試験の受験資格を失う。 ⑦臨地・校外実習で欠席する場合は担当教員に欠席届を事前に提出する。 尚、臨地・校外実習で欠席した場合は必ず補講を受けること。						
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	食物栄養学演習Ⅱ						
担当教員	片平 理子ほか					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士国家試験の合格を目標にして、最近の出題傾向とそのポイントを把握、理解する。また、それらの要点について、いくつかの角度から理解、応用できるように知識の充実をはかる。						
授業の概要	国家試験練習問題を用いて演習を行う。また、各分野担当教員がオムニバス形式で講義を行う。						
到達目標	管理栄養士国家試験に合格できるレベルの実力を身につけることができる。						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 2回 人体の構造と機能および疾病の成り立ち 2回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 2回 応用栄養学 2回 栄養教育論 1回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 1回 給食経営管理論 1回						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習（学習時間 2時間）：授業中に解答した練習問題を見直す。理解や知識の定着が不十分な項目は、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って理解し直して、暗記する。manabaに出される課題に取り組む。						
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。						
評価基準と評価方法	小テスト 20%、期末試験 80% この科目の評価方法詳細については、在学生ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。						
履修上の注意	①試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。 ②「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。 ③「国家試験対策講座」は必ず受講すること。 ④出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。（10回以上出席の場合に評価対象とする。） ⑤遅刻は出席としない。遅刻3回で1回欠席とみなす。20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ⑥後期の「国家試験対策講座」の出席が1/2に満たない場合は、再試験の受験資格を失う。 ⑦臨地・校外実習で欠席する場合は担当教員に欠席届を事前に提出する。 尚、臨地・校外実習で欠席した場合は必ず補講を受けること。						
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学I						
担当教員	織田 小枝					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生命を支える物質と化学反応の役割について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生命現象の土台となる分子の把握 2) 代謝の理解 3) 遺伝子発現の理解 が可能となる。						
授業計画	第1回 化学の復習、生化学と栄養学 第2回 糖質の構造と機能(単糖類) 第3回 糖質の構造と機能(多糖類) 第4回 脂質の構造と機能(構造) 第5回 脂質の構造と機能(分類) 第6回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(アミノ酸) 第7回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(タンパク質) 第8回 まとめと試験 第9回 核酸の構造と機能(構造) 第10回 核酸の構造と機能(タンパク質発現) 第11回 細胞 第12回 酵素(一般的性質) 第13回 酵素(活性の調節) 第14回 生体でのエネルギーの生成と利用 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を予習しを行い、事前に指定するキーワードについての予備知識を得る。(学習時間30分) 授業後学習：授業の授業で取り上げた内容の要点についてまとめ、レポートを作成する。(学習時間1時間)						
授業方法	講義 小テスト(授業の理解度を高めるために、評価外の小テストを定期的に行い、重要事項について確認、復習を行う)						
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、レポート等の提出物)30点、試験70点の割合で評価する。試験は2回行い、その平均点と平常点の合計を評価に使用する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。 授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)						
教科書	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために（化学同人） 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN：9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日（第7版） 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN：9784789524384						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学I						
担当教員	織田 小枝					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生命を支える物質と化学反応の役割について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生命現象の土台となる分子の把握 2) 代謝の理解 3) 遺伝子発現の理解 が可能となる。						
授業計画	第1回 化学の復習、生化学と栄養学 第2回 糖質の構造と機能(単糖類) 第3回 糖質の構造と機能(多糖類) 第4回 脂質の構造と機能(構造) 第5回 脂質の構造と機能(分類) 第6回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(アミノ酸) 第7回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(タンパク質) 第8回 まとめと試験 第9回 核酸の構造と機能(構造) 第10回 核酸の構造と機能(タンパク質発現) 第11回 細胞 第12回 酵素(一般的性質) 第13回 酵素(活性の調節) 第14回 生体でのエネルギーの生成と利用 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を予習しを行い、事前に指定するキーワードについての予備知識を得る。(学習時間30分) 授業後学習：授業の授業で取り上げた内容の要点についてまとめ、レポートを作成する。(学習時間1時間)						
授業方法	講義 小テスト(授業の理解度を高めるために、評価外の小テストを定期的に行い、重要事項について確認、復習を行う)						
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、レポート等の提出物)30点、試験70点の割合で評価する。試験は2回行い、その平均点と平常点の合計を評価に使用する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。 授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)						
教科書	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために（化学同人） 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN：9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日（第7版） 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN：9784789524384						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学Ⅱ						
担当教員	織田 小枝					科目ナンバ－	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生命を支える物質と化学反応の役割について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生命現象の土台となる分子の把握 2) 代謝の理解 3) 遺伝子発現の理解 が可能となる。						
授業計画	第1回 代謝の概要 第2回 糖質代謝(解糖系、TCA回路) 第3回 糖質代謝(ペントースリン酸回路、ウロン酸回路) 第4回 糖質代謝(糖質の貯蔵と血糖値の維持) 第5回 脂質代謝(余分なエネルギーの貯蔵) 第6回 脂質代謝(貯蔵したエネルギーの使い方) 第7回 脂質代謝(脂質の運搬、コレステロールの合成) 第8回 まとめと試験 第9回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の生合成) 第10回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の異化) 第11回 アミノ酸・タンパク質代謝(特殊生成物への変換) 第12回 核酸代謝(プリンヌクレオチドの生合成、分解) 第13回 核酸代謝(ピリミジンヌクレオチドの生合成、分解) 第14回 個体の恒常性とその調節機構 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を予習しを行い、事前に指定するキーワードについての予備知識を得る。(学習時間30分) 授業後学習：授業の授業で取り上げた内容の要点についてまとめ、レポートを作成する。(学習時間1時間)						
授業方法	講義 小テスト(授業の理解度を高めるために、評価外の小テストを定期的に行い、重要事項について確認、復習を行う)						
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、レポート等の提出物)30点、試験70点の割合で評価する。試験は2回行い、その平均点と平常点の合計を評価に使用する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)						
教科書	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために（化学同人） 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN：9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日（第7版） 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN：9784789524384						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）							
科目名	生化学Ⅱ							
担当教員	織田 小枝					科目ナンバ－		
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。							
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生命を支える物質と化学反応の役割について学ぶ。							
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生命現象の土台となる分子の把握 2) 代謝の理解 3) 遺伝子発現の理解 が可能となる。							
授業計画	第1回 代謝の概要 第2回 糖質代謝(解糖系、TCA回路) 第3回 糖質代謝(ペントースリン酸回路、ウロン酸回路) 第4回 糖質代謝(糖質の貯蔵と血糖値の維持) 第5回 脂質代謝(余分なエネルギーの貯蔵) 第6回 脂質代謝(貯蔵したエネルギーの使い方) 第7回 脂質代謝(脂質の運搬、コレステロールの合成) 第8回 まとめと試験 第9回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の生合成) 第10回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の異化) 第11回 アミノ酸・タンパク質代謝(特殊生成物への変換) 第12回 核酸代謝(プリンヌクレオチドの生合成、分解) 第13回 核酸代謝(ピリミジンヌクレオチドの生合成、分解) 第14回 個体の恒常性とその調節機構 第15回 まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を予習しを行い、事前に指定するキーワードについての予備知識を得る。(学習時間30分) 授業後学習：授業の授業で取り上げた内容の要点についてまとめ、レポートを作成する。(学習時間1時間)							
授業方法	講義 小テスト(授業の理解度を高めるために、評価外の小テストを定期的に行い、重要事項について確認、復習を行う)							
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、レポート等の提出物)30点、試験70点の割合で評価する。試験は2回行い、その平均点と平常点の合計を評価に使用する。							
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。 授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)							
教科書	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために（化学同人） 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN：9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日（第7版） 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN：9784789524384							
参考書								

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学実験Ⅰ						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバー	
学期	前期隔週B	曜日・時限	水曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	微生物を用い、実験を通して生命現象を理解する。						
授業の概要	人間は食品を摂取・消化した後、栄養素を細胞内に取り込む。微生物も、私たち人間の細胞と同様に、栄養素を取り込んだ後に代謝する。本実験では、細胞レベルでの生命現象を理解することを目的とし、主として微生物を用いる。そして、動物由来の試料を用いる生化学実験Ⅱに繋げる。具体的には、①微生物を扱うための基本操作・観察、②微生物の代謝、③微生物と抗菌物質について学ぶ。						
到達目標	(1) 微生物に関する基礎知識と取り扱いの技術を身につける。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 本実験で学んだ内容（特に代謝）を、ヒトの生命現象の理解に繋げることができる。【知識・理解、汎用的技能】 (3) 実験で得られた結果に対し、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	【微生物取扱いの基本操作】 第1回 培地の調製と無菌操作 第2回 各種微生物の観察、菌体数測定 【微生物の代謝】 第3回 酵母によるグルコース代謝試験 第4回 乳酸菌による乳酸発酵試験 【微生物と抗菌物質】 第5回 卵白からリゾチームの単離・精製 第6回 単離したリゾチームの溶菌活性の確認 第7回 電気泳動によるリゾチームの分子量・純度の確認 第8回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習を行う。ただし、授業時間内で完成できなかった場合は、次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業態度（授業への取り組み）：10%、レポート（課題を含む）：90%で評価する。 授業態度：出席状況、授業への取り組み、グループ討議への参加度により評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、考察を重視する。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学実験Ⅰ						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバー	
学期	前期隔週A	曜日・時限	水曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	微生物を用い、実験を通して生命現象を理解する。						
授業の概要	人間は食品を摂取・消化した後、栄養素を細胞内に取り込む。微生物も、私たち人間の細胞と同様に、栄養素を取り込んだ後に代謝する。本実験では、細胞レベルでの生命現象を理解することを目的とし、主として微生物を用いる。そして、動物由来の試料を用いる生化学実験Ⅱに繋げる。具体的には、①微生物を扱うための基本操作・観察、②微生物の代謝、③微生物と抗菌物質について学ぶ。						
到達目標	(1) 微生物に関する基礎知識と取り扱いの技術を身につける。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 本実験で学んだ内容（特に代謝）を、ヒトの生命現象の理解に繋げることができる。【知識・理解、汎用的技能】 (3) 実験で得られた結果に対し、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	【微生物取扱いの基本操作】 第1回 培地の調製と無菌操作 第2回 各種微生物の観察、菌体数測定 【微生物の代謝】 第3回 酵母によるグルコース代謝試験 第4回 乳酸菌による乳酸発酵試験 【微生物と抗菌物質】 第5回 卵白からリゾチームの単離・精製 第6回 単離したリゾチームの溶菌活性の確認 第7回 電気泳動によるリゾチームの分子量・純度の確認 第8回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習を行う。ただし、授業時間内で完成できなかった場合は、次の授業までに完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業態度（授業への取り組み）：10%、レポート（課題を含む）：90%で評価する。 授業態度：出席状況、授業への取り組み、グループ討議への参加度により評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、考察を重視する。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学実験Ⅱ／生化学実験						
担当教員	石田 真展					科目ナンバー	
学期	後期隔週A	曜日・時限	金曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生体成分や栄養素の生化学的分析						
授業の概要	摂取した食物（栄養物）が生体の構造と機能の発現に関わるためには、様々な酵素の働きが必要です。そこで、酵素の性質と働きについて実験を行います。さらに生体組織を材料にして、生体成分の分離・分析（主として授業の概要 タンパク質、核酸）を行います。						
到達目標	生化学および関連分野で学んだ知識をもとに、生体内での物質代謝のしくみを把握します。そして、最近の分析手法や技術を取り入れながら、生命現象を理解します。						
授業計画	第1回：タンパク質の分離（溶解性の違いを利用する） 第2回：酵素実験①（反応時間、反応温度） 第3回：酵素実験②（pH依存性） 第4回：ゲルろ過およびイオン交換カラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離精製 第5回：細胞分画 第6回：遺伝子に関する基礎実験①（核酸の分離抽出と定量） 第7回：遺伝子に関する基礎実験②（DNAの調製と観察および定量実験） 第8回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）20%、レポート80%						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解したうえで取り組んで下さい。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行いません。 20分以上遅刻の場合は欠席とします。 最終回のみ、授業時間は135分です。 ＊質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	生化学実験Ⅱ／生化学実験						
担当教員	石田 真展					科目ナンバー	
学期	後期隔週B	曜日・時間	金曜3～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生体成分や栄養素の生化学的分析						
授業の概要	摂取した食物（栄養物）が生体の構造と機能の発現に関わるためには、様々な酵素の働きが必要です。そこで、酵素の性質と働きについて実験を行います。さらに生体組織を材料にして、生体成分の分離・分析（主として授業の概要 タンパク質、核酸）を行います。						
到達目標	生化学および関連分野で学んだ知識をもとに、生体内での物質代謝のしくみを把握します。そして、最近の分析手法や技術を取り入れながら、生命現象を理解します。						
授業計画	第1回：タンパク質の分離（溶解性の違いを利用する） 第2回：酵素実験①（反応時間、反応温度） 第3回：酵素実験②（pH依存性） 第4回：ゲルろ過およびイオン交換カラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離精製 第5回：細胞分画 第6回：遺伝子に関する基礎実験①（核酸の分離抽出と定量） 第7回：遺伝子に関する基礎実験②（DNAの調製と観察および定量実験） 第8回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）20%、レポート80%						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解したうえで取り組んで下さい。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行いません。 20分以上遅刻の場合は欠席とします。 最終回のみ、授業時間は135分です。 * 質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	総合演習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学内および臨地実習での学びの総まとめ						
授業の概要	管理栄養士として知識、技能の総合能力の養成を目指して、栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うために、専門分野の各教育内容を包含する演習を行う。 臨地・校外実習は、実践活動の場で課題の発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図るために行う実習である。この目的達成のために、必要な教育の演習等を実習前に行い実習効果をより高める。 さらに、実習が終了した後に、実習課題の報告会などを実施し、それぞれの学生が経験したことを持ち寄り、演習等を通して実習内容を充実させる。						
到達目標	臨地実習（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理）で実践する、栄養アセスメント、計画、実施、評価について理解し、暗記し、説明することができる。 臨地実習（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理）での学びと関連のある管理栄養士国家試験問題を理解し、説明することができる。						
授業計画	第1回：総合演習の授業の目的、授業概要、課題の説明（発表のスケジュール、発表方法、スライドの作成） 第2回：課題資料の作成 第3回：演習1実習施設について（病院） 第4回：演習1実習施設について（福祉施設、保健所） 第5回：演習2栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告①糖尿病 第6回：演習2栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告②褥瘡 第7回：小テスト、臨地実習のまとめ（臨床栄養学） 第8回：臨地実習の報告会（臨床栄養学） 第9回：演習2公衆栄養アセスメント、活動計画（食環境の整備） 第10回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（公衆栄養学・地域保健法・保健所・保健センターの業務） 第11回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（公衆栄養学・行政栄養士の業務） 第12回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（給食経営管理・大量調理マニュアル） 第13回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（給食経営管理・給食の組織、栄養士の配置） 第14回：小テスト、臨地実習のまとめ（公衆栄養学・給食経営管理） 第15回：臨地実習の報告会（公衆栄養学・給食経営管理） ・事前に提示した課題についてまとめた後、発表する。 ・臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。 ・臨地実習の学びについて、グループ毎にまとめ発表の準備を行い、発表する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	示された課題について調べ、発表のための準備を行う。（学習時間2時間） 臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。（学習時間2時間）						
授業方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業態度（実習への取り組み）20%、課題・レポート50%、小テスト30% 授業態度：グループワークの取り組み、グループ討議への参加度、グループ発表の内容により、総合的に判断する。						
履修上の注意	①実習内容をしっかり理解した上で取り組むこと ②出席を重視する ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は、欠席とする（交通機関延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としない） ③私語厳禁 ④携帯電話は電源をきり、机上に置かないこと ④グループでのワークショップ形式ですすめるため、授業への参加は積極的な態度で臨むこと						
教科書	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説2019 発行所 (株)メディックメディア						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	総合演習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学内および臨地実習での学びの総まとめ						
授業の概要	管理栄養士として知識、技能の総合能力の養成を目指して、栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うために、専門分野の各教育内容を包含する演習を行う。 臨地・校外実習は、実践活動の場で課題の発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図るために行う実習である。この目的達成のために、必要な教育の演習等を実習前に行い実習効果をより高める。さらに、実習が終了した後に、実習課題の報告会などを実施し、それぞれの学生が経験したことを持ち寄り、演習等を通して実習内容を充実させる。						
到達目標	臨地実習（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理）で実践する、栄養アセスメント、計画、実施、評価について理解し、暗記し、説明することができる。 臨地実習（臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理）での学びと関連のある管理栄養士国家試験問題を理解し、説明することができる。						
授業計画	第1回：総合演習の授業の目的、授業概要、課題の説明（発表のスケジュール、発表方法、スライドの作成） 第2回：課題資料の作成 第3回：演習1実習施設について（病院） 第4回：演習1実習施設について（福祉施設、保健所） 第5回：演習2栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告①糖尿病 第6回：演習2栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告②褥瘡 第7回：小テスト、臨地実習のまとめ（臨床栄養学） 第8回：臨地実習の報告会（臨床栄養学） 第9回：演習2公衆栄養アセスメント、活動計画（食環境の整備） 第10回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（公衆栄養学・地域保健法・保健所・保健センターの業務） 第11回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（公衆栄養学・行政栄養士の業務） 第12回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（給食経営管理・大量調理マニュアル） 第13回：演習3関連項目の解説・練習問題の解説（給食経営管理・給食の組織、栄養士の配置） 第14回：小テスト、臨地実習のまとめ（公衆栄養学・給食経営管理） 第15回：臨地実習の報告会（公衆栄養学・給食経営管理） ・事前に提示した課題についてまとめた後、発表する。 ・臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。 ・臨地実習の学びについて、グループ毎にまとめ発表の準備を行い、発表する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	示された課題について調べ、発表のための準備を行う。（学習時間2時間） 臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。（学習時間2時間）						
授業方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業態度（実習への取り組み）20%、課題・レポート50%、小テスト30% 授業態度：グループワークの取り組み、グループ討議への参加度、グループ発表の内容により、総合的に判断する。						
履修上の注意	①実習内容をしっかり理解した上で取り組むこと ②出席を重視する ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。遅刻は1回の出席ではない ・20分以上遅刻の場合は、欠席とする（交通機関延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としない） ・臨地実習で欠席する場合は、事前に欠席届けを提出すること ③私語厳禁 ④携帯電話は電源をきり、机の上に置かないこと ⑤グループでのワークショップ形式ですすめるため、授業への参加は積極的態で臨むこと ⑥居眠り厳禁						
教科書	クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説2019 発行所 (株)メディックメディア						

参考書	
-----	--

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業演習						
担当教員	片平 理子ほか					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	全分野を学び終えた時点で、分野ごとに学んだことを再確認させ、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。						
授業の概要	管理栄養士養成に必要な全ての講義を終えたこの時点で、分野ごとに学んだことを再確認し、専門知識が独立したものでなく、密接に連携していることを自ら確認、統合することによって、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。同時に、管理栄養士国家試験に向け、学びの総仕上げを行う。						
到達目標	管理栄養士国家試験に合格できるレベルの実力を身につけることができる。						
授業計画	オムニバス方式/全 30回 社会・環境と健康 3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 3回 食べ物と健康 4回 基礎栄養学 4回 応用栄養学 3回 臨床栄養学 4回 栄養教育論 3回 給食経営管理論 3回 公衆栄養学 3回						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。						
評価基準と評価方法	試験(245点満点、60%以上) 内訳:確認試験45点満点 + 中間試験(栄養士実力認定試験)85点満点 + 期末試験115点満点						
履修上の注意	1. 期末テストの出題範囲は、「クエスチョンバンク2019」の範囲とする。 2. 臨地・校外実習で欠席する場合は、担当教員に欠席届を事前に提出する。 尚、臨地・校外実習で欠席した場合は必ず補講を受けること。 3. 出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。（20回以上出席の場合に評価対象とする） 4. 遅刻は出席としない。遅刻3回で、欠席1回とみなす。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 再履修者 ・本代、中間試験(栄養士実力認定試験)の試験費用は自己負担とする。 ・国家試験対策の講座の出席は可						
教科書	クエスチョンバンク 2019(メディックメディア)【購入不要】						
参考書	2019年度版 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社） (社)全国栄養士養成施設協会編 授業中に紹介します。 適宜プリントを配布します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業演習						
担当教員	片平 理子ほか					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	全分野を学び終えた時点で、分野ごとに学んだことを再確認させ、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。						
授業の概要	管理栄養士養成に必要な全ての講義を終えたこの時点で、分野ごとに学んだことを再確認し、専門知識が独立したものでなく、密接に連携していることを自ら確認、統合することによって、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。同時に、管理栄養士国家試験に向け、学びの総仕上げを行う。						
到達目標	管理栄養士国家試験に合格できるレベルの実力を身につけることができる。						
授業計画	オムニバス方式/全 30回 社会・環境と健康 3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 3回 食べ物と健康 4回 基礎栄養学 4回 応用栄養学 3回 臨床栄養学 4回 栄養教育論 3回 給食経営管理論 3回 公衆栄養学 3回						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。						
評価基準と評価方法	試験(245点満点、60%以上) 内訳:確認試験45点満点 + 中間試験(栄養士実力認定試験)85点満点 + 期末試験115点満点						
履修上の注意	1. 期末テストの出題範囲は、「クエスチョンバンク2019」の範囲とする。 2. 臨地・校外実習で欠席する場合は、担当教員に欠席届を事前に提出する。 尚、臨地・校外実習で欠席した場合は必ず補講を受けること。 3. 出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。（20回以上出席の場合に評価対象とする） 4. 遅刻は出席としない。遅刻3回で、欠席1回とみなす。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 再履修者 ・本代、中間試験(栄養士実力認定試験)の試験費用は自己負担とする。 ・国家試験対策の講座の出席は可						
教科書	クエスチョンバンク 2019(メディックメディア)【購入不要】						
参考書	2019年度版 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社） (社)全国栄養士養成施設協会編 授業中に紹介します。 適宜プリントを配布します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業論文						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	食生活に関わる研究テーマを設定して研究し、論文としてまとめて報告する手法を学ぶ。						
授業の概要	研究を進めるための指導；研究計画、先行研究、資料・文献収集、実験や調査の方法、データのまとめ方を概説する。 報告・発表；各自が研究の進捗状況を報告し、テーマに関する文献紹介を行う。 個別指導；進捗状況に応じて個別指導を行う。 研究内容は論文として執筆して提出し、概要のプレゼンテーションを行う。						
到達目標	1) 研究テーマを設定し、参考文献を収集できる。 2) 研究方法を検討できる。 3) 研究論文をまとめることができる。 4) 研究論文をプレゼンテーションできる（資料作成、口頭発表）。						
授業計画	前期 第1回 オリエンテーション 卒業論文のめざすもの 第2回 研究における倫理指針について 第3回 研究テーマの設定と研究方法について 第4回 文献の収集と紹介① 第5回 文献の収集と紹介② 第6回 研究方法① 調査 第7回 研究方法② 実験 第8回 研究データの収集と処理① データ入力 第9回 研究データの収集と処理② データ解析 第10回 研究指導① 結果のまとめ方 第11回 研究指導② 考察と結論 第12回 研究指導③ 引用文献 第13回 中間発表指導① 第14回 中間発表指導② 第15回 中間発表会 後期 第16回 論文執筆の概説（論文構成） 第17回 データ整理の手法について 第18回 論文に掲載する図表について 第19回 論文執筆① 目的 第20回 論文執筆② 方法 第21回 論文執筆③ 結果 第22回 論文執筆④ 考察と結論 第23回 引用文献の整理と確認 第24回 卒業論文の校正 第25回 卒業論文の概要（要約）の作成 第26回 研究発表指導① 第27回 研究発表指導② 第28回 研究発表指導③ 第29回 研究発表指導④ 第30回 卒業研究発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	定期的に進捗状況の概略をまとめるレポートを作成し提出する。 各自の発表（進捗報告・文献紹介）担当日には、十分に準備をして参加する。 近隣の学童保育における観察研究や食品企業とのディスカッションを行う。 いずれの研究テーマも管理栄養士として知っておきたい内容であるため、お互いに協力して研究をすすめ、活発に意見交換を行う。						
授業方法	演習（個人指導も含む）						
評価基準と評価方法	授業における貢献度（発表態度や発表者への意見内容） 25% 報告レポート内容 25% 卒業論文作成過程における中間評価 25% 卒業論文の内容 25%						
履修上の注意	研究内容によっては学外施設における調査を実施する（自己負担あり）。 関連学会の研究発表会に参加することがある（自己負担あり）。 研究は学内のみにとどまらず学外との連携により進める場合がある。連携先の事情を十分に尊重しながら研究に取り組むことを心がける。 オフィスアワー：木曜 12：15～13：00（11号館5階の研究室）						

履修上の注意	教員の連絡先：r-katahira[at]shoin.ac.jp（メールをする場合は[at]を@に置き換えること）
教科書	これまで購入した教科書を用いる。
参考書	随時紹介する

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業論文						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	テーマを設定して研究し、卒業論文を作成する。						
授業の概要	(1) 研究遂行にむけて：資料・文献収集、先行研究調査、研究計画の立案、実験の方法、データの解析・まとめの方法を概説する。 (2) 実験の実施：研究テーマに応じて、実験を実施し、結果をまとめる。 (3) 報告・発表：研究結果についてプレゼンテーションを行い、同時に卒業論文を執筆する。						
到達目標	(1) 卒業論文作成に必要な研究の進め方、論文検索方法、問題点の解決方法、プレゼンテーションの方法などを身につけることができる。【知識・理解】 (2) 実験を通じて、実験機器の使用方法、分析等の理論を理解することができる。【知識・理解】						
授業計画	前期 第1回 オリエンテーション 第2回 研究の進め方、研究倫理など 第3回 研究テーマの設定 第4回 文献の収集① 第5回 文献の収集② 第6回 研究計画の作成① 第7回 研究計画の作成② 第8回 実験① 第9回 実験② 第10回 実験③ 第11回 実験④ 第12回 実験⑤ 第13回 実験⑥ 第14回 実験⑦ 第15回 実験⑧ 後期 第16回 データ処理① 第17回 データ処理② 第18回 卒業論文の執筆（論文構成） 第19回 卒業論文の執筆（図表） 第20回 卒業論文の執筆（要約） 第21回 卒業論文の執筆（目的） 第22回 卒業論文の執筆（方法） 第23回 卒業論文の執筆（結果） 第24回 卒業論文の執筆（考察） 第25回 卒業論文の執筆（引用文献の整理、収集） 第26回 卒業論文の執筆（校正） 第27回 卒業論文発表会の概要作成 第28回 卒業論文発表会プレゼンテーション① 第29回 卒業論文発表会プレゼンテーション② 第30回 卒業論文発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	卒業論文は各自が主体的に実施するので、時間割上の授業時間以外にも研究を行う。また、研究の進捗状況によっては、夏季休暇中も実施する場合がある。 定期的に研究内容や結果について発表を行うので、その準備をする。						
授業方法	テーマに応じて情報収集を行い、研究計画を立て、実験を行う。 研究内容や結果についてプレゼンテーションやディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	卒業論文への取り組み（研究テーマの理解度、知識・技能の習得状況、研究成果など） 70% 卒業論文・発表の内容 30% （ともに到達目標(1)および(2)の確認である。）						
履修上の注意	教員への進捗状況の報告や相談など、コミュニケーションを欠かさないようにすること。 学外施設において実験・共同研究を実施する場合がある（自己負担あり）。 関連学会の研究発表会に参加することがある（自己負担あり）。						

教科書	授業中に指示します。
参考書	授業中に指示します。

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業論文						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	主体的・計画的な研究への取り組みを通した、科学的アプローチの理解と研究的態度の修得						
授業の概要	卒研究生自らが研究テーマを設定し、研究目的を達成するために必要な調査計画を策定し、倫理指針に則した調査を実施する。調査により収集したデータを分析・要約・視覚化（作図・作表）し、結果を整理・解釈・考察し、研究論文を作成する。また、パワーポイントによる口頭発表（中間報告会）及びポスター・プレゼンテーションによる最終報告（卒業研究発表会）を行う。						
到達目標	主体的に、研究テーマを設定し、研究計画を策定できる。 関連する文献を検索し、先行研究を整理できる。 研究計画及び倫理指針に則した調査を実施し、データを収集できる。 収集したデータを分析（基本統計量の算出及び主な統計的仮説検定）、要約・視覚化（作図・作表）、解釈できる。 研究論文を作成できる。 口頭及びポスターによる発表ができる。						
授業計画	- 卒業研究の進め方 - 研究テーマの設定 - 卒業研究論文の書き方 - 研究の種類 - 研究倫理 - 文献検索・抄読① - 文献検索・抄読② - 文献検索・抄読③ - 調査及びデータ収集の方法 - 調査計画の策定① - 調査計画の策定② - データ入力の方法 - データ分析（データ尺度と統計学的仮説検定） - 作図・作表の方法 - 結果の解釈と考察 - ゼミ内中間報告会準備－パワーポイント及び発表原稿作成 - ゼミ内中間報告会 - 論文執筆の方法－背景と目的 - 論文執筆の方法－調査方法 - 論文執筆の方法－分析方法 - 論文執筆の方法－結果 - 論文執筆の方法－考察 - 論文執筆の方法－引用文献 - 論文執筆の方法－結論、要旨 - 推敲・校正 - 最終報告会準備－ポスター作成 - 最終報告会準備－原稿作成 - ゼミ内最終報告会 - ポスター推敲・校正 - 最終報告会（卒業研究発表会）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	調査準備、調査の実施、データ処理、報告書作成、報告会準備等、各自の進捗に応じて必要な学習を行う。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	研究態度（主体性、計画性、協働性）30% 中間報告 20% 最終報告 20% 卒業論文 30%						
履修上の注意	学外での調査及び学会発表を行う場合がある（自己負担が必要な場合がある）。						

教科書	必要に応じて配布する。
参考書	随時紹介する。

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	卒業論文						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	研究テーマを理解する。						
授業の概要	臨床栄養学や応用栄養学で学んだ知識を基に研究を進める。 テーマに基づいて調査研究をし、それらの結果を卒業論文にする。						
到達目標	研究テーマに対する興味をより具体的なものとして意識することができる。また説明することができる。						
授業計画	第1回 卒業論文の内容 第2回 論文の検索方法 第3回 研究目的 第4回 研究目的および考察 第5回 研究方法 第6回 研究方法 第7回 法律について 第8回 論文の検索 第9回 論文の検索 第10回 調査・症例検討 第11回 調査・症例検討 第12回 調査・症例検討 第13回 統計方法 第14回 卒業論文のまとめ方 第15回 中間まとめ 第16回 調査内容の検証 第17回 調査内容の検証 第18回 研究内容の検証 第19回 研究内容の検証 第20回 研究内容の検証 第21回 中間発表 第22回 中間発表における課題 第23回 課題の検証 第24回 課題の検証 第25回 学会発表予定 第26回 調査およびデータ解析 第27回 調査およびデータ解析 第28回 卒業論文まとめ 第29回 卒業論文まとめ 第30回 卒論発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	研究テーマに応じて、医療機関などに赴き調査をします。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢と卒業論文内容						
履修上の注意	個別指導をします。またグループ学習の授業もします。積極的に参加すること。						

教科書	
参考書	適宜紹介

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）					
科目名	調査・データ処理実習					
担当教員	田中 あゆ子				科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3～4	配当学年	3～4	単位数 1.0
授業のテーマ	疫学研究に必要な統計学の基礎及び調査・データ処理の実践力の習得					
授業の概要	公衆衛生活動や公衆栄養活動の効果的な実施に必要な、科学的根拠を得るための疫学研究の実践力を習得する。これは、「公衆栄養学演習」及び「卒業研究」に必要な基礎でもある。コンピュータを用いた情報収集、文献検索を行うとともに、統計学の基礎を理解し、表計算ソフトを用いた基本統計量の算出及び統計的仮説検定の演習を行う。受講生自らが課題を選び、仮説をたて、その真偽を明らかにするための調査計画を策定し、倫理指針に則した調査を行う。収集したデータの分析・要約・視覚化（作図・作表）を行い、ポスターを作成し、発表（ポスター・プレゼンテーション）の演習を行う。					
到達目標	データ尺度及び統計的仮説検定について概説できる。 基本統計量の算出及び主な統計的仮説検定ができる。 調査計画の策定、アンケート用紙の作成、調査の実施、データの収集・分析・要約・視覚化、ポスター作成、発表ができる。					
授業計画	1. データ尺度、量的データの記述 - 度数分布 2. 量的データの記述 - 基本統計量 3. 先行研究の検索、データ収集 4. 収集データの集計、集計結果の発表 5. グラフ作成の基礎、独立（説明）変数と従属（目的）変数 6. 統計的仮説検定 - t検定、相関分析 7. 統計的仮説検定 - χ^2検定 8. 調査計画の策定（課題、背景、仮説、方法） 9. 調査計画の発表、調査計画の修正 10. アンケート作成の基礎、アンケートの修正 11. 研究倫理、調査計画の最終確認（予備調査、調査票の最終化） 12. データ入力・分析、解釈、プレゼンテーション作成 13. プレゼンテーション 14. ポスター作成 15. ポスター・プレゼンテーション					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実習課題を行う。 調査を実施する。					
授業方法	実習・演習					
評価基準と評価方法	平常点（グループワークにおける積極性、協働性等）40%、課題40%、小テスト20%					
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。					
教科書	必要に応じて授業中に配布する。					
参考書	はじめて学ぶやさしい疫学 日本疫学会・南江堂 疫学マニュアルマニュアル 南山堂					

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	調理学						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食事作りの理解						
授業の概要	栄養素を含む食材を、安全で消化吸収しやすく、おいしい食物の形に変える過程を調理という。調理には、食品に含まれる栄養素の利用効率を高め、衛生的・安全に摂取できる状態に整え、嗜好性の高い食べ物にする役割がある。これらの役割を理解し、調理の実践に結びつけるための理論を学ぶ。おいしさの構成要素、非加熱操作・加熱操作・調味操作の原理と要点、伝熱方法と加熱条件の設定について理解する。植物性食品、動物性食品、成分抽出素材の調理過程における化学的・物理的变化、嗜好性の変化などの諸現象を科学的に把握する。また、日常食の献立作成の基本を理解する。						
到達目標	4つの食事の役割と3つの調理の目的を説明する事ができる。 食事設計の考え方やプロセスを説明する事ができる。 個々の調理操作が食品に与える影響を科学的に説明する事ができる。 代表的な食品の調理特性を科学的に説明する事ができる。						
授業計画	1. 調理学の意義 2. 食事設計の基礎（食事設計の意義、嗜好性） 3. 食事設計の実際 4. 調理操作と調理器具 5. 1～4回までのまとめと小テスト 6. 調理操作と栄養 植物性食品 穀類（米） 7. " 穀類（小麦） 8. " いも類・豆類 9. " 野菜類 10. " 動物性食品 食肉類 11. " 魚介類 12. " 卵類・乳類 13. " 成分抽出素材 でんぷん・油脂 14. " ゲル化素材 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：授業計画に従って、授業前に教科書の該当する箇所を読みます。その際、わからない語句や理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席します。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しながら覚えるべき事項を暗記します。復習のために教科書を読み直し、授業内に理解できなかったことを抽出し、次の授業で質問して問題点を早めに解決することが大切です。自分が何を理解できていて、何が理解できていないのか、毎授業後に確認する習慣をつけましょう。						
授業方法	講義 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間・期末テスト90%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。 授業外における学習に各自確実に取り組み、授業に出席する。						
教科書	1. 調理学の基本 第4版 中嶋加代子編著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1482-3 2. 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～ 教育図書 ISBN978-4-87730-3884（2017年3月発行）						
参考書	1. NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	調理学						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食事作りの理解						
授業の概要	栄養素を含む食材を、安全で消化吸収しやすく、おいしい食物の形に変える過程を調理という。調理には、食品に含まれる栄養素の利用効率を高め、衛生的・安全に摂取できる状態に整え、嗜好性の高い食べ物にする役割がある。これらの役割を理解し、調理の実践に結びつけるための理論を学ぶ。おいしさの構成要素、非加熱操作・加熱操作・調味操作の原理と要点、伝熱方法と加熱条件の設定について理解する。植物性食品、動物性食品、成分抽出素材の調理過程における化学的・物理的变化、嗜好性の変化などの諸現象を科学的に把握する。また、日常食の献立作成の基本を理解する。						
到達目標	4つの食事の役割と3つの調理の目的を説明する事ができる。 食事設計の考え方やプロセスを説明する事ができる。 個々の調理操作が食品に与える影響を科学的に説明する事ができる。 代表的な食品の調理特性を科学的に説明する事ができる。						
授業計画	1. 調理学の意義 2. 食事設計の基礎（食事設計の意義、嗜好性） 3. 食事設計の実際 4. 調理操作と調理器具 5. 1～4回までのまとめと小テスト 6. 調理操作と栄養 植物性食品 穀類（米） 7. " 穀類（小麦） 8. " いも類・豆類 9. " 野菜類 10. " 動物性食品 食肉類 11. " 魚介類 12. " 卵類・乳類 13. " 成分抽出素材 でんぷん・油脂 14. " ゲル化素材 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 1時間）：授業計画に従って、授業前に教科書の該当する箇所を読みます。その際、わからない語句や理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席します。 授業後学習（学習時間 1時間）：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しながら覚えるべき事項を暗記します。復習のために教科書を読み直し、授業内に理解できなかったことを抽出し、次の授業で質問して問題点を早めに解決することが大切です。自分が何を理解できていて、何が理解できていないのか、毎授業後に確認する習慣をつけましょう。						
授業方法	講義 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間・期末テスト90%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。 授業外における学習に各自確実に取り組み、授業に出席する。						
教科書	1. 調理学の基本 第4版 中嶋加代子編著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1482-3 2. 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～ 教育図書 ISBN978-4-87730-388-4（2017年3月発行）						
参考書	1. NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	調理学実験						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	後期隔週B	曜日・時限	水曜3～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験による調理理論の確認						
授業の概要	調理の基本技術、ならびに献立作成の基本知識を理解するために必要な実験を行う。特に短時間に調理の“こつ”をつかむ方法を知ることが目的とする。 材料配合、調理操作、調理器具などの調理条件を変えることによる料理への影響を、食物の化学的・物理的性質の測定、組織の観察、官能評価により総合的に評価する。結果から法則性を見出し、最適な調理法の解明を試みる。 これらを通して、合理的に調理を進めるための根拠となる調理理論の理解を深める。						
到達目標	実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明する事ができる。 実験の目的に沿って設定された実験条件の設定理由を説明することができる。 基本的な実験操作を正確に行う事ができる。 代表的な食品の調理特性を説明する事ができる。 代表的な食品を使って行う調理操作の科学的裏づけを説明する事ができる。						
授業計画	第1回 1. 実験概要の説明、計量（調味料） 2. 温度に関する実験（汁物の温度降下、汁物の適温） 第2回 3. 野菜に関する実験 1（食塩添加による放水と浸水による吸水） 4. 野菜に関する実験 2（加熱条件による色とテクスチャーの変化） 第3回 5. 切る操作に関する実験（切碎方法と咀嚼・えん下のしやすさ） 6. 官能評価法 1（2点比較法、3点比較法） 1～5回まとめの発表準備 第4回 7. 1～5回まとめ（グループ単位での発表授業、全体討論） 8. ゲル化剤に関する実験（寒天・カラギーナン・ゼラチンゲルの性状、寒天ゲルに及ぼす砂糖添加の影響） 第5回 9. 官能評価法 2（ゲル化剤と配合の異なるコーヒージェリーの順位法による評価） 10. 調理と酵素 1（さつまいもの加熱方法と甘味度） 第6回 12. 小麦粉に関する実験 1（薄力粉及び強力粉のグルテン含量、調理操作に伴うドウの性状変化） 13. 小麦粉に関する実験 2（クッキー材料配合による品質の違い） 第7回 11. 調理と酵素 1（ゼリーの凝固に及ぼすパイナップル果肉添加の影響 演習） 14. 6, 8～13回のまとめ（グループ単位での発表授業、全体討論） 第8回 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 事前に配布されているテキストプリントを読み、実験の目的を理解し、実験ノートに実験操作を流れ図にまとめ、測定項目を記録するための表を作成し、実験結果を予想します。事前学習課題が出されている場合には、授業までに必ず課題に取り組みます。 限られた時間内に手際よく実験を行い、授業から多くを学ぶためには予習が欠かせません。 授業後学習： 実験の目的に沿って、授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。 グループ単位の発表授業では、メンバー全員が協力して発表資料を作成しmanabaにアップします。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点25%（グループ学習への取り組みを含む）、レポート25%、期末テスト50%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。出席2/3以上の履修者が単位取得可能。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	調理学、食品学総論、食品機能学（講義）で使う教科書 調理実習、食品学実実験で使う教科書 授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	調理学実験						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	後期隔週A	曜日・時限	水曜3～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験による調理理論の確認						
授業の概要	調理の基本技術、ならびに献立作成の基本知識を理解するために必要な実験を行う。特に短時間に調理の“こつ”をつかむ方法を知ることが目的とする。 材料配合、調理操作、調理器具などの調理条件を変えることによる料理への影響を、食物の化学的・物理的性質の測定、組織の観察、官能評価により総合的に評価する。結果から法則性を見出し、最適な調理法の解明を試みる。 これらを通して、合理的に調理を進めるための根拠となる調理理論の理解を深める。						
到達目標	実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明する事ができる。 実験の目的に沿って設定された実験条件の設定理由を説明することができる。 基本的な実験操作を正確に行う事ができる。 代表的な食品の調理特性を説明する事ができる。 代表的な食品を使って行う調理操作の科学的裏づけを説明する事ができる。						
授業計画	第1回 1. 実験概要の説明、計量（調味料） 2. 温度に関する実験（汁物の温度降下、汁物の適温） 第2回 3. 野菜に関する実験 1（食塩添加による放水と浸水による吸水） 4. 野菜に関する実験 2（加熱条件による色とテクスチャーの変化） 第3回 5. 切る操作に関する実験（切碎方法と咀嚼・えん下のしやすさ） 6. 官能評価法 1（2点比較法、3点比較法） 1～5回まとめの発表準備 第4回 7. 1～5回まとめ（グループ単位での発表授業、全体討論） 8. ゲル化剤に関する実験（寒天・カラギーナン・ゼラチンゲルの性状、寒天ゲルに及ぼす砂糖添加の影響） 第5回 9. 官能評価法 2（ゲル化剤と配合の異なるコーヒージェリーの順位法による評価） 10. 調理と酵素 1（さつまいもの加熱方法と甘味度） 第6回 12. 小麦粉に関する実験 1（薄力粉及び強力粉のグルテン含量、調理操作に伴うドウの性状変化） 13. 小麦粉に関する実験 2（クッキー材料配合による品質の違い） 第7回 11. 調理と酵素 1（ゼリーの凝固に及ぼすパイナップル果肉添加の影響 演習） 14. 6, 8～13回のまとめ（グループ単位での発表授業、全体討論） 第8回 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 事前に配布されているテキストプリントを読み、実験の目的を理解し、実験ノートに実験操作の流れ図にまとめ、測定項目を記録するための表を作成し、実験結果を予想します。事前学習課題が出されている場合には、授業までに必ず課題に取り組みます。 限られた時間内に手際よく実験を行い、授業から多くを学ぶためには予習が欠かせません。 授業後学習： 実験の目的に沿って、授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。 グループ単位の発表授業では、メンバー全員が協力して発表資料を作成しmanabaにアップします。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点25%（グループ学習への取り組みを含む）、レポート25%、期末テスト50%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。出席2/3以上の履修者が単位取得可能。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	調理学、食品学総論、食品機能学（講義）で使う教科書 調理実習、食品学実実験で使う教科書 授業中に紹介します。						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	調理理論の理解に基づいた食事作りに関する実践力の育成						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を行う。実習にはHACCP概念を導入し、食品の安全性を考えながら調理できるようにする。計量、洗浄、切断、調味、加熱操作、盛り付けといった基礎的な調理技能の習得に加え、栄養・嗜好面においてバランスのとれた理想的な献立を作成する能力を身につける。調理学で学んだ知識を、この実習で確認しながら調理の基礎を学んでいく。基本知識を幅広く活用する応用力を身につけるようにしたい。実習はグループで行うが、基礎技術は各自が徹底的に習得することを目指す。						
到達目標	食事作りの流れを説明することができる。 基本的な調理操作を一人で正確に行う事ができる。 各調理操作の目的を説明することができる。 日常食として食卓に上がる料理について、材料の種類と分量、調理手順を説明することができる。 日常食として食卓に上がる料理をレシピを見ないで手際よく作ることができる。 一汁二菜とデザートから構成される日常食の献立を立てることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション、ご飯の炊き方、混合出汁のとり方（師範）、調味料の計量 2. 日本料理：白飯、吸い物（麩）、だし巻き卵、キャベツ織切り 3. 日本料理：青まめご飯、潮汁、煮魚、なます 4. 日本料理：かやくご飯、味噌汁、肉じゃが、ほうれん草お浸し 5. 日本料理：しそご飯、茶碗蒸し、天ぷら、即席漬け 6. 日本料理：玄米飯、のっぺい汁、焼き魚、かぼちゃの含め煮、フルーツ大福 7. 日本料理：ちらし寿司、吸物、春菊のごま和え、蜜豆 8. 日本料理：赤飯、三州みそ汁、筑前煮、酢の物、水ようかん 9. 西洋料理：ピラフ、コーンスープ、ハンバーグステーキ、人参グラッセ、サヤいんげんソテー、ブラマンジェ 10. 西洋料理：グラタン、ラタトゥイユ、プディング 11. 西洋料理：ビーフシチュー、コールスローサラダ、シュークリーム 12. 中国料理：什錦炒飯、魚丸子湯、青椒牛肉スウ、棒棒鶏、ナイ豆腐 13. 中国料理：什錦炒麺、蛋花湯、涼伴茄子、芝麻元宵 14. 中国料理：鍋貼餃子、豆腐丸子湯、乾炸鶏塊、涼伴海ジャ、マンゴープリン 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めレポート用紙にまとめます。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながら、レポート課題に取り組み、レポートを完成させます。 ファイル書式で提出する課題はmanabaを積極的に活用する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート30%、テスト30%（筆記及び実技）						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。						
教科書	改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 C3077 新カラーチャート食品成分表 教育図書（「調理学」でも教科書指定） ISBN 978-4-87730-388-4						
参考書	「NEW 調理と理論」 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1396-5 映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 松崎政三他編著 学際企画 ISBN 978-4-906514-86-1						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	片平 理子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	調理理論の理解に基づいた食事作りに関する実践力の育成						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を行う。実習にはHACCP概念を導入し、食品の安全性を考えながら調理できるようにする。計量、洗浄、切断、調味、加熱操作、盛り付けといった基礎的な調理技能の習得に加え、栄養・嗜好面においてバランスのとれた理想的な献立を作成する能力を身につける。調理学で学んだ知識を、この実習で確認しながら調理の基礎を学んでいく。基本知識を幅広く活用する応用力を身につけるようにしたい。実習はグループで行うが、基礎技術は各自が徹底的に習得することを目指す。						
到達目標	食事作りの流れを説明することができる。 基本的な調理操作を一人で正確に行う事ができる。 各調理操作の目的を説明することができる。 日常食として食卓に上がる料理について、材料の種類と分量、調理手順を説明することができる。 日常食として食卓に上がる料理をレシピを見ないで手際よく作ることができる。 一汁二菜とデザートから構成される日常食の献立を立てることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション、ご飯の炊き方、混合出汁のとり方（師範）、調味料の計量 2. 日本料理：白飯、吸い物（麩）、だし巻き卵、キャベツ織切り 3. 日本料理：青まめご飯、潮汁、煮魚、なます 4. 日本料理：かやくご飯、味噌汁、肉じゃが、ほうれん草お浸し 5. 日本料理：しそご飯、茶碗蒸し、天ぷら、即席漬け 6. 日本料理：玄米飯、のっぺい汁、焼き魚、かぼちゃの含め煮、フルーツ大福 7. 日本料理：ちらし寿司、吸物、春菊のごま和え、蜜豆 8. 日本料理：赤飯、三州みそ汁、筑前煮、酢の物、水ようかん 9. 西洋料理：ピラフ、コーンスープ、ハンバーグステーキ、人参グラッセ、サヤいんげんソテー、ブランゾン 10. 西洋料理：グラタン、ラタトゥイユ、プディング 11. 西洋料理：ビーフシチュー、コールスローサラダ、シュークリーム 12. 中国料理：什錦炒飯、魚丸子湯、青椒牛肉スウ、棒棒鶏、ナイ豆腐 13. 中国料理：什錦炒麺、蛋花湯、涼伴茄子、芝麻元宵 14. 中国料理：鍋貼餃子、豆腐丸子湯、乾炸鶏塊、涼伴海ジャ、マンゴープリン 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めレポート用紙にまとめます。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながら、レポート課題に取り組み、レポートを完成させます。 ファイル書式で提出する課題はmanabaを積極的に活用する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート30%、テスト30%（筆記及び実技）						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。						
教科書	改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 C3077 新カラーチャート食品成分表 教育図書（「調理学」でも教科書指定） ISBN 978-4-87730-388-4						
参考書	「NEW 調理と理論」 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1396-5 映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 松崎政三他編著 学際企画 ISBN 978-4-906514-86-1						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	病態生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士の業務に必要な医学知識（臨床検査、がん、免疫）について学ぶ。						
授業の概要	病理学に引き続き、管理栄養士としての業務に必要な、主要疾患の成り立ちについて学ぶ。腫瘍性疾患については、腫瘍の成り立ち（内因および外因）から、全身の腫瘍について特徴、診断、治療を含めて学ぶ。また、免疫系の正常構造を、自然免疫、獲得免疫の違いを中心に学ぶ。さらにはこれらの知識に基づいて、自己免疫疾患やアレルギー疾患について理解を深める。						
到達目標	臨床検査の主要項目について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。 主要臓器の悪性腫瘍（がん）について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。 免疫学の基本事項について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。						
授業計画	1オリエンテーション、免疫学の基礎と病理 1 2免疫学 1 のつづき（自然免疫、獲得免疫） 3免疫学の基礎と病理 2（アレルギー） 4免疫学の基礎と病理 3（自己免疫疾患） 5悪性腫瘍 1 6悪性腫瘍 2 7感染症 1 8まとめと中間テスト（第6回までの内容） 9感染症（日和見感染、院内感染など） 10ゲストスピーカーによる感染管理の講義 11女性の正常性周期（月経周期）と婦人科疾患 12内分泌疾患（正常から） 13内分泌疾患（疾患の概要と問題演習） 14臨床検査 15まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、授業で扱うテーマの下調べをすること（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイントを、一回ずつノートにまとめること。授業で扱った国試問題の解説を作成する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、発表やレポート作成を課す場合もある。ゲストスピーカーを招く回では、手指衛生スキル（手洗い）について体験型の授業を行う。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加態度10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻 3 回で、欠席 1 回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	以下の、「解剖生理学」「臨床医学概論」「病理学」「臨床栄養学Ⅰ」で使用する教科書を用いる。 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） 「はじめの一歩の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	病態生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士の業務に必要な医学知識（臨床検査、がん、免疫）について学ぶ。						
授業の概要	病理学に引き続き、管理栄養士としての業務に必要な、主要疾患の成り立ちについて学ぶ。腫瘍性疾患については、腫瘍の成り立ち（内因および外因）から、全身の腫瘍について特徴、診断、治療を含めて学ぶ。また、免疫系の正常構造を、自然免疫、獲得免疫の違いを中心に学ぶ。さらにはこれらの知識に基づいて、自己免疫疾患やアレルギー疾患について理解を深める。						
到達目標	臨床検査の主要項目について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。 主要臓器の悪性腫瘍（がん）について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。 免疫学の基本事項について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。						
授業計画	1オリエンテーション、免疫学の基礎と病理 1 2免疫学1のつづき（自然免疫、獲得免疫） 3免疫学の基礎と病理2（アレルギー） 4免疫学の基礎と病理3（自己免疫疾患） 5悪性腫瘍1 6悪性腫瘍2 7感染症1 8まとめと中間テスト（第6回までの内容） 9感染症（日和見感染、院内感染など） 10ゲストスピーカーによる感染管理の講義 11女性の正常性周期（月経周期）と婦人科疾患 12内分泌疾患（正常から） 13内分泌疾患（疾患の概要と問題演習） 14臨床検査 15まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、授業で扱うテーマの下調べをすること（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイントを、一回ずつノートにまとめること。授業で扱った国試問題の解説を作成する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、発表やレポート作成を課す場合もある。ゲストスピーカーを招く回では、手指衛生スキル（手洗い）について体験型の授業を行う。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加態度10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	以下の、「解剖生理学」「臨床医学概論」「病理学」「臨床栄養学Ⅰ」で使用する教科書を用いる。 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） 「はじめの一歩の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	病理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	病理学は疾病の本態を理解する学問である。この授業を通して疾患の原因と成り立ちを学ぶ。						
授業の概要	総論では、炎症（急性炎症・慢性炎症）の成り立ち、加齢に伴う個体の変化、疾患に伴う細胞組織の変化、個体の死などについて学ぶ。各論では総論の内容を踏まえて、血液疾患、神経疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、婦人科疾患といった、理解が難しい疾患群について深く理解する。総論の個体の死と関連して、終末期医療の現状や問題点を、医学的側面、さらには栄養学的側面から理解・考察する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。 「炎症」「骨粗鬆症」「月経周期」「炎症性腸疾患」「慢性閉塞性肺疾患」などの重要項目について、文章で説明できるようになる。						
授業計画	1 オリエンテーション、変性 2 加齢に伴う変化 3 炎症 4 腫瘍 5 呼吸器（正常構造と機能） 6 呼吸器疾患 7 ゲストスピーカーによる終末期医療に関する講義 8 まとめと中間テスト 9 運動器疾患（正常機能から） 10 運動器疾患（骨粗鬆症など） 11 皮膚疾患、神経疾患（神経正常含む） 12 神経疾患 13 血液疾患（正常機能から） 14 血液疾患（貧血その他） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて教科書などで下調べをする（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説を作成する。図表を積極的に加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、レポート作成を課す場合もある。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加姿勢10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退席の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「はじめの一步の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社）						
参考書	「ロビンス基礎病理学 原書8版」（Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Nelson Fausto, Richard N. Mitchell; 丸善出版, 2011年）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	病理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	病理学は疾病の本態を理解する学問である。この授業を通して疾患の原因と成り立ちを学ぶ。						
授業の概要	総論では、炎症（急性炎症・慢性炎症）の成り立ち、加齢に伴う個体の変化、疾患に伴う細胞組織の変化、個体の死などについて学ぶ。各論では総論の内容を踏まえて、血液疾患、神経疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、婦人科疾患といった、理解が難しい疾患群について深く理解する。総論の個体の死と関連して、終末期医療の現状や問題点を、医学的側面、さらには栄養学的側面から理解・考察する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。 「炎症」「骨粗鬆症」「月経周期」「炎症性腸疾患」「慢性閉塞性肺疾患」などの重要項目について、文章で説明できるようになる。						
授業計画	1 オリエンテーション、変性 2 加齢に伴う変化 3 炎症 4 腫瘍 5 呼吸器（正常構造と機能） 6 呼吸器疾患 7 ゲストスピーカーによる終末期医療に関する講義 8 まとめと中間テスト 9 運動器疾患（正常機能から） 10 運動器疾患（骨粗鬆症など） 11 皮膚疾患、神経疾患（神経正常含む） 12 神経疾患 13 血液疾患（正常機能から） 14 血液疾患（貧血その他） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて教科書などで下調べをする（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説を作成する。図表を積極的に加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、レポート作成を課す場合もある。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加姿勢10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退席の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「はじめの一步の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社）						
参考書	「ロビンス基礎病理学 原書8版」（Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Nelson Fausto, Richard N. Mitchell；丸善出版、2011年）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	保健統計・疫学						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保健統計及び疫学研究の理解						
授業の概要	健康被害を予防し、健康の増進を図るには、公衆衛生活動の根拠となる情報を正しく読む力が必要である。公衆衛生に係る基幹統計及び調査の概要、疫学の基礎を学ぶとともに、人間集団の健康状態を量的に捉え、解読する方法を習得する。公衆衛生活動の根拠を得るための研究の重要性和研究倫理を理解する。						
到達目標	保健統計（人口統計、傷病統計）及びその調査法を概説できる。 疫学研究の用語、概念、方法論及び研究倫理を理解する。 疫学研究に係る主な指標等を算出し正しく解釈できる。						
授業計画	1. 保健統計の概要、人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 年齢調整死亡率 4. 傷病統計（患者調査、国民生活基礎調査） 5. 死因別死亡 6. 疫学の概念、疫学の方法 7. 疾病頻度 - 指標の解釈 8. 疾病頻度 - 指標の算出 9. 前半まとめ 中間試験 10. 曝露効果の測定 - 指標の解釈 11. 曝露効果の測定 - 指標の算出 12. 疫学研究と倫理 13. スクリーニング - 指標の算出 14. スクリーニング - 指標の解釈 15. まとめ 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読む。 授業後は配布プリントを必ず復習し単語帳に整理する。 計算問題は解けるようになるまで繰り返し行う。 予習・復習各30分程度。						
授業方法	講義 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 講義の理解度等について小テストによる確認を行う。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間試験・期末試験・小テスト90%						
履修上の注意	遅刻・早退を除く出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明がある場合は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	1年次の「社会と健康」, 「健康・環境論」で使用した教科書 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 女子栄養大学出版社						
参考書	国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 公衆衛生マニュアル 2018 南山堂 公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版 日本疫学会 南江堂						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床医学概論						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	解剖生理学で学ぶ人体の正常構造と機能に対応する形で、疾患の基本を学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士が医療チームに加わって傷病者に適切な栄養管理を行うには傷病者の病態や栄養状態の把握が必要である。 解剖生理学で学ぶ「人体の構造と機能」と連携して、おもに疾患の原因と病態、診断と臨床検査、最新の診断・治療についての知識を習得する。 国家試験問題を通して、管理栄養士に必要な臨床医学の知識体系を理解し、身につける。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。						
授業計画	1 オリエンテーション、疾患診断の概要 2 疾患診断の概要1（症候） 3 疾患診断の概要2（検査） 4 疾患診断の概要3（治療法の分類など） 5 疾患診断の概要3（特殊療法、終末期医療など） 6 消化器疾患1（消化管） 7 消化器疾患2（肝胆膵） 8 まとめと中間テスト 9 循環器疾患1（動脈硬化） 10 循環器疾患2（心臓疾患など） 11 腎臓疾患1（糸球体腎炎） 12 腎臓疾患2（腎不全） 13 代謝疾患1（糖尿病） 14 代謝疾患2（その他の代謝疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、該当するテーマの下調べを教科書などを用いて行うこと（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説をノートに作成する。適宜、図なども加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式で行うが、血管や臓器の疾患モデルを用いた体験型授業を行う予定。						
評価基準と評価方法	試験90% 授業への参加姿勢10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻3回で欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退席の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床医学概論						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	解剖生理学で学ぶ人体の正常構造と機能に対応する形で、疾患の基本を学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士が医療チームに加わって傷病者に適切な栄養管理を行うには傷病者の病態や栄養状態の把握が必要である。 解剖生理学で学ぶ「人体の構造と機能」と連携して、おもに疾患の原因と病態、診断と臨床検査、最新の診断・治療についての知識を習得する。 国家試験問題を通して、管理栄養士に必要な臨床医学の知識体系を理解し、身につける。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。						
授業計画	1 オリエンテーション、疾患診断の概要 2 疾患診断の概要1（症候） 3 疾患診断の概要2（検査） 4 疾患診断の概要3（治療法の分類など） 5 疾患診断の概要3（特殊療法、終末期医療など） 6 消化器疾患1（消化管） 7 消化器疾患2（肝胆膵） 8 まとめと中間テスト 9 循環器疾患1（動脈硬化） 10 循環器疾患2（心臓疾患など） 11 腎臓疾患1（糸球体腎炎） 12 腎臓疾患2（腎不全） 13 代謝疾患1（糖尿病） 14 代謝疾患2（その他の代謝疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、該当するテーマの下調べを教科書などを用いて行うこと（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説をノートに作成する。適宜、図なども加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式で行うが、血管や臓器の疾患モデルを用いた体験型授業を行う予定。						
評価基準と評価方法	試験90% 授業への参加姿勢10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻3回で欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社：改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅰ						
担当教員	佐藤 友亮・溝畑 秀隆					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床栄養の目的と具体的な方法の基礎を総合的に修得する。 1. 臨床栄養学に必要な医学的概念を学習する。 2. 臨床栄養学の目的や意義、栄養アセスメントについて学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士として傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や、栄養状態の特徴を理解するために臨床検査値の評価・判定の方法を学ぶ。また医療制度や介護制度を理解し、チーム医療に従事する者として働く時の心構えや役割を理解する。 1-1. 病態の正確な理解に基づく栄養状態の評価、栄養管理の基礎を学ぶ。 1-2. 協同学習を通して、医療現場で重要となる臨床的コミュニケーション能力の基礎を育成する。 2. 傷病者の病態を理解し、栄養評価と栄養療法について学ぶ。						
到達目標	レポート作成を通して、学習テーマの疾患について説明できるようになる。						
授業計画	第1回オリエンテーション（佐藤・溝畑） 第2回協同学習について（導入）、循環器・代謝について（佐藤） 第3回心臓疾患 協同学習（佐藤） 第4回心臓疾患についてのフォローアップ講義（佐藤） 第5回内分泌・運動器疾患 協同学習（佐藤） 第6回内分泌・運動器疾患についてのフォローアップ講義（佐藤） 第7回腎臓疾患 協同学習（佐藤） 第8回腎臓疾患についてのフォローアップ講義（佐藤） 第9回臨床栄養学の目的（溝畑） 第10回阪神・淡路大震災から学ぶ 避難所の栄養（溝畑） 第11回エネルギー摂取量について（溝畑） 第12回チーム医療について（スポーツ栄養含む）（溝畑） 第13回胃腸疾患の栄養管理（溝畑） 第14回がん化学療法における栄養管理（チーム医療含む）（溝畑） 第15回栄養評価と臨床検査（溝畑）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 予習：協同学習のテーマとなる疾患について、教科書などで下調べをする（学習時間：2時間）。 復習：協同学習を行ったテーマについて、レポートの作成（学習時間：2時間）。						
授業方法	【佐藤友亮】 協同学習（ジグソー法）を用いたグループワーク、講義 【溝畑秀隆】 講義、一部グループ学習						
評価基準と評価方法	二人の授業担当者による成績評価を、それぞれ50%ずつで計算し、最終評価とする。 【佐藤友亮・評価基準】 レポート80% 授業への参加姿勢20% 【溝畑秀隆・評価基準】 レポート80% 授業への参加姿勢20%						
履修上の注意	【欠席回数について、十分に注意すること】二人の教員によるオムニバス講義であり、第2回から8回までを佐藤、第9回から15回を溝畑が担当する。第2回から第8回まで、および第9回から第15回までの、それぞれ7回のうちで、欠席が3回以上になつた場合、原則単位取得を認めないので注意すること。 【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 グループ学習を用いた授業を行うので、協調性を持って、積極的に参加すること。グループ学習の進行に支障を来すので、遅刻しないこと。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 授業内容についての質問を歓迎します。 （佐藤）ysatoh[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 （溝畑）mizohata[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます（調べ物などで、携帯電話の使用を認める場合があります）。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						

教科書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「エッセンシャル臨床栄養学」第8版医歯薬出版株式会社 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社 「解剖生理学」などで使用した下記の教科書も用いる。 「人体の構造と生理機能」(原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社) 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」(竹中 優、医歯薬出版株式会社)
参考書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 (坂井 建雄 (編集), 河原 克雅 (編集)、日本医事新報社; 改訂第2版) 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン) http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html (各科目の出題のねらい、大・中・小項目 (p. 7-33))

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅰ						
担当教員	佐藤 友亮・溝畑 秀隆					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床栄養の目的と具体的な方法の基礎を総合的に修得する。 1. 臨床栄養学に必要な医学的概念を学習する。 2. 臨床栄養学の目的や意義、栄養アセスメントについて学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士として傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や、栄養状態の特徴を理解するために臨床検査値の評価・判定の方法を学ぶ。また医療制度や介護制度を理解し、チーム医療に従事する者として働く時の心構えや役割を理解する。 1-1. 病態の正確な理解に基づく栄養状態の評価、栄養管理の基礎を学ぶ。 1-2. 協同学習を通して、医療現場で重要となる臨床的コミュニケーション能力の基礎を育成する。 2. 傷病者の病態を理解し、栄養評価と栄養療法について学ぶ。						
到達目標	レポート作成を通して、学習テーマの疾患について説明できるようになる。						
授業計画	第1回オリエンテーション（佐藤・溝畑） 第2回協同学習について（導入）、循環器・代謝について（佐藤） 第3回心臓疾患 協同学習（佐藤） 第4回心臓疾患についてのフォローアップ講義（佐藤） 第5回内分泌・運動器疾患 協同学習（佐藤） 第6回内分泌・運動器疾患についてのフォローアップ講義（佐藤） 第7回腎臓疾患 協同学習（佐藤） 第8回腎臓疾患についてのフォローアップ講義（佐藤） 第9回臨床栄養学の目的（溝畑） 第10回阪神・淡路大震災から学ぶ 避難所の栄養（溝畑） 第11回エネルギー摂取量について（溝畑） 第12回チーム医療について（スポーツ栄養含む）（溝畑） 第13回胃腸疾患の栄養管理（溝畑） 第14回がん化学療法における栄養管理（チーム医療含む）（溝畑） 第15回栄養評価と臨床検査（溝畑）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 予習：協同学習のテーマとなる疾患について、教科書などで下調べをする（学習時間：2時間）。 復習：協同学習を行ったテーマについて、レポートの作成（学習時間：2時間）。						
授業方法	【佐藤友亮】 協同学習（ジグソー法）を用いたグループワーク、講義 【溝畑秀隆】 講義、一部グループ学習						
評価基準と評価方法	二人の授業担当者による成績評価を、それぞれ50％ずつで計算し、最終評価とする。 【佐藤友亮・評価基準】 レポート80％ 授業への参加姿勢20％ 【溝畑秀隆・評価基準】 レポート80％ 授業への参加姿勢20％						
履修上の注意	【欠席回数について、十分に注意すること】二人の教員によるオムニバス講義であり、第2回から8回までを佐藤、第9回から15回を溝畑が担当する。第2回から第8回まで、および第9回から第15回までの、それぞれ7回のうちで、欠席が3回以上になつた場合、原則単位取得を認めないので注意すること。 【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 グループ学習を用いた授業を行うので、協調性を持って、積極的に参加すること。グループ学習の進行に支障を来すので、遅刻しないこと。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 授業内容についての質問を歓迎します。 （佐藤）ysatoh[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 （溝畑）mizohata[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます（調べ物などで、携帯電話の使用を認める場合があります）。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						

教科書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「エッセンシャル臨床栄養学」第8版医歯薬出版株式会社 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社 「解剖生理学」などで使用した下記の教科書も用いる。 「人体の構造と生理機能」(原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社) 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」(竹中 優、医歯薬出版株式会社)
参考書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 (坂井 建雄(編集)、河原 克雅(編集)、日本医事新報社; 改訂第2版) 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン) http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html (各科目の出題のねらい、大・中・小項目(p.7-33))

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅱ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態の特徴に基づいた、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を修得する。栄養スクリーニング、身体計測、食事調査の方法、栄養必要量の算定法などを学び、総合的な栄養の評価・判定（栄養アセスメント）に必要な知識を得る。次いでそれらを用いて栄養ケア計画を作成し、それを評価、再評価する方法も学ぶ。						
到達目標	各疾患別の病態について、適切な栄養管理（栄養マネジメント）が説明できる。 栄養指導をするにあたり、疾患別の臨床検査値が説明できる。						
授業計画	第1回 臨床栄養学の目的 第2回 栄養障害 第3回 胃・腸疾患 第4回 消化器疾患 第5回 炎症性腸疾患 第6回 肥満と代謝疾患 第7回 各疾患におけるまとめ 第8回 糖尿病 第9回 肝臓疾患 第10回 脂肪肝 第11回 胆石・胆嚢炎 第12回 膵臓疾患他 第13回 脂質異常症 第14回 高尿酸血症 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	講義：各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト10%、平常点（授業の受講態度など）10%、期末テスト80%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学 吉田勉監修、飯嶋正広・今本美幸編（学文社）						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅱ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の身体状況(口腔状態を含む)や栄養状態の特徴に基づいた、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を修得する。栄養スクリーニング、身体計測、食事調査の方法、栄養必要量の算定法などを学び、総合的な栄養の評価・判定(栄養アセスメント)に必要な知識を得る。次いでそれらを用いて栄養ケア計画を作成し、それを評価、再評価する方法も学ぶ。						
到達目標	各疾患別の病態について、適切な栄養管理(栄養マネジメント)が説明できる。 栄養指導をするにあたり、疾患別の臨床検査値が説明できる。						
授業計画	第1回 臨床栄養学の目的 第2回 栄養障害 第3回 胃・腸疾患 第4回 消化器疾患 第5回 炎症性腸疾患 第6回 肥満と代謝疾患 第7回 各疾患におけるまとめ 第8回 糖尿病 第9回 肝臓疾患 第10回 脂肪肝 第11回 胆石・胆嚢炎 第12回 膵臓疾患他 第13回 脂質異常症 第14回 高尿酸血症 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト10%、平常点(授業の受講態度など)10%、期末テスト80%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学 吉田勉監修、飯嶋正広・今本美幸編（学文社）						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅲ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	傷病者の栄養アセスメントについて理解						
授業の概要	傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に基づいたベッドサイドでの栄養補給の方法について、具体的な栄養剤の種類と成分、投与ルート（腸栄養補給・静脈栄養補給など）などを修得する。さらに栄養補給に際して用いたい食品と医薬品の相互作用についての基礎知識を修得する。						
到達目標	各疾患の適切な栄養アセスメントが説明できる。 栄養指導ができる。						
授業計画	第1回 臨床栄養の意義 第2回 傷病者の栄養アセスメント 第3回 傷病者・要介護者への栄養教育など 第4回 医療・介護保険制度 第5回 栄養ケア計画と実施 第6回 チーム医療（クリニカルパス） 第7回 チーム医療（糖尿病など症例） 第8回 栄養状態の評価法 第9回 血液・生化学検査（臨床検査値） 第10回 まとめ 第11回 経口栄養補給法 第12回 静脈栄養補給法 第13回 薬と栄養・食事の相互作用 第14回 栄養ケアの記録 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	講義：各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト20%、期末試験80%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	・食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学（学文社）を使用する。（新規購入は不要）						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅲ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	傷病者の栄養アセスメントについて理解						
授業の概要	傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に基づいたベッドサイドでの栄養補給の方法について、具体的な栄養剤の種類と成分、投与ルート（腸栄養補給・静脈栄養補給など）などを修得する。さらに栄養補給に際して用いたい食品と医薬品の相互作用についての基礎知識を修得する。						
到達目標	各疾患の適切な栄養アセスメントが説明できる。 栄養指導ができる。						
授業計画	第1回 臨床栄養の意義 第2回 傷病者の栄養アセスメント 第3回 傷病者・要介護者への栄養教育など 第4回 医療・介護保険制度 第5回 栄養ケア計画と実施 第6回 チーム医療（クリニカルパス） 第7回 チーム医療（糖尿病など症例） 第8回 栄養状態の評価法 第9回 血液・生化学検査（臨床検査値） 第10回 まとめ 第11回 経口栄養補給法 第12回 静脈栄養補給法 第13回 薬と栄養・食事の相互作用 第14回 栄養ケアの記録 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	講義：各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト20%、期末試験80%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	・食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学（学文社）を使用する。（新規購入は不要）						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅳ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた適切な食事療法・栄養補給などの栄養ケア計画・実施・評価・フィードバックの方法を修得する。 疾患としては代謝疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患、貧血などの血液系を、ライフステージとしては乳幼児・小児・妊産婦・授乳婦・更年期・高齢期を対象として、それぞれに必要な栄養ケアプランについて具体的に修得する。						
到達目標	各疾患、病態に対して適切な栄養管理(栄養マネジメント)を理解することができる。 医療機関などにおいて、疾患の治療や予防に必要な栄養管理を理解することができる。						
授業計画	第1回 糖尿病・肥満 第2回 脂質異常症 第3回 高尿酸血症 第4回 循環器疾患（高血圧） 第5回 循環器疾患（動脈硬化） 第6回 各疾患まとめ 第7回 腎・尿路疾患 第8回 内分泌疾患（甲状腺機能亢進症） 第9回 摂食障害 第10回 呼吸器疾患・血液疾患（貧血） 第11回 骨粗鬆症疾患(ゲストスピーカー) 第12回 アレルギー疾患 第13回 手術・周術期患者の管理（術前・術後） 第14回 摂食機能障害 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んでください。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト20%、期末試験80%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学（学文社）（新規購入は不要）						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学Ⅳ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた適切な食事療法・栄養補給などの栄養ケア計画・実施・評価・フィードバックの方法を修得する。 疾患としては代謝疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患、貧血などの血液系を、ライフステージとしては、小児・更年期・高齢期を対象として、それぞれに必要な栄養ケアプランについて具体的に修得する。						
到達目標	各疾患、病態に対して適切な栄養管理(栄養マネジメント)を理解することができる。 医療機関などにおいて、疾患の治療や予防に必要な栄養管理を理解することができる。						
授業計画	第1回 糖尿病・肥満 第2回 脂質異常症 第3回 高尿酸血症 第4回 循環器疾患（高血圧） 第5回 循環器疾患（動脈硬化） 第6回 各疾患まとめ 第7回 腎・尿路疾患 第8回 内分泌疾患（甲状腺機能亢進症） 第9回 摂食障害 第10回 呼吸器疾患・血液疾患（貧血） 第11回 骨粗鬆症疾患(ゲストスピーカー) 第12回 アレルギー疾患 第13回 手術・周術期患者の管理（術前・術後） 第14回 摂食機能障害 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト20%、期末試験70%、平常点10%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学（学文社）（新規購入不要）						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版））新規購入不要						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学実習Ⅰ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3～4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理解						
授業の概要	栄養スクリーニング、臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査の方法、栄養所要量算定など、ケアプランに必要な知識・技術を実習を通じて修得し、それらを使い栄養ケアの作成、実施、疾病者の栄養教育実習などを行う。さらに傷病者の状況に対応した食事の形態の適用やカウンセリングの方法など具体的手法についても学ぶ。ベッドサイドの栄養指導については、チーム医療に基づいて実習し、病院での臨床実習において実際に学ぶための基礎学力をつける。						
到達目標	糖尿病交換表、腎臓病交換表を用いて、栄養指導ができる。 臨床検査値に基づいて、栄養マネジメントができる。						
授業計画	第1回 栄養アセスメント（身体測定） 第2回 ベッドサイド栄養指導法 第3回 糖尿病交換表の説明 第4回 糖尿病交換表を用いた栄養アセスメント 第5回 糖尿病交換表を用いた栄養指導 第6回 糖尿病交換表を用いた献立作成 第7回 カーボカウントの説明 第8回 腎臓病交換表説明 第9回 腎臓病交換表を用いた栄養アセスメント 第10回 疾患別の栄養指導（検査値） 第11回 疾患別の栄養指導（検査値） 第12回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第13回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第14回 疾患別の栄養指導のまとめ 第15回 栄養マネジメントのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題・レポート50%、平常点50%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に進めるが、実践に即した実習を行う。						
教科書	・糖尿病食事療法指導のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編（日本糖尿病協会・文光堂） ・腎臓病食品交換表 第9版 黒川清監修・中尾俊之他編（医歯薬出版）						
参考書	・看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版 医歯薬出版（株）新規購入不要						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学実習Ⅰ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理解						
授業の概要	栄養スクリーニング、臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査の方法、栄養所要量算定など、ケアプランに必要な知識・技術を実習を通じて修得し、それらを使い栄養ケアの作成、実施、疾病者の栄養教育実習などを行う。さらに傷病者の状況に対応した食事の形態の適用やカウンセリングの方法など具体的手法についても学ぶ。ベッドサイドの栄養指導については、チーム医療に基づいて実習し、病院での臨床実習において実際に学ぶための基礎学力をつける。						
到達目標	糖尿病交換表、腎臓病交換表を用いて、栄養指導ができる。 臨床検査値に基づいて、栄養マネジメントができる。						
授業計画	第1回 栄養アセスメント（身体測定） 第2回 ベッドサイド栄養指導法 第3回 糖尿病交換表の説明 第4回 糖尿病交換表を用いた栄養アセスメント 第5回 糖尿病交換表を用いた栄養指導 第6回 糖尿病交換表を用いた献立作成 第7回 カーボカウントの説明 第8回 腎臓病交換表説明 第9回 腎臓病交換表を用いた栄養アセスメント 第10回 疾患別の栄養指導（検査値） 第11回 疾患別の栄養指導（検査値） 第12回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第13回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第14回 疾患別の栄養指導のまとめ 第15回 栄養マネジメントのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業内容を簡単に整理し、要点をまとめてください。栄養指導法が理解できます。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題・レポート50%、平常点50%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に進めるが、実践に即した実習を行う。						
教科書	・糖尿病食事療法指導のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編（日本糖尿病協会・文光堂） ・腎臓病食品交換表 第9版 黒川清監修・中尾俊之他編（医歯薬出版）						
参考書	・看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版 医歯薬出版（株）新規購入不要						

[illegible]

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨床栄養学実習Ⅱ						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	木曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	疾患別における栄養アセスメントの理解						
授業の概要	治療食を作成するために必要な知識と技術を実習することにより修得する。傷病者の治療において治療食が重要な位置を占める疾患(糖尿病、脂質異常症、胃腸疾患、肝肝疾患、腎疾患、アレルギー疾患)など栄養補助食品の使用方法も含めて実習する。また特別を要する傷病者の具体的な栄養管理方法について学ぶ。実習では、実際に治療食を作成し、より深く理解できるようにする。						
到達目標	疾患別における栄養管理法、栄養補助食品の考え方について理解できる。						
授業計画	第1回 摂食障害時の栄養療法、栄養指導方法、臨床調理の考え方 第2回 実習（トロミ剤・嚥下困難食） 第3回 軟菜食の栄養療法、栄養指導方法 第4回 実習（流動食・軟食） 第5回 高血圧食の栄養療法、栄養指導方法 第6回 実習（減塩食） 第7回 エネルギーコントロール食の栄養療法、栄養指導方法 第8回 実習（糖尿病食、人工甘味料） 第9回 その他の栄養素の栄養療法、栄養指導方法 第10回 実習（貧血食など） 第11回 たんぱく質コントロール食の栄養療法、栄養指導方法 第12回 実習（腎臓病食） 第13回 脂質コントロールの栄養療法、栄養指導方法 第14回 実習（脂質制限食） 第15回 臨床調理のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業計画に沿って内容を調べておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題・レポート30%、平常点70%で総合評価する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）						
教科書	『実践 臨床栄養学実習 一栄養食事療法と献立の展開一』（第一出版） 編著者 長浜 幸子、西村 一弘、宮本 佳世子、ISBN 978-4-8041-1337-1						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地・校外実習課外科目						
担当教員	橘・溝畑・千歳・作田					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	0.0
授業のテーマ	臨地・校外実習の事前・事後指導						
授業の概要	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習の実践的経験を通して定着化し、レベルアップが図れるよう一人ひとりと学生に支援することを目的とする。本実習受け入れ施設の社会における機能（使命）、特徴を学び臨地・校外実習課題を考え実習計画を個々に作成し検討する。						
到達目標	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習で応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	○公衆栄養学コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は19回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。 ○給食経営管理論コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（給食経営管理論）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は16回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・時間外の指導やグループ作業が必要になることがあります。 ・臨地・校外実習の実習課題（臨床栄養学分野も含む）のまとめは「総合演習」で行います。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	・「臨地・校外実習課外科目」の理由のない欠席やレポート未提出の場合には、「校外実習」および「臨地実習」の履修資格要件を満たさないものとする。 なお、それぞれの実習の履修要件となる授業は別に指定し、プリントで配布します。 ・「臨地・校外実習課外科目」は単位化されないため、課外科目中に提出したレポート等の評価は「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」および「臨地実習（給食経営管理論）」として評価を行う。						
履修上の注意	・臨地・校外実習課外科目は、卒業単位には算入されないが、臨地・校外実習の履修資格要件となる。 ・3年次に校外実習を履修せずに臨地実習を履修する人は、ガイダンスおよび別に指定する授業を受けることが望ましい。 ・コースは3年前期に選択します。3年後期の指定した授業から「公衆栄養学」選択クラスと「給食経営管理論」選択クラスに分かれて授業を行います。 ・P Cを使用することがあります。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地・校外実習課外科目						
担当教員	橘・溝畑・千歳・作田					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	臨地・校外実習の事前・事後指導						
授業の概要	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習の実践的経験を通して定着化し、レベルアップが図れるよう一人ひとりと学生に支援することを目的とする。本実習受け入れ施設の社会における機能（使命）、特徴を学び臨地・校外実習課題を考え実習計画を個々に作成し検討する。						
到達目標	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習で応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	○公衆栄養学コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は19回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。 ○給食経営管理論コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（給食経営管理論）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は16回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・時間外の指導やグループ作業が必要になることがあります。 ・臨地・校外実習の実習課題（臨床栄養学分野も含む）のまとめは「総合演習」で行います。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	・「臨地・校外実習課外科目」の理由のない欠席やレポート未提出の場合には、「校外実習」および「臨地実習」の履修資格要件を満たさないものとする。 なお、それぞれの実習の履修要件となる授業は別に指定し、プリントで配布します。 ・「臨地・校外実習課外科目」は単位化されないため、課外科目中に提出したレポート等の評価は「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」および「臨地実習（給食経営管理論）」として評価を行う。						
履修上の注意	・臨地・校外実習課外科目は、卒業単位には算入されないが、臨地・校外実習の履修資格要件となる。 ・3年次に校外実習を履修せずに臨地実習を履修する人は、ガイダンスおよび別に指定する授業を受けることが望ましい。 ・コースは3年前期に選択します。3年後期の指定した授業から「公衆栄養学」選択クラスと「給食経営管理論」選択クラスに分かれて授業を行います。 ・P Cを使用することがあります。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地実習（給食経営管理論）						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	給食全般のマネジメントができるように視野を広げ、特定の業務を深く探求する実習。						
授業の概要	実践活動の場での課題発見、解決を通して栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。						
到達目標	各種の給食施設のシステムについて課題を挙げ、課題について調査した内容を発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	臨地実習（5日間） 1日目 給食システムの概要 2日目 研究課題の計画 3日目 給食施設の衛生管理 4日目 研究課題の整理と検討 5日目 研究課題の発表と意見交換						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実習期間外に実習施設との打ち合わせおよび研究課題の準備が必要になります。						
授業方法	実習（学外） 講義と演習						
評価基準と評価方法	実習施設の評価50% 研究課題（実習ノートの記録）25% 報告会（配布資料の作成・プレゼンテーション）25%						
履修上の注意	連絡や報告には、manabaを使用する。 実習施設ならびに教員、実習メンバー間の連絡・報告・相談を徹底すること。 「臨地・校外実習課外科目（集中講義）」の「臨地実習（給食経営管理論）」の履修要件となっている授業への出席が必要です。 35～45時間の臨地実習（給食経営管理論）および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。 実習期間および打ち合わせ時の交通費は自己負担となる。 実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。						
教科書	実習ノートを配布する。 以下全て購入済み エssenシャル給食経営管理論 富岡和夫・富田教代（医歯薬出版） 給食経営管理実習ワークブック 藤原政嘉ほか（みらい） 改訂新版 大量調理－品質管理と調理の実際－、殿塚婦美子（学建書院）						
参考書	新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社） イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地実習（公衆栄養学）						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保健所および保健センターの管理栄養士業務						
授業の概要	本実習は、管理栄養士課程専門科目の科目として都道府県における行政栄養士の業務について実習し、保健医療福祉専門職種としての管理栄養士の責務・役割を学ぶ。具体的には、 （１）地域等の健康・栄養問題とその要因について管内の情報収集・分析を行い、 （２）実施提供されているプログラムについての根拠や、計画・実施・評価等から栄養関連サービスに必要な理論と方法を修得する。またプログラムに必要な、 （３）他職種や地域住民・組織など社会資源との連携、調整について学ぶ。						
到達目標	都道府県における行政栄養士の業務、責務・役割を理解し、公衆栄養活動が実践できる。						
授業計画	課外授業 第1回 臨地実習の概要、目的、内容 第2回 課題の実施、発表 第3回 課題の実施、発表 第4回 課題の実施、発表 第5回 学内および実習先課題の実施 第6回 学内反省会の準備 実習施設での実習（５日間） 1日目 集中講義 2日目 栄養関連事業の演習・課題の作成 3日目 栄養関連事業の演習・課題の作成 4日目 栄養関連事業の演習・課題の実施 5日目 反省会・まとめ 総合演習 第15回で学内報告会を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	栄養士関連法規・法律について理解しておくこと。 実習施設の管轄地域について学習しておくこと。						
授業方法	講義、演習、実習						
評価基準と評価方法	平常点 5% 実習 50%（実習指導者による実習中の評価を含む） 事前事後指導、事前課題への取り組み、報告会および実習ノートの記録等の評価 45% 実習日数の不足、課外授業の欠席やレポート未提出の場合には単位を認めない。						
履修上の注意	・「臨地・校外実習課外科目（集中講義）」の「臨地実習（公衆栄養学）」の履修要件となっている授業への出席が必要です。履修要件となる授業は、別にプリントで指定します（臨地・校外実習課外科目は、単位化されません）。 ・30～45時間の臨地実習（公衆栄養学）の学修および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。 ・実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。 ・3年後期の選択必修科目「データ・処理演習」を履修することが望ましい。 ・実習期間中の交通費（1日1500円以上）及び宿泊費（宿泊を伴う場合のみ）は、大学側が負担する。ただし、打ち合わせ時の交通費は自己負担となる。						
教科書	現場で役立つ公衆栄養学実習 同文書院（2015年3月）（3年後期公衆栄養学実習で使用するため新たに購入の必要なし）						
参考書	日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版） 国民衛生の動向2018年版（公衆衛生協会） 管理栄養士栄養士必携：データ・資料集（第一出版）						

科目区分	生活学科専門教育科目（食物栄養専攻）						
科目名	臨地実習（臨床栄養学）						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバー	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	病院の管理栄養士業務について理解する。						
授業の概要	病院臨地実習は、課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図る。大学で習得した知識・技術を病院実習することにより、理論と実践を理解する。						
到達目標	栄養マネジメントの方法について理解する。						
授業計画	・病院における10日間の臨地実習は、指導責任者の指示に基づいて行う。 ・病院実習における事前指導、事後指導を行う。 ・病院実習の報告会を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実習前学習:課外科目について、別途指示します。 実習後学習:実習で理解(解決)できなかった問題点を解説します。						
授業方法	事前指導、事後指導、病院における10日間の臨地実習						
評価基準と評価方法	実習施設の評価点50%、事前・事後指導の受講態度20%、実習ノート30%から総合評価する。						
履修上の注意	・臨地・校外実習課外科目の臨床栄養学の履修要件となっている授業に出席すること。（臨地・校外実習課外科目は、単位化されない。） ・90時間の臨地実習（臨床栄養学）および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。 ・実習期間中の欠席は、原則認めない。 ・事前訪問、実習期間中の交通費は自己負担となる。 ・病院実習を行う者は、抗体価検査において麻疹・風疹・水痘・ムンプス・HBs抗原など抗体を有していることを確認し、証明書を共同研究室に提出しなければならない。尚、陰性及び「抗体価陽性(基準を満たさない)」の場合は、ワクチン接種が必要である。ワクチン接種は自己負担とする。 ・実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。						
教科書	適宣プリントを配布する。						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）						